富田林市埋蔵文化財調査報告25

甲田南遺跡

1994.3

富田林市

『甲田南遺跡』正誤表

頁	行	誤	正
例言	L. 10	福永信雄(東大阪市教育委員会)・阿部幸一	福永信雄氏(東大阪市立郷土博物館)・阿部幸一氏
P. 48	L. 7	家形埴輪の一部と草摺部分がある。	家形埴輪と人物埴輪の一部がある。

はじめに

富田林市は大阪府の南東部に位置し、東を金剛・葛城連山に西を羽曳野丘陵に囲まれた自然豊かな地の中央を石川が南から北に清流を保ちながら流れています。この石川によって形成された河岸段丘上に数多くの旧石器時代から近世に至る遺跡が営まれています。

富田林市域の中でも、石川の西岸は特に集落遺跡が多く立地する地域です。

ここに報告いたします甲田南遺跡は、石川西岸の市域のほぼ中央部に位置し、市内でも鉄器をもつ弥生集落として注目される遺跡です。また、遺跡内には、石川中流域では数少ない古墳時代中期の川西古墳が営まれ、縄文時代から中世に至る複合遺跡として位置付けれれています。

本書が、かつて存在した川西古墳の内容を知る貴重な資料となれば幸いです。

最後になりましたが、調査の実施ならびに本書作成にあたってご協力賜りました関係各位に厚く御礼申し上げるとともに、今後とも本市の文化財行政に一層のご支援をいただきますようお願い申し上げます。

平成6年3月

富田林市長

内田次郎

例　　言

1．本書は、富田林市教育委員会が富田林市建設部建築課の依頼を受けて実施した、市営甲田住宅建替え工事に伴う発掘調査の調査概要報告書である。

2．調査は、富田林市教育委員会社会教育課中辻　亘と田川友美を担当者とし、平成３年年度に第１次調査を、続いて平成４年度に第２次調査を実施した。また、報告書作成に伴う整理作業は、平成３年度から５年度にかけて行った。

3．調査を実施するにあたり、福永信雄（東大阪市教育委員会）・阿部幸一（大阪府教育委員会）・河内浩一氏（羽曳野市教育委員会）・上田睦氏（藤井寺市教育委員会）・中野篤史氏（八尾市文化財調査会）から格別の助言や援助を受けた。

ここに記して感謝いたします。

4．本書の執筆は、各文末に記する者があたった。編集は中辻と田川が行った。なお、遺物写真については中西和子女史の援助を受けた。

《調査参加者》

調　査　員　　粟田　薫・楠木理恵

調査補助員　　伊藤三和・岩井由佳・大平玉緒・川合和代・九野せゑぬ
頃安敏雄・竹川尚子・田部晋介・頓宮貴美恵・長尾　圭
平方扶左子・廣野知子

作　業　員　　麻野光一・岩井節子・小田信代・桑野　清・佐藤　勇
永江満徳・長崎輝男・西澤寿子・西山正治・原田亮子
藤丸祐子・前野美智子・宮園満雄・矢野早苗・山本節子

本文目次

はじめに
例言

Ⅰ　調査に至る経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅱ　位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅲ　層序及び遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　1．層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　2．遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
Ⅳ　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
　1．遺構出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
　2．包含層出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
　3．溝1・2出土埴輪・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
Ⅴ　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
　1．調査の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
　2．川西古墳の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
　　1．古墳の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
　　2．古墳周辺の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
　　3．古墳の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
　　4．古墳の形態と規模・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
　　5．古墳の年代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
　　6．古墳の性格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54

挿図目次

挿図1　調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
挿図2　調査区周辺遺跡分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
挿図3　Ⅰ区南壁東半断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
挿図4　溝2断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
挿図5　落ち込み1遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
挿図6　溝1出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
挿図7　溝1出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
挿図8　溝2出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
挿図9　落ち込み1・土壙2出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
挿図10　建物・ピット出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
挿図11　包含層出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
挿図12　溝1出土円筒埴輪・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
挿図13　溝1出土円筒埴輪・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
挿図14　溝2出土円筒埴輪・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

挿図15　川西古墳周辺調査区位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
挿図16　調査区４　埴輪棺１・２　平面図・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
挿図17　埴輪棺１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
挿図18　埴輪棺２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
挿図19　埴輪棺２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

表　目　次

表１　土壙一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９～10
表２　掘立柱建物ピット一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
表３　ピット一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11～20
表４　土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40～43
表５　円筒埴輪観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
表６　埴輪棺１・２　円筒埴輪・朝顔形埴輪観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56

付　図　目　次

遺構平面図

図　版　目　次

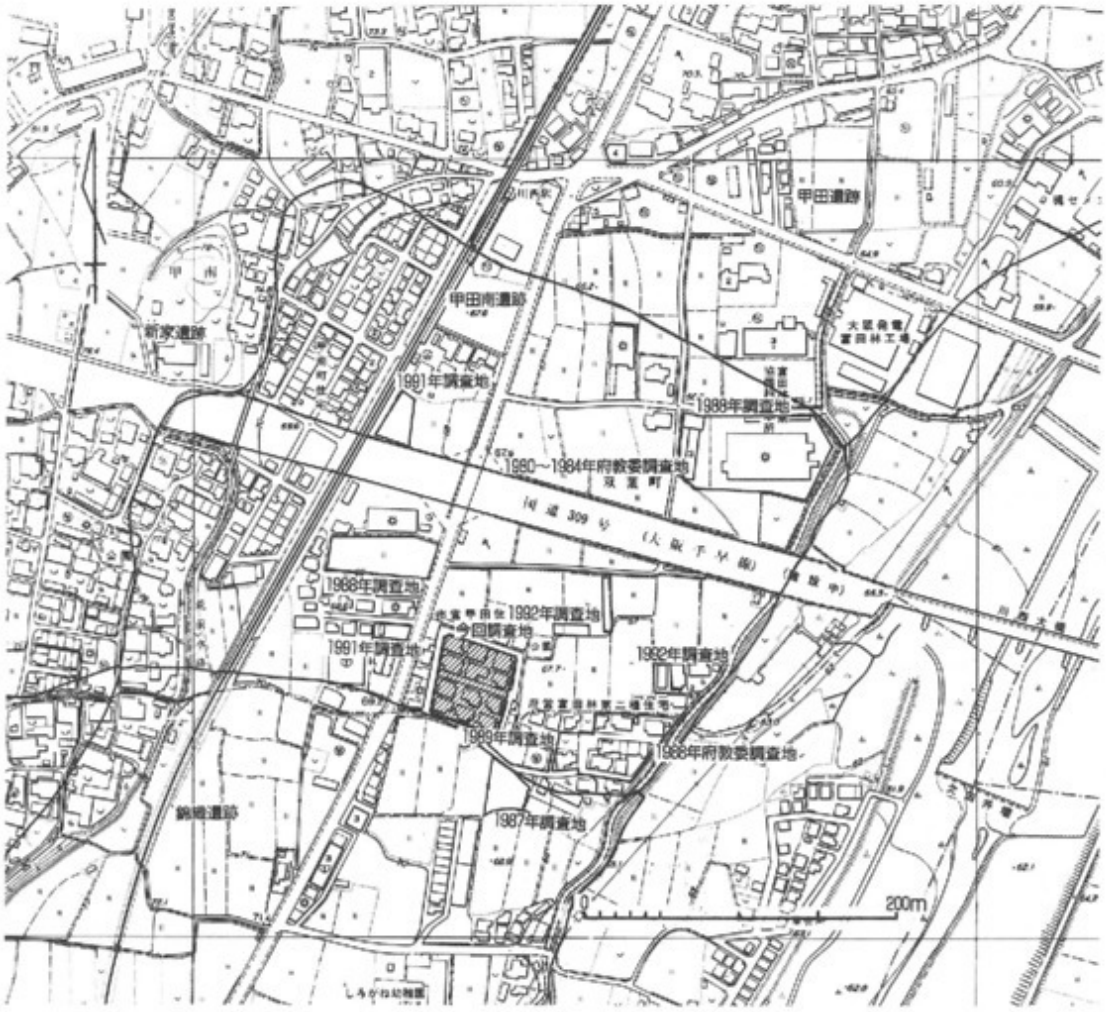
図版１（上）甲田南遺跡周辺航空写真（南から）
　　（下）同上（西から）
図版２（上）91年度調査地全景（西から）
　　（下）同上（北から）
図版３（上）Ⅰ区西半全景（東から）
　　（下）Ⅰ区東半全景（西から）
図版４（上）Ⅱ区全景（西から）
　　（下）同上（北から）
図版５（上）Ⅲ区西半全景（東から）
　　（下）Ⅲ区東半全景（東から）
図版６（上）Ⅳ区全景（西から）
　　（下）同上（東から）
図版７（上）　Ⅴ区全景（南から）
　　（下）同上（北から）
図版８（上）溝２（西北から）
　　（下）溝２断面（北から）
図版９（上）溝１遺物出土状況（西から）
　　（下）落ち込み１遺物出土状況（北から）
図版10　溝１・２出土遺物
図版11　溝１・２出土遺物
図版12　落ち込み１出土遺物
図版13　土壙２・ピット出土遺物
図版14　包含層出土遺物
図版15　溝１出土円筒埴輪
図版16　溝１出土円筒埴輪
図版17　溝２出土円筒埴輪
図版18　錦織遺跡　埴輪棺１
図版19　錦織遺跡　埴輪棺２
図版20　錦織遺跡　埴輪棺２
図版21　錦織遺跡　埴輪棺２

Ⅰ　調査に至る経過

甲田南遺跡は、昭和50(1975)年に遺跡のほぼ中央を東西に通る国道309号線（大阪千早線）の予定地内において、都市下水路築造工事の際に発見され、その後の調査で、縄文時代から中世に至る複合遺跡として周知されてきた。

今回は、遺跡の南部に位置する市営甲田住宅の老朽化に伴い、木造平屋建て住宅を鉄筋コンクリート造の中層住宅に建替える工事に先立ち、発掘調査を実施することになった。調査対象は、建物部分、防火水槽および浄化槽部分の約1280㎡とした。富田林市建設部建築課と協議の結果、現地調査は、第１次調査として建物部分を平成３年８月に実施し、その他の部分を平成５年３月に第２次調査として行うこととなった。

（中辻　亘）



挿図１　調査地位置図

Ⅱ　位置と環境

富田林市のほぼ中央部、南甲田の南部から双葉町にかけて広がる甲田南遺跡は、石川西岸の羽曳野丘陵と石川との間に形成された河岸段丘上に位置している。

この遺跡は、昭和50（1975）年に遺跡のほぼ中央を東西に通る国道309号線（大阪千早線）の予定地内において、都市下水路築造工事の際に発見された。その後、昭和55～59（1980～1984）年にかけて国道309号線築造工事に伴う本格的な発掘調査が大阪府教育委員会によって行われた。その結果、縄文時代後期の土器や弥生時代中期の竪穴住居址群や古墳時代から中世の遺構が検出され、縄文時代から中世に至る複合遺跡であることが周知されることとなった。[註1]

本遺跡の立地する石川中流域で最も古い時代の遺跡は先土器時代のものである。生活の痕跡をうかがえる遺構は確認されていないが、ナイフ形石器などが出土している。

縄文時代の遺跡は、南に接する錦織遺跡で縄文時代前期の土器が出土しており、南方にある錦織南遺跡では後期から晩期の土器が出土している。[註2]後期・晩期については、甲田南遺跡が立地する石川西岸の遺跡からも確認されている。

つづく弥生時代の遺跡は、縄文時代と同様に営まれ、中期の竪穴住居址が検出されている。また、石川を挟んで東方の中位段丘から丘陵にかけて後期の高地性集落が営まれる。

古墳時代には、石川を望む丘陵の縁辺に前期および後期にかけて古墳が点在して営まれる。また、終末期の古墳も同様である。中期に属する古墳は少なく、本遺跡周辺に3基確認されているのみである。甲田南遺跡内にある川西古墳は、調査地の市営甲田住宅の東、以前は町村組合経営の病院の敷地で、現在は府営住宅の一角にあったといわれ、明治維新前に一度発掘され、のち1928年の敷地整備の際に墳丘が消滅したとされている。この際に末永雅雄氏によって見取り図が作られている。それによると、直径約20m、高さ3mほどの円墳で、中段に一重の円筒埴輪列を巡らせ、墳丘中央部に小竪穴式石室状の内部構造を持つ。内部から鉄製の眉庇付冑・短甲と鉄刀・剣などが出土したことが確認されている。副葬品の中に眉庇付冑が含まれていたことから古墳の年代を5世紀中葉から後半にかけての比較的限られた時期に属すると考えられる。[註3]一方、集落跡については現在のところ後期から終末期のものが確認されているのみである。

歴史時代に入ると古代寺院が複数営まれ、仏教文化の受容が強かったことがうかがえる。飛鳥時代に創建された新堂廃寺をはじめ、本遺跡の南方には白鳳時代から平安時代の寺院址である錦織廃寺・細井廃寺があって、寺院周辺に集落が営まれていたことが確認されている。

これ以降、中世から近世にかけての集落跡が、現在の旧集落が立地する地域に重複して見られることから、中世には集落が集約され、現在に至っていることが推測できる。

（田川友美・中辻　亘）

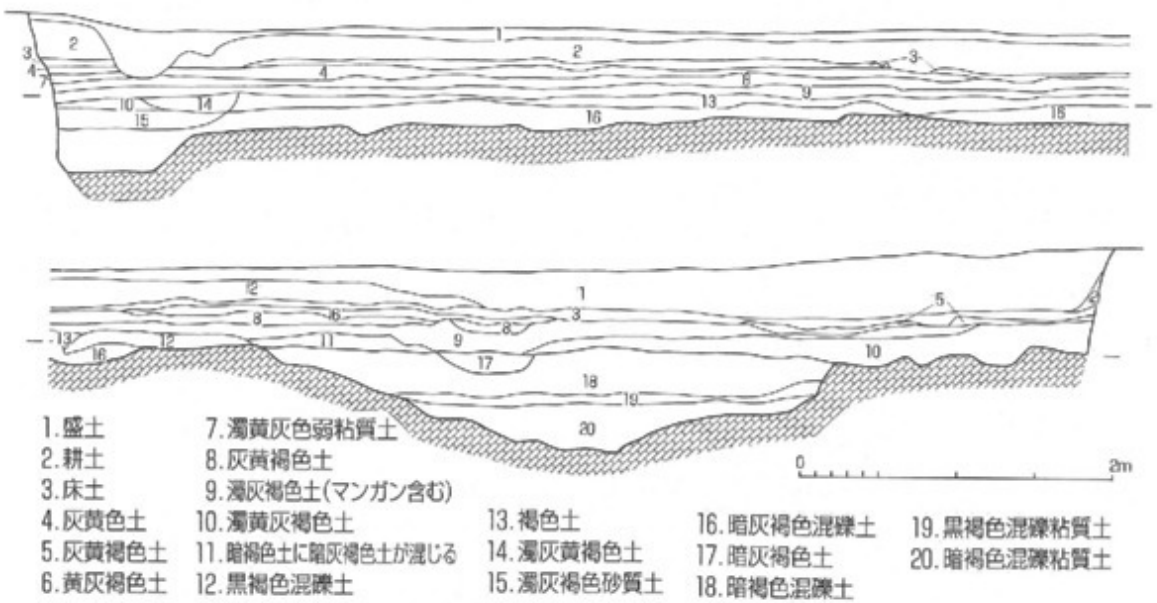
挿図2　調査区周辺遺跡分布図

Ⅲ　層序及び遺構

1．層　　序

調査区の基本的な層序は上から順に盛土、第１層（耕土）、第２層（床土）、第３層（旧耕土）、第４層（旧床土）、第５～８層（古墳時代から中世の遺物を含む包含層）が堆積している。調査区の地形は調査区の東側を北流する石川に向かって緩やかに傾斜しているため、西側では第１層から第５層まで、東側では第１層から８層が確認できる。西側では耕土（第１層）が約22cm、床土が（第２層）約４cm、灰黄色土（第３層）が約６cmがほぼ水平に堆積し、濁黄灰色弱粘質土（第４層）が約２～６cmの厚さでところどころで確認できる。その下に濁黄灰褐色土およびマンガンを含む灰褐色土（第５層）が約10cmが堆積している。東側では耕土（第１層）が約25cm、床土（第２層）が約４cm、灰黄色土・灰黄褐色土および黄灰褐色土（第３層）が約４～８cmが水平に堆積し、濁黄灰色弱粘質土（第４層）が約４cmがところどころで確認できる。灰黄褐色土（第５層）が約10cm、マンガンを含む濁灰褐色土・濁黄灰褐色土・暗灰褐色土が混じる暗褐色土・黒褐色混礫土・褐色土・濁灰黄褐色土・濁灰褐色砂質土（第６・７層）が約20cm～30cm堆積する。第５層から第７層で出土した遺物の中にはそれぞれ接合できる資料があり、第５層から７層は時期差は無いものと考えられ、旧水田造成時の整地層と推測される。さらに調査区の南東約１/３のところでは、暗灰褐色混礫土（第８層）が約10～30cmの厚さで堆積している。

（田川）



挿図３　Ⅰ区南壁東半断面図

2．遺　構

検出した遺構は、溝・落ち込み・土壙・建物・ピットなどがある。以下、遺構ごとに記述する。

溝

溝は７条検出した。

溝１

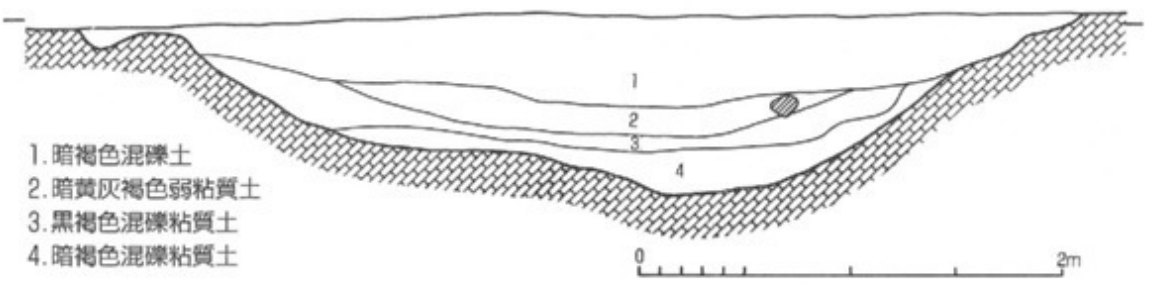
Ｖ区東端で検出した南西から北東へ流れる溝である。西側の肩部長さ約10.5m、幅4.6m分を検出した。深さは約0.9mを測る。埋土は上層が暗褐色混砂礫弱粘質土、下層に黒褐色混礫粘質土（0.2～0.5m大の礫）が堆積している。両層から古墳時代から奈良時代の土器や約110個体分の円筒埴輪片が出土している。

溝２

Ｉ区東半からⅡ区中央で検出し、溝１の西側約９ｍのところを南西から北東へ併行して流れる溝である。長さは約20m分を検出し、幅は約3.5～7.0mを測る。深さは約0.5～1.1mを測り、比高差が約0.7mあり、北に流れる。埋土は第１層が暗褐色混礫土、第２層が暗黄灰褐色弱粘質土、第３層は黒褐色混礫粘質土、第４層は暗褐色混礫粘質土が堆積するが、第２層は部分的に堆積している。各層から古墳時代から奈良時代の土器や約30個体分の円筒埴輪片が出土している。

溝３

Ｉ区中央部南側で検出した東西方向の溝である。長さ約4.7m分を検出し、幅約0.65mを測る。深さは約0.3mを測り、比高差は約0.1mあり東に流れる。埋土は濁黄灰褐色土である。遺物は検出されなかった。



挿図４　溝２断面図

溝4

Ⅰ区中央部北側で検出した南北方向の溝である。長さ約3.4m分を検出し、さらに調査区外に延びる。幅約0.5～1.9m、深さは約0.2mを測り、比高差は約0.3mあり北に流れる。埋土は濁黄灰褐色土である。遺物は土師器・須恵器が出土している。

溝5

Ⅲ区中央部で検出した南北方向の溝である。長さ約5.9m分を検出し、幅約0.4～0.75mを測る。深さは約0.22mを測り、比高差は約0.14mあり南に流れる。埋土は濁黄灰褐色土である。遺物は検出されなかった。

溝6

Ⅲ区中央部南側で検出した東西方向の溝である。長さ約4.4m分を検出し、幅約0.25～0.7mを測る。深さは約0.45mを測り、比高差は約0.12mあり東に流れる。埋土は濁黄灰褐色土である。遺物は土師器が出土している。

溝7

Ⅱ区南西隅で検出した南北方向の溝である。長さ約1.4m分を検出し、幅約0.3～0.4mを測る。深さは約0.11mを測り、比高差は約0.06mあり南に流れる。埋土は暗灰褐色混礫土である。遺物は検出されなかった。

落ち込み

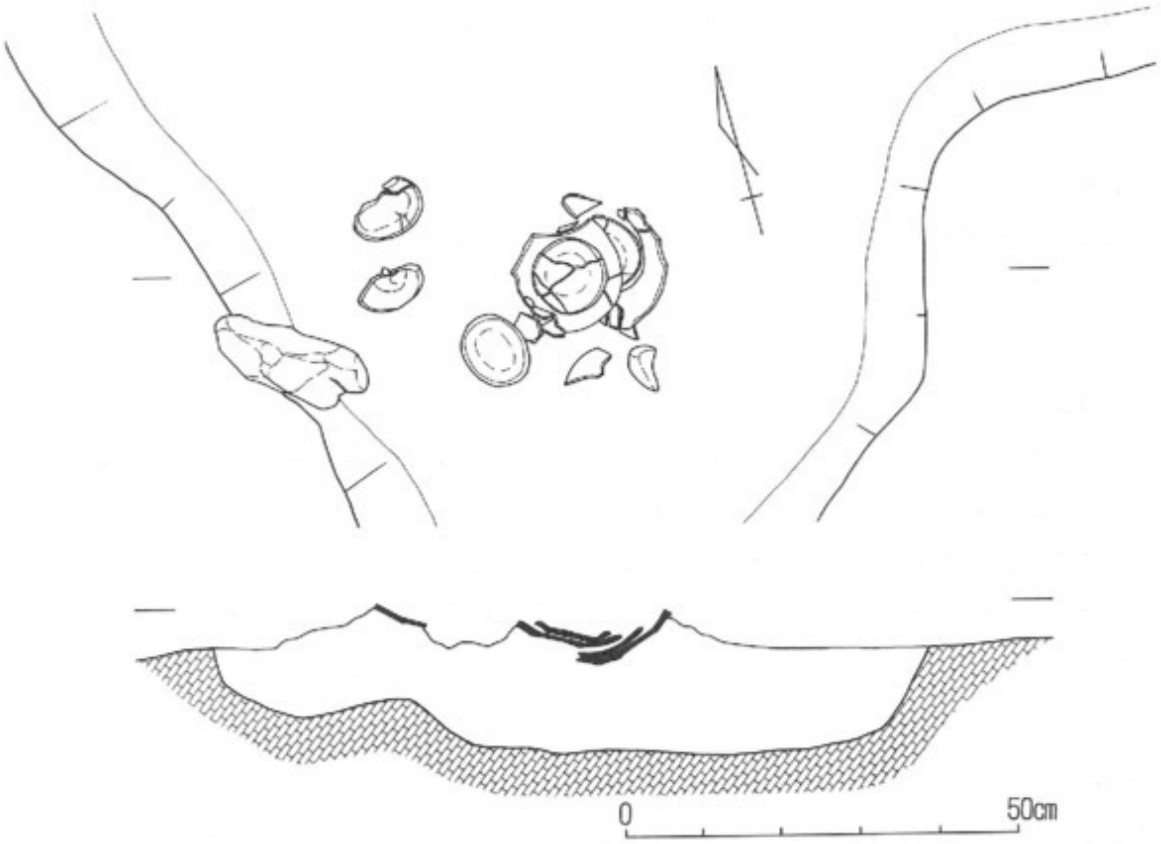
落ち込みは5ヵ所検出した。

落ち込み1

Ⅰ区東部北東隅で検出した。北側が調査区外に広がるため正確な規模は不明である。北壁から南に長さ9.7m、東西方向に幅約0.5～4.2mを測る不整形な形状を呈する。深さは約0.13～0.4mを測る。埋土は暗灰褐色混礫土である。遺物は検出部分の中央部西肩で土師器・回転台土師器[註4]・瓦器の集積が見られる。

落ち込み2

Ⅲ区西部北側で検出した。北側が調査区外に広がり、東側を土壙47によって切られているため正確な規模は不明である。北壁から南に約0.4m、東西に幅約11mを測る不整形な形状を



挿図5　落ち込み1遺物出土状況

呈する。深さは約0.18mを測る。埋土は濁黄灰褐色土である。遺物は、土師器が出土している。

落ち込み3

Ⅲ区中央部北側で検出した。北側が調査区外に広がるため正確な規模は不明である。北壁から南に長さ約5.1m、東西方向に幅約6.4mを測る不整形な形状を呈する。深さは、約0.04～0.23mを測る。埋土は暗灰褐色混礫土である。遺物は検出されなかった。

落ち込み4

Ⅲ区東部南側で検出した。南側が調査区外に広がるため正確な規模は不明である。南壁から北に長さ約3.5m、東西方向に幅約3.0mを測る不整形な形状を呈する。深さは約0.09mを測る。埋土は濁黄灰褐色土である。遺物は検出されなかった。

落ち込み5

Ⅲ区東部南側で検出した。南側と東側が調査区外に広がるため正確な規模は不明である。

南壁から北に長さ約4.4m、東壁から西に長さ約3.0mを検出した。形状は不整形な形を呈する。深さは約0.3mを測る。埋土は濁黄灰褐色砂質土である。遺物は検出されなかった。

土壙

土壙は77カ所検出した。中世の良好な遺物が出土した土壙2について記述する。他の土壙については表1を参照されたい。

土壙2

Ⅰ区西端で検出した。西側は調査区外に広がるため正確な規模は不明である。西壁から東に長さ約7.9m、南北方向に幅5.9mを測る不整形な形状を呈する。深さは約0.6mを測る。埋土は第1層・濁黄灰褐色土、第2層・黄灰褐色砂質土、第3層・灰白色砂質土がブロック状に混じる灰褐色弱粘質土、第4層・濁灰褐色弱粘質土の順に堆積する。遺物は土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・白磁・サヌカイト・鉄釘等が出土している。

建物

4棟の掘立柱建物を検出した。それぞれの柱穴については表2を参照されたい。

掘立柱建物1

Ⅲ区南西隅で検出し、南側・西側は調査区外に広がるため正確な規模は不明である。建物方位は北7°東に振れる。柱穴は楕円形あるいは隅丸方形を呈し、直径約0.6～1.2m、深さ約0.11～0.34mを測る。柱間約2.2～3.0mを測る。埋土は暗灰褐色混礫土および濁黄灰褐色土・濁黄灰褐色弱粘質土である。遺物は土師器が出土している。

掘立柱建物2

Ⅰ区中央北側で検出した総柱建物である。北側は調査区外に広がるため正確な規模は不明である。建物方位は北2°東に振れる。柱穴は隅丸方形あるいは不整形な形を呈し、一辺約0.5 ～1.35m、深さ約0.18～0.48mを測る。柱間約1.6～2.5mを測る。埋土は濁黄灰褐色土・暗灰褐色混礫土および黄灰色土がブロック状に混じ暗灰褐色混礫土にるである。遺物は土師器・須恵器・製塩土器・サヌカイトが出土している。

掘立柱建物3

Ⅰ区中央南側で検出し、南側は調査区外に広がるため正確な規模は不明である。建物方位

は北2°東に振れる。柱穴は隅丸方形あるいは不整形な形を呈し、一辺約0.69～0.86m、深さ約0.25～0.28mを測る。柱間約3mを測る。埋土は暗灰褐色混礫土および濁黄灰褐色土である。遺物は土師器・須恵器が出土している。

掘立柱建物4

Ⅰ区西半南側で検出し、南側は調査区外に広がるため正確な規模は不明である。建物方位は北2°東に振れる。柱穴は不整形な形を呈し、一辺約0.67～0.97m、深さ約0.25～0.41mを測る。柱間約2.1～4.1mを測る。埋土は濁黄灰褐色土・暗灰褐色混礫土および焼土・灰が混じる暗灰褐色混礫土である。遺物は土師器・須恵器・黒色土器が出土している。

ピット

調査区の全域から大小692個のピットを検出した。規模等については表3を参照されたい。

（田川）

遺構番号	形状	規模（m）	深さ(m)	土色・土質	出土遺物				備考
					土師	須恵	黒色	瓦器	
D.1	不整形	1.88×1.71	0.45	1層：濁黄灰色弱粘質土に灰色砂質土が混じる 2層：濁灰褐色土灰白色砂質土がブロック状に混じる					
D.2	不整形	(7.86)×5.88	0.60	断面図参照	○	○	○	○	白磁、鉄釘、サヌカイト
D.3	不整形	2.40×1.25	0.26	暗灰褐色混礫土					
D.4	不整形	2.30×1.03	0.33	暗灰褐色混礫土					
D.5	不整形	1.12×0.96	0.76	暗灰褐色混礫土					
D.6	不整形	2.53×2.20	0.20	暗灰褐色混礫土					
D.7	不整形	2.34×1.82	0.36	暗灰褐色混礫土					
D.8	不整形	3.00×1.95	0.24	暗灰褐色混礫土					
D.9	不整形	1.20×0.66	0.19	濁黄灰褐色土	○				たたき石
D.10	不整形	1.57×0.33	0.09	濁灰褐色粘質土					
D.11	不整形	1.22×0.57	0.14	濁灰褐色土					
D.12	不整形	2.22×1.58	0.32	濁黄灰褐色土	○	○		○	
D.13	不整形	1.91×0.67	0.15	濁黄灰褐色土	○	○			
D.14	不整形	1.07×0.55	0.25	濁灰褐色土	○				
D.15	不整形	2.81×1.43	0.29	濁黄灰褐色土	○	○			
D.16	不整形	1.28×1.12	0.19	暗灰褐色混礫土	○				
D.17	楕円形	1.02×0.55	0.26	暗灰褐色混礫土	○	○			
D.18	不整形	2.50×1.19	0.16	濁黄灰褐色土	○				
D.19	不整形	(1.01)×0.76	0.19	暗灰褐色混礫土					
D.20	不整形	1.60×1.34	0.39	濁黄灰褐色土					
D.21	不整形	1.37×0.96	0.17	濁黄灰褐色土					
D.22	不整形	1.78×1.12	0.15	暗灰褐色混礫土	○				
D.23	楕円形	1.46×1.08	0.13	暗灰褐色混礫土					
D.24	不整形	2.25×1.17	0.25	暗灰褐色混礫土					
D.25	不整形	1.67×0.68	0.13	暗灰褐色混礫土	○				
D.26	不整形	0.98×0.62	0.19	暗灰褐色混礫土					
D.27	不整形	2.35×0.86	0.27	暗灰褐色粘質土					
D.28	不整形	1.16×0.54	0.14	暗灰褐色混礫土					
D.29	不整形	2.16×1.98	0.09	暗灰褐色混礫土					
D.30	不整形	(3.56)×(1.18)	0.21	暗灰褐色混礫土					
D.31	不整形	4.09×(0.96)	0.19	暗褐色混礫粘質土					
D.32	不整形	(3.86)×(0.65)	0.11	暗灰褐色混礫土					
D.33	不整形	1.15×0.94	0.22	濁黄灰褐色土	○				
D.34	不整形	0.82×0.26	0.05	濁灰黄褐色土					
D.35	不整形	1.00×0.68	0.21	濁黄灰褐色土	○				
D.36	不整形	(1.29)×0.66	0.18	濁灰黄褐色土	○				
D.37	不整形	(0.98)×0.50	0.21	濁黄灰褐色土	○	○			

遺構番号	形状	規模(m)	深さ(m)	土色・土質	出土遺物				備考
					土師	須恵	黒色	瓦器	
D.38	不整形	2.34×1.42	0.18	灰褐色土すみ片マンガン含む	○	○			
D.39	不整形	1.65×0.54	0.30	暗灰褐色混礫土すみ片含む	○				
D.40	不整形	2.94×(1.60)	0.41	暗灰褐色混礫土	○				
D.41	不整形	(1.44)×(0.89)	0.07	濁黄灰褐色土					
D.42	楕円形	1.15×0.60	0.11	濁黄灰褐色土					
D.43	不整形	3.07×(1.22)	0.18	濁黄灰褐色土					
D.44	不整形	1.17×0.77	0.09	濁黄灰褐色土					
D.45	不整形	1.10×0.52	0.17	濁黄灰褐色土					
D.46	不整形	4.20×2.90	0.30	濁黄灰褐色土	○				
D.47	不整形	2.45×(1.34)	0.25	暗灰褐色混礫土					
D.48	不整形	(1.11)×0.32	0.13	濁黄灰褐色土					
D.49	不整形	1.22×1.06	0.22	暗黄灰褐色土					
D.50	不整形	1.16×0.85	0.16	濁灰褐色土					
D.51	不整形	1.31×0.47	0.17	濁黄灰褐色土					
D.52	不整形	(1.14)×0.65	0.12	濁黄灰褐色土					
D.53	不整形	(1.16)×0.68	0.12	濁灰褐色土	○				
D.54	楕円形	1.05×0.62	0.26	濁灰褐色粘質土					
D.55	不整形	1.06×0.68	0.14	濁黄灰褐色土					
D.56	不整形	4.45×4.04	0.19	濁黄灰褐色土					
D.57	不整形	1.25×0.72	0.29	濁黄灰褐色土					
D.58	楕円形	1.59×1.10	0.14	濁灰褐色粘質土					
D.59	不整形	1.02×0.59	0.23	濁黄灰褐色土	○	○			
D.60	不整形	1.10×0.53	0.17	濁黄灰褐色土					
D.61	不整形	1.05×0.76	0.09	濁黄灰褐色土	○				
D.62	不整形	1.07×0.26	0.12	濁黄灰褐色土					
D.63	不整形	1.20×0.32	0.07	暗灰褐色混礫土					
D.64	不整形	1.49×0.78	0.11	濁黄灰褐色弱粘質土					
D.65	不整形	1.57×0.71	0.13	濁黄灰褐色弱粘質土					
D.66	不整形	1.58×1.10	0.12	濁黄灰褐色弱粘質土					
D.67	不整形	(0.88)×0.75	0.17	濁黄灰褐色弱粘質土					
D.68	不整形	(1.23)×1.11	0.09	濁黄灰褐色弱粘質土					
D.69	不整形	1.28×0.96	0.13	濁黄灰褐色土					
D.70	不整形	1.54×0.37	0.10	濁黄灰褐色土					
D.71	不整形	1.31×0.90	0.15	濁灰褐色土	○				
D.72	不整形	1.07×0.61	0.05	濁黄灰褐色土					
D.73	不整形	1.55×1.05	0.22	濁黄灰褐色土					
D.74	不整形	(0.95)×0.57	0.05	濁黄灰褐色土					
D.75	不整形	(1.87)×0.80	0.27	濁黄灰褐色土					
D.76	不整形	1.07×0.65	0.11	濁黄灰褐色土					
D.77	不整形	(1.04)×1.00	0.18	濁灰褐色土					

表 1　土壙一覧表

建物	遺構番号	形状	規模(m)	深さ(m)	土色・土質	出土遺物	備考
1	H. 1	不整形	0.90×0.75	0.32	濁黄灰褐色弱粘質土	黒色土器	柱間 2.2~3m
	H. 2	楕円形	0.84×0.70	0.11	濁黄灰褐色土		
	H. 3	楕円形	0.95×0.86	0.20	濁黄灰褐色土	土師器	
	H. 4	隅丸方形	1.15×0.65	0.34	濁黄灰褐色土		
	H. 5	不整形	(0.49)×(0.18)	0.06	濁黄灰褐色弱粘質土		
2	H. 6	隅丸方形	0.94×0.83	0.48	濁黄灰褐色土	土師器・須恵器・製塩土器	柱間 1.6~2.5m
	H. 7	不整形	1.35×1.14	0.18	濁黄灰褐色土	土師器・須恵器	
	H. 8	不整形	1.15×0.96	0.37	暗灰褐色混礫土	土師器・須恵器	
	H. 9	隅丸方形	0.57×0.48	0.39	暗灰褐色混礫土	土師器・須恵器	
	H.10	隅丸方形	0.88×0.84	0.29	濁黄灰褐色土	土師器・須恵器・サヌカイト	
	H.11	不整形	0.80×0.56	0.25	濁黄灰褐色土	土師器	
	H.12	不整形	0.81×0.69	0.18	暗灰褐色混礫土	土師器・須恵器	
	H.13	不整形	0.64×0.58	0.22	暗灰褐色混礫土黄灰色土ブロック	土師器	
3	H.14	隅丸方形	0.69×0.69	0.25	暗灰褐色混礫土	土師器・須恵器	柱間 3m
	H.15	不整形	0.86×0.74	0.25	暗灰褐色混礫土	土師器	
	H.16	不整形	0.79×0.76	0.28	濁黄灰褐色土	土師器	
4	H.17	不整形	0.97×0.67	0.31	暗灰褐色混礫土焼土灰混じる	土師器	柱間 2.1~4.1m
	H.18	不整形	0.79×0.73	0.41	暗灰褐色混礫土	土師器・須恵器	
	H.19	不整形	0.86×0.70	0.38	暗灰褐色混礫土	土師器・須恵器・黒色土器	

表 2　掘立柱建物ピット一覧表

遺構番号	形状	規模(m)	深さ(m)	土色・土質	出土遺物					備考
					弥生	土師	須恵	黒色	瓦器	
P. 1	隅丸方形	0.25×0.21	0.06	濁灰褐色土		○				
P. 2	不整形	0.39×0.32	0.13	濁黄灰褐色土						
P. 3	不整形	0.62×(0.34)	0.15	濁灰褐色土		○		○	○	
P. 4	不整形	0.69×0.31	0.19	濁灰褐色土		○				サヌカイト
P. 5	不整形	0.36×0.30	0.20	濁黄灰褐色土						
P. 6	楕円形	0.27×0.19	0.10	濁黄灰褐色土						
P. 7	不整形	0.44×0.29	0.49	暗灰褐色混礫土		○				
P. 8	不整形	0.27×0.26	0.19	暗灰褐色混礫土						
P. 9	不整形	0.46×0.40	0.19	暗灰褐色混礫土						
P. 10	楕円形	0.17×0.13	0.09	暗灰褐色混礫土						
P. 11	不整形	0.37×0.32	0.11	濁黄灰褐色土						
P. 12	不整形	0.39×0.38	0.14	濁黄灰褐色土						
P. 13	不整形	0.70×(0.45)	0.75	暗灰褐色混礫土						
P. 14	不整形	0.34×0.32	0.13	濁黄灰褐色土						
P. 15	不整形	0.52×0.39	0.10	濁黄灰褐色土						
P. 16	楕円形	0.24×0.21	0.03	濁黄灰褐色土		○			○	
P. 17	不整形	0.58×(0.38)	0.24	暗灰褐色混礫土		○		○		
P. 18	不整形	0.77×0.48	0.13	黄灰褐色土		○		○		
P. 19	不整形	0.28×(0.17)	0.20	暗灰褐色混礫土		○				製塩土器
P. 20	円形	0.30×0.32	0.14	濁黄灰褐色土				○		
P. 21	楕円形	0.39×0.35	0.16	暗灰褐色混礫土		○		○		
P. 22	不整形	0.57×0.47	0.27	暗灰褐色混礫土						
P. 23	楕円形	0.22×0.16	0.03	濁黄灰褐色土						
P. 24	不整形	0.28×0.22	0.09	濁黄灰褐色土						
P. 25	不整形	0.50×0.49	0.25	暗灰褐色混礫土		○				
P. 25	隅丸方形	0.21×0.21	0.06	濁黄灰褐色土						
P. 26	不整形	0.32×0.29	0.09	暗灰褐色混礫土						
P. 27	円形	0.31×0.33	0.07	濁灰褐色粘質土						
P. 28	不整形	0.97×0.59	0.39	濁灰褐色混礫土		○				
P. 30	不整形	0.55×0.53	0.31	濁黄灰褐色土		○				
P. 31	楕円形	0.25×0.20	0.30	濁黄灰褐色土						
P. 33	不整形	0.56×0.43	0.38	濁黄灰褐色土						
P. 34	円形	0.28×0.28	0.16	濁黄灰褐色土						
P. 34	不整形	0.42×(0.34)	0.20	濁黄灰褐色土						
P. 35	不整形	0.38×0.36	0.38	濁黄灰褐色土						
P. 36	円形	0.28×0.27	0.19	濁黄灰褐色土						
P. 37	不整形	0.37×0.30	0.35	濁黄灰褐色土						
P. 38	不整形	0.51×0.48	0.39	濁黄灰褐色土		○				
P. 39	不整形	1.03×0.94	0.28	暗灰褐色混礫土		○	○	○		
P. 40	不整形	0.56×0.46	0.25	濁黄灰褐色土						
P. 41	不整形	0.29×0.28	0.16	濁黄灰褐色土		○	○			
P. 42	楕円形	0.36×0.21	0.24	濁黄灰褐色土						
P. 43	不整形	0.64×0.41	0.31	濁黄灰褐色土						
P. 44	不整形	0.36×0.30	0.14	濁黄灰褐色土						
P. 45	不整形	0.45×(0.41)	0.20	濁黄灰褐色土						
P. 46	円形	0.24×0.25	0.09	濁黄灰褐色土		○				
P. 47	楕円形	0.22×0.16	0.21	濁黄灰褐色土						
P. 48	楕円形	0.47×0.37	0.18	濁黄灰褐色土		○				
P. 49	不整形	0.43×0.37	0.29	濁黄灰褐色土		○				
P. 50	不整形	0.62×0.59	0.22	濁黄灰褐色土						
P. 51	楕円形	0.30×0.26	0.18	濁黄灰褐色土						
P. 52	楕円形	0.40×0.35	0.16	濁黄灰褐色土						
P. 53	隅丸方形	0.35×0.34	0.25	濁黄灰褐色土						
P. 54	円形	0.26×0.26	0.09	濁灰褐色粘質土						
P. 55	円形	0.27×0.28	0.08	濁灰褐色粘質土						
P. 56	楕円形	0.73×0.63	0.34	暗灰褐色混礫土						
P. 57	不整形	0.38×0.36	0.37	濁灰褐色粘質土						
P. 58	不整形	0.46×0.42	0.22	暗灰褐色混礫土						
P. 59	不整形	0.26×0.25	0.16	暗灰褐色混礫土						
P. 60	不整形	0.52×0.35	0.21	暗灰褐色混礫土						
P. 61	不整形	0.33×0.31	0.04	濁黄灰褐色土						
P. 62	楕円形	0.26×0.20	0.05	濁黄灰褐色土						
P. 63	不整形	0.21×0.19	0.07	暗灰褐色混礫土						
P. 64	不整形	0.92×0.68	0.06	暗灰褐色混礫土						
P. 65	不整形	0.36×0.30	0.09	暗灰褐色混礫土						
P. 66	不整形	0.56×0.41	0.08	暗灰褐色混礫土炭混じる						
P. 67	楕円形	0.47×0.41	0.20	暗灰褐色混礫土炭混じる						
P. 68	不整形	0.33×0.22	0.05	暗灰褐色混礫土						
P. 69	不整形	0.41×0.33	0.10	暗灰褐色混礫土						
P. 70	不整形	0.42×0.32	0.07	暗灰褐色混礫土						

遺構番号	形状	規模(m)	深さ(m)	土色・土質	出土遺物					備考
					弥生	土師	須恵	黒色	瓦器	
P.71	楕円形	0.52×0.42	0.10	暗灰褐色混礫土						
P.72	不整形	0.64×0.56	0.11	濁灰褐色土		○				
P.73	不整形	0.30×0.25	0.08	暗灰褐色混礫土						
P.74	不整形	0.28×0.24	0.11	暗灰褐色混礫土						
P.75	楕円形	0.30×0.24	0.14	暗灰褐色混礫土						
P.76	楕円形	0.32×0.26	0.04	濁黄灰褐色土						
P.77	不整形	0.25×0.22	0.06	濁黄灰褐色土						
P.78	不整形	0.56×0.54	0.14	暗灰褐色混礫土						
P.79	不整形	0.33×0.29	0.12	濁黄灰褐色土						
P.80	不整形	1.10×(0.57)	0.36	濁黄灰褐色土						
P.81	不整形	0.37×(0.13)	0.06	濁黄灰褐色土						
P.82	楕円形	0.31×0.28	0.10	濁黄灰褐色土						
P.83	不整形	0.35×0.28	0.28	暗灰褐色混礫土						
P.84	楕円形	0.36×(0.21)	0.12	暗灰褐色混礫土		○	○			
P.85	隅丸方形	0.24×0.21	0.07	暗灰褐色混礫土						
P.86	不整形	0.54×0.44	0.08	濁黄灰褐色土						
P.87	不整形	0.47×0.40	0.08	濁黄灰褐色土						
P.88	楕円形	0.26×0.23	0.14	暗灰褐色混礫土						
P.89	不整形	0.27×0.24	0.14	暗灰褐色混礫土						
P.90	不整形	0.45×0.40	0.12	暗灰褐色混礫土				○		
P.91	円形	0.40×0.43	0.15	暗灰褐色混礫土						
P.92	不整形	0.49×0.28	0.15	暗灰褐色混礫土						
P.93	楕円形	0.48×0.40	0.10	濁黄灰褐色土						
P.94	不整形	0.22×0.22	0.04	暗灰褐色混礫土						
P.95	不整形	0.83×0.58	0.14	暗灰褐色混礫土						
P.96	楕円形	0.62×0.56	0.21	暗灰褐色混礫土			○			
P.97	不整形	0.39×0.37	0.12	暗灰褐色混礫土						
P.98	不整形	0.58×0.47	0.19	暗灰褐色混礫土						
P.99	楕円形	0.24×0.16	0.54	暗灰褐色混礫土						
P.100	不整形	0.77×0.60	0.16	暗灰褐色混礫土						
P.101	楕円形	0.39×0.29	0.14	暗灰褐色混礫土						
P.102	楕円形	0.40×0.31	0.09	暗灰褐色混礫土		○				
P.103	不整形	0.53×0.24	0.09	暗灰褐色混礫土						
P.104	不整形	0.72×0.66	0.17	暗灰褐色混礫土						
P.105	不整形	0.41×0.35	0.18	濁黄灰褐色土						
P.106	楕円形	0.34×0.27	0.04	濁黄灰褐色土						
P.107	楕円形	0.23×0.20	0.06	濁黄灰褐色土						
P.108	不整形	0.60×0.21	0.05	濁黄灰褐色土						
P.109	隅丸三角	0.20×0.17	0.03	暗灰褐色混礫土						
P.110	楕円形	0.33×0.24	0.14	濁黄灰褐色土						
P.111	円形	0.22×0.22	0.04	濁黄灰褐色土						
P.112	不整形	0.96×0.75	0.08	濁黄灰褐色土		○				
P.113	不整形	0.50×(0.44)	0.10	濁黄灰褐色土						
P.114	不整形	0.29×0.28	0.08	濁黄灰褐色土						
P.115	不整形	0.60×0.40	0.10	濁黄灰褐色土						
P.116	楕円形	0.51×0.45	0.04	濁黄灰褐色土						
P.117	楕円形	0.32×0.28	0.06	濁黄灰褐色土						
P.118	楕円形	0.44×0.43	0.05	濁黄灰褐色土						
P.119	不整形	0.82×0.72	0.27	濁黄灰褐色土		○				
P.120	楕円形	0.22×0.19	0.04	濁黄灰褐色土						
P.121	楕円形	0.19×0.15	0.06	濁黄灰褐色土						
P.122	隅丸方形	0.39×0.38	0.12	濁黄灰褐色土						
P.123	楕円形	0.44×0.31	0.10	暗灰褐色混礫土		○				
P.124	不整形	0.72×0.46	0.21	暗灰褐色混礫土		○	○			
P.125	円形	0.39×0.38	0.17	暗灰褐色混礫土		○	○			
P.126	不整形	0.61×0.58	0.22	濁黄灰褐色土		○	○			
P.127	楕円形	0.35×0.32	0.05	濁黄灰褐色土						
P.128	楕円形	0.70×0.56	0.05	濁黄灰褐色土						
P.129	不整形	0.61×(0.26)	0.12	濁黄灰褐色土						
P.130	楕円形	0.23×0.19	0.04	濁黄灰褐色土						
P.131	不整形	0.60×0.48	0.18	濁黄灰褐色土						
P.132	楕円形	0.23×0.19	0.04	濁黄灰褐色土						
P.133	不整形	(0.39)×0.38	0.07	濁灰褐色混礫土						
P.134	不整形	0.46×0.44	0.06	濁黄灰褐色土						
P.135	不整形	0.34×0.31	0.06	濁黄灰褐色土						
P.136	円形	0.25×0.28	0.05	濁黄灰褐色土						
P.137	不整形	0.53×0.47	0.09	濁黄灰褐色土		○	○			
P.138	不整形	0.69×0.47	0.12	濁黄灰褐色土						
P.139	円形	0.36×0.34	0.08	濁黄灰褐色土						
P.140	隅丸三角	0.18×0.17	0.04	濁黄灰褐色土						

遺構番号	形状	規模 (m)	深さ(m)	土色・土質	出土遺物					備考
					弥生	土師	須恵	黒色	瓦器	
P.141	不整形	0.37×0.33	0.13	暗灰褐色混礫土						
P.142	隅丸方形	0.39×0.32	0.11	暗灰褐色混礫土						
P.143	不整形	0.48×0.43	0.15	暗灰褐色混礫土						
P.144	隅丸三角	0.31×0.28	0.04	濁黄灰褐色土						
P.145	楕円形	0.39×0.33	0.07	濁灰褐色土		○				
P.146	楕円形	0.36×0.25	0.04	濁黄灰褐色土						
P.147	楕円形	0.55×0.45	0.06	濁黄灰褐色土						
P.148	楕円形	0.54×0.45	0.06	濁黄灰褐色土		○				
P.149	楕円形	0.58×0.37	0.05	濁黄灰褐色土						
P.150	楕円形	0.54×0.29	0.06	濁黄灰褐色土						
P.151	楕円形	0.27×0.23	0.06	濁黄灰褐色土						
P.152	不整形	0.57×0.36	0.22	暗灰褐色混礫土						
P.153	隅丸方形	0.38×0.36	0.05	濁黄灰褐色土						
P.154	不整形	0.68×0.34	0.06	濁黄灰褐色土						
P.155	不整形	0.30×0.26	0.07	濁黄灰褐色土						
P.156	不整形	0.58×0.45	0.06	濁黄灰褐色土		○				
P.157	不整形	0.32×0.29	0.13	暗灰褐色混礫土		○				
P.158	楕円形	0.22×0.19	0.02	濁黄灰褐色土						
P.159	不整形	0.48×0.39	0.05	濁黄灰褐色土						
P.160	楕円形	0.30×0.27	0.03	濁黄灰褐色土						
P.161	不整形	0.34×0.32	0.10	濁黄灰褐色土						
P.162	不整形	0.37×0.31	0.16	暗灰褐色混礫土		○	○			
P.163	不整形	0.28×0.24	0.08	濁黄灰褐色土						
P.164	楕円形	0.31×0.27	0.07	濁灰褐色土						
P.165	楕円形	0.28×0.25	0.06	濁黄灰褐色土						
P.166	不整形	0.39×0.32	0.09	濁灰褐色土						
P.167	楕円形	0.27×0.25	0.08	濁黄灰褐色土						
P.168	不整形	0.67×0.53	0.14	暗灰褐色混礫土						
P.169	不整形	0.83×0.52	0.28	濁黄灰褐色土						
P.170	楕円形	0.39×0.38	0.03	濁黄灰褐色土						
P.171	楕円形	0.42×0.35	0.02	濁黄灰褐色土						
P.172	楕円形	0.45×0.37	0.09	濁灰褐色混礫土						
P.173	楕円形	0.29×0.25	0.04	濁黄灰褐色土						
P.174	不整形	0.54×0.46	0.05	濁黄灰褐色土		○				
P.175	不整形	0.46×0.31	0.08	暗灰褐色混礫土		○				
P.176	楕円形	0.31×0.25	0.05	濁黄灰褐色土						
P.177	楕円形	0.36×0.27	0.03	濁黄灰褐色土						
P.178	不整形	0.42×0.38	0.04	濁黄灰褐色土						
P.179	楕円形	0.37×0.32	0.06	濁黄灰褐色土						
P.180	楕円形	(0.34)×0.34	0.07	濁黄灰褐色土						
P.181	不整形	0.31×0.27	0.05	濁黄灰褐色土						
P.182	不整形	0.32×0.31	0.06	濁黄灰褐色土						
P.183	不整形	0.42×0.37	0.05	濁黄灰褐色土						
P.184	不整形	0.31×0.29	0.06	濁黄灰褐色土						
P.185	楕円形	0.77×0.53	0.20	濁黄灰褐色土						
P.186	不整形	0.32×0.28	0.07	暗灰褐色混礫土		○				
P.187	不整形	0.39×0.36	0.20	濁黄灰褐色土						
P.188	不整形	0.46×0.46	0.14	濁黄灰褐色土						
P.189	不整形	0.30×0.26	0.09	濁黄灰褐色土						
P.190	不整形	0.55×0.45	0.10	暗灰褐色混礫土		○				石皿
P.191	不整形	0.37×0.32	0.06	濁黄灰褐色土						
P.192	楕円形	0.28×0.22	0.03	濁黄灰褐色土						
P.193	不整形	0.78×0.50	0.17	暗灰褐色混礫土						
P.194	不整形	0.43×0.30	0.02	濁黄灰褐色土						
P.195	不整形	0.44×0.35	0.13	濁黄灰褐色土						
P.196	隅丸方形	0.30×0.29	0.04	濁黄灰褐色土						
P.197	楕円形	0.37×0.30	0.15	暗灰褐色混礫土						
P.198	不整形	0.31×0.28	0.09	暗灰褐色混礫土						
P.199	不整形	0.62×0.56	0.11	濁黄灰褐色土		○	○			
P.200	楕円形	0.57×0.40	0.10	濁黄灰褐色土		○				
P.201	楕円形	0.30×0.23	0.07	暗灰褐色混礫土						
P.202	不整形	0.74×0.50	0.07	濁黄灰褐色土						
P.203	楕円形	0.50×0.36	0.06	濁黄灰褐色土						
P.204	不整形	0.27×0.30	0.05	濁黄灰褐色土						
P.205	楕円形	0.42×0.39	0.08	濁黄灰褐色土						
P.206	不整形	0.41×(0.33)	0.12	濁黄灰褐色土						
P.207	不整形	0.58×0.49	0.07	濁黄灰褐色土						
P.208	楕円形	0.31×0.23	0.05	濁黄灰褐色土						
P.209	隅丸方形	0.29×0.25	0.05	濁黄灰褐色土						
P.210	不整形	0.86×0.76	0.26	暗灰褐色混礫土		○	○			

遺構番号	形状	規模(m)	深さ(m)	土色・土質	出土遺物					備考
					弥生	土師	須恵	黒色	瓦器	
P.211	不整形	0.48×0.24	0.03	濁黄灰褐色土						
P.212	不整形	0.32×0.27	0.07	濁黄灰褐色土						
P.213	楕円形	0.21×0.18	0.04	濁黄灰褐色土						
P.214	楕円形	0.30×0.21	0.03	濁黄灰褐色土						
P.215	不整形	0.27×0.23	0.07	暗灰褐色混礫土						
P.216	不整形	0.72×0.42	0.08	濁黄灰褐色土						
P.217	楕円形	0.24×0.18	0.06	濁黄灰褐色土						
P.218	不整形	0.27×0.19	0.07	暗灰褐色混礫土						
P.219	不整形	0.65×0.53	0.12	濁黄灰褐色土		○				
P.220	不整形	0.46×0.42	0.12	濁黄灰褐色土		○				
P.221	不整形	0.51×0.44	0.12	濁黄灰褐色土		○	○			
P.222	不整形	0.23×0.19	0.05	濁黄灰褐色土						
P.223	円形	0.27×0.27	0.08	濁黄灰褐色土			○			
P.224	楕円形	0.30×0.21	0.04	濁黄灰褐色土						
P.225	不整形	0.56×0.40	0.51	暗灰褐色混礫土			○			
P.226	不整形	0.60×0.32	0.06	濁黄灰褐色土						
P.227	不整形	0.25×0.12	0.05	暗灰褐色混礫土						
P.228	不整形	0.95×0.72	0.18	濁黄灰褐色土						
P.229	不整形	0.83×0.41	0.05	濁黄灰褐色土		○	○			
P.230	楕円形	0.45×0.32	0.09	暗灰褐色混礫土						
P.231	不整形	0.60×0.30	0.07	暗灰褐色混礫土						
P.232	不整形	0.26×0.24	0.04	濁黄灰褐色土						
P.233	円形	0.22×0.19	0.04	濁黄灰褐色土		○				
P.234	不整形	0.26×0.25	0.05	濁黄灰褐色土						
P.235	不整形	0.47×0.28	0.08	濁黄灰褐色土						
P.236	不整形	0.48×0.38	0.11	濁黄灰褐色土		○				
P.237	不整形	0.66×0.54	0.13	濁黄灰褐色土						
P.238	楕円形	0.53×0.30	0.08	濁黄灰褐色土						
P.239	不整形	0.18×0.18	0.07	濁黄灰褐色土						
P.240	隅丸方形	0.80×0.72	0.07	濁黄灰褐色土						
P.241	不整形	0.72×0.71	0.15	暗灰褐色混礫土黄灰色土ブロック						
P.242	不整形	(0.52)×0.46	0.06	濁黄灰褐色土						
P.243	楕円形	0.68×0.57	0.14	濁黄灰褐色土						
P.244	楕円形	0.40×0.33	0.16	暗灰褐色混礫土						
P.245	不整形	0.50×(0.22)	0.04	暗灰褐色混礫土						
P.246	楕円形	0.36×0.30	0.05	暗灰褐色混礫土						
P.247	不整形	0.33×0.28	0.06	濁黄灰褐色土						
P.248	楕円形	0.29×0.26	0.09	暗灰褐色混礫土						
P.249	不整形	0.49×0.36	0.10	濁黄灰褐色土						
P.250	楕円形	0.29×0.24	0.04	濁黄灰褐色土						
P.251	不整形	0.36×0.25	0.06	濁黄灰褐色土						
P.252	不整形	0.53×0.28	0.08	濁黄灰褐色土						
P.253	楕円形	0.41×0.25	0.08	濁黄灰褐色土						
P.254	円形	0.29×0.28	0.12	濁黄灰褐色土						
P.255	楕円形	0.29×0.25	0.07	暗灰褐色混礫土						
P.256	楕円形	0.22×0.20	0.05	暗灰褐色混礫土						
P.257	不整形	0.45×0.42	0.10	暗灰褐色混礫土						
P.258	不整形	0.27×(0.23)	0.15	暗灰褐色混礫土						
P.259	不整形	0.38×0.37	0.05	暗灰褐色混礫土						
P.260	不整形	0.34×0.31	0.05	暗灰褐色混礫土						
P.261	隅丸方形	0.41×0.41	0.02	暗灰褐色混礫土						
P.262	円形	0.29×0.32	0.04	暗灰褐色混礫土						
P.263	不整形	0.64×0.41	0.08	暗灰褐色混礫土						
P.264	不整形	0.33×0.23	0.09	暗灰褐色混礫土						
P.265	不整形	0.30×0.26	0.12	暗灰褐色混礫土						
P.266	不整形	0.38×0.23	0.14	暗灰褐色混礫土						
P.267	不整形	0.29×0.26	0.06	暗灰褐色混礫土						
P.268	不整形	0.27×0.25	0.06	暗灰褐色混礫土						
P.269	不整形	0.52×0.33	0.15	暗灰褐色混礫土						
P.270	不整形	0.55×0.41	0.04	暗灰褐色混礫土						
P.271	円形	0.30×0.29	0.07	濁黄灰褐色土						
P.272	楕円形	0.25×0.19	0.05	暗灰褐色混礫土						
P.273	円形	0.35×0.35	0.06	暗灰褐色混礫土						
P.274	不整形	0.62×0.61	0.33	暗灰褐色混礫土						
P.275	不整形	0.53×0.44	0.21	暗灰褐色混礫土		○				円筒埴輪
P.276	楕円形	0.25×0.22	0.09	暗灰褐色混礫土						
P.277	不整形	0.27×(0.08)	0.08	暗灰褐色混礫土						
P.278	不整形	0.27×0.22	0.14	暗灰褐色混礫土						
P.279	不整形	0.22×0.13	0.01	暗灰褐色混礫土						
P.280	不整形	0.62×0.43	0.07	暗灰褐色混礫土						

遺構番号	形状	規模(m)	深さ(m)	土色・土質	出土遺物					備考
					弥生	土師	須恵	黒色	瓦器	
P.281	不整形	0.45×0.36	0.05	暗灰褐色混礫土						
P.282	不整形	0.38×0.30	0.09	暗灰褐色混礫土						
P.283	楕円形	0.28×0.17	0.02	暗灰褐色混礫土						
P.284	円形	0.21×0.23	0.07	暗灰褐色混礫土						
P.285	隅丸方形	0.29×0.28	0.14	暗灰褐色混礫土						
P.286	不整形	0.48×0.30	0.06	暗灰褐色混礫土						
P.287	円形	0.45×0.44	0.16	暗灰褐色混礫土						
P.288	不整形	0.64×0.49	0.12	暗灰褐色混礫土						
P.289	不整形	0.40×0.22	0.05	暗灰褐色混礫土						
P.290	不整形	0.55×0.33	0.05	暗灰褐色混礫土		○			○	
P.291	隅丸方形	0.18×0.16	0.02	暗灰褐色混礫土						
P.292	不整形	0.64×0.36	0.05	暗灰褐色混礫土						
P.293	楕円形	0.46×0.35	0.11	暗灰褐色混礫土						
P.294	不整形	0.67×0.36	0.06	暗灰褐色混礫土						
P.295	楕円形	0.25×0.21	0.04	暗灰褐色混礫土						
P.296	楕円形	0.48×0.41	0.11	暗灰褐色混礫土						
P.297	隅丸三角	0.50×0.39	0.08	暗灰褐色混礫土						
P.298	隅丸三角	0.49×0.35	0.09	暗灰褐色混礫土						
P.299	不整形	0.73×0.37	0.12	暗灰褐色混礫土						
P.300	不整形	0.32×0.31	0.10	暗灰褐色混礫土						
P.301	楕円形	0.37×0.35	0.06	暗灰褐色混礫土						
P.302	楕円形	0.36×0.31	0.10	暗灰褐色混礫土						
P.303	楕円形	0.40×0.34	0.07	暗灰褐色混礫土						
P.304	楕円形	0.50×0.29	0.10	暗灰褐色混礫土						
P.305	不整形	0.55×0.38	0.06	暗灰褐色混礫土						
P.306	楕円形	0.35×0.32	0.10	暗灰褐色混礫土						
P.307	円形	0.28×0.25	0.09	暗灰褐色混礫土						
P.308	楕円形	0.37×0.29	0.11	暗灰褐色混礫土						
P.309	不整形	0.62×0.60	0.10	暗灰褐色混礫土						
P.310	不整形	(0.45)×0.38	0.24	暗灰褐色混礫土						
P.311	不整形	0.94×0.79	0.15	暗灰褐色混礫土						
P.312	楕円形	0.35×0.24	0.64	暗灰褐色混礫土						
P.313	不整形	0.48×0.41	0.09	暗灰褐色混礫土						
P.314	不整形	0.32×0.27	0.11	暗灰褐色混礫土						
P.315	楕円形	0.42×0.31	0.07	暗灰褐色混礫土						
P.316	不整形	0.69×0.61	0.17	暗褐色混礫粘質土						
P.317	不整形	0.96×0.83	0.25	暗褐色混礫粘質土						
P.318	不整形	0.77×0.70	0.12	暗褐色混礫粘質土						
P.319	不整形	0.82×(0.53)	0.09	暗褐色混礫粘質土						
P.320	楕円形	0.29×0.23	0.19	暗灰褐色混礫土						
P.321	楕円形	0.30×0.23	0.13	暗灰褐色混礫土						
P.322	楕円形	0.18×0.15	0.06	暗灰褐色混礫土						
P.323	楕円形	0.39×0.29	0.23	暗灰褐色混礫土						
P.324	隅丸方形	0.21×0.19	0.04	暗灰褐色混礫土						
P.325	隅丸三角	0.44×0.34	0.15	暗灰褐色混礫土						
P.326	不整形	(0.41)×(0.19)	0.08	暗灰褐色混礫土						
P.327	隅丸三角	0.49×0.45	0.14	濁黄灰褐色土						
P.328	不整形	(0.26)×0.17	0.10	濁黄灰褐色土						
P.329	不整形	0.28×0.19	0.07	濁黄灰褐色土						
P.330	不整形	0.34×0.30	0.17	濁灰褐色土		○	○	○	○	
P.331	不整形	0.48×0.33	0.12	濁灰褐色土						
P.332	不整形	0.42×(0.31)	0.07	濁黄灰褐色土マンガン含む						
P.333	円形	0.31×0.32	0.17	濁黄灰褐色土		○				
P.334	不整形	0.52×(0.45)	0.42	濁灰褐色土・焼土・すみ片・マンガン含む		○	○	○	○	すみ片
P.335	不整形	0.24×(0.13)	0.07	濁黄灰褐色土マンガン含む						
P.336	不整形	0.76×0.59	0.09	濁黄灰褐色土		○				
P.337	不整形	0.67×0.46	0.05	濁黄灰褐色土						
P.338	隅丸方形	0.28×0.28	0.40	濁灰褐色土・焼土・すみ片含む		○				焼土壙
P.339	楕円形	0.43×0.26	0.06	濁灰黄褐色土						
P.340	円形	0.40×0.39	0.31	濁灰褐色土						
P.341	不整形	0.46×0.35	0.30	濁黄灰褐色土						
P.342	楕円形	0.36×0.28	0.09	濁黄灰褐色土						
P.343	不整形	0.38×0.32	0.14	濁黄灰褐色土		○				
P.344	不整形	(0.59)×0.56	0.31	暗灰褐色混礫土						
P.345	円形	0.41×0.42	0.08	濁灰黄褐色土						
P.346	不整形	(0.23)×(0.22)	0.30	暗灰褐色混礫土						
P.347	円形	0.55×0.53	0.14	濁黄灰褐色土		○				
P.348	楕円形	0.54×0.44	0.10	濁灰黄褐色土						
P.349	不整形	0.79×0.75	0.37	濁灰褐色土すみ片含むそこに20cm大の石		○	○			
P.350	円形	0.42×0.39	0.15	濁黄灰褐色土						

遺構番号	形状	規模(m)	深さ(m)	土色・土質	出土遺物					備考
					弥生	土師	須恵	黒色	瓦器	
P.351	不整形	0.47×0.43	0.07	濁灰褐色土						
P.352	不整形	0.45×0.42	0.11	濁黄灰褐色土						
P.353	楕円形	0.40×0.34	0.34	濁黄灰褐色土		○				
P.354	不整形	(0.71)×(0.57)	0.41	濁灰褐色土		○				
P.355	不整形	0.79×(0.52)	0.26	濁灰褐色土		○	○			
P.356	円形	0.25×0.28	0.08	濁灰褐色土マンガン含む						
P.357	不整形	0.38×0.33	0.09	濁灰褐色土マンガン含む						
P.358	楕円形	0.62×0.48	0.39	濁灰褐色焼土すみマンガン含む		○				
P.359	不整形	0.45×0.28	0.21	濁黄灰褐色土		○				
P.360	楕円形	0.45×0.34	0.14	濁灰褐色土		○				
P.361	不整形	0.48×0.48	0.26	暗灰褐色混礫土		○	○			
P.362	不整形	(0.71)×(0.37)	0.06	濁灰褐色土						
P.363	不整形	0.43×0.39	0.13	濁灰褐色土・すみ片・マンガン含む		○				
P.364	楕円形	0.57×0.34	0.27	暗灰褐色混礫土		○	○			焼土塊
P.365	楕円形	0.32×0.30	0.13	濁灰褐色土		○				
P.366	円形	0.49×0.48	0.42	濁灰褐色土		○				
P.367	不整形	0.46×(0.36)	0.19	濁灰褐色土				○		
P.368	円形	0.20×0.21	0.09	濁黄灰褐色土						
P.369	楕円形	0.29×0.21	0.18	濁灰褐色土						
P.370	円形	0.19×0.20	0.19	濁灰褐色土		○				
P.371	楕円形	0.27×0.19	0.13	濁黄灰褐色土						
P.372	円形	0.25×0.25	0.18	濁黄灰褐色土						
P.373	楕円形	0.22×0.18	0.14	濁黄灰褐色土						
P.374	楕円形	0.19×0.17	0.16	濁灰褐色土						
P.375	楕円形	0.30×0.29	0.16	濁黄灰褐色土						
P.376	楕円形	0.30×0.29	0.21	暗灰褐色混礫土		○				石皿
P.377	楕円形	0.26×0.20	0.10	濁灰褐色土						
P.378	不整形	0.82×0.80	0.15	濁黄灰褐色土						
P.379	円形	0.22×0.23	0.14	濁黄灰褐色土						
P.380	楕円形	0.60×0.54	0.17	暗灰褐色混礫土						
P.381	楕円形	0.24×0.18	0.10	暗黄灰褐色土						
P.382	楕円形	0.46×0.44	0.26	暗灰褐色混礫土						
P.383	不整形	0.50×0.30	0.11	暗灰褐色混礫土						
P.384	楕円形	0.50×0.39	0.18	濁灰褐色土						サヌカイト
P.385	楕円形	0.87×0.78	0.21	濁黄灰褐色土		○				
P.386	楕円形	0.36×0.26	0.04	暗黄灰褐色土						
P.387	隅丸方形	0.55×0.54	0.28	濁灰褐色土		○				
P.388	楕円形	0.51×0.38	0.05	濁黄灰褐色土						
P.389	不整形	(0.39)×(0.14)	0.07	濁黄灰褐色土						
P.390	円形	0.50×0.50	0.28	濁黄灰褐色土		○				
P.391	楕円形	0.14×0.12	0.11	暗灰褐色混礫土						
P.392	楕円形	0.43×0.41	0.27	濁黄灰褐色土		○	○			
P.393	楕円形	0.46×0.44	0.09	濁黄灰褐色土						
P.394	円形	0.30×0.30	0.08	濁黄灰褐色土						
P.395	楕円形	0.40×0.33	0.10	濁黄灰褐色土						
P.396	楕円形	0.47×0.45	0.23	濁黄灰褐色土						
P.397	楕円形	0.81×0.45	0.13	濁黄灰褐色土						
P.398	楕円形	0.40×0.37	0.20	濁黄灰褐色土						
P.399	楕円形	0.30×0.28	0.22	濁黄灰褐色土						
P.400	楕円形	0.68×0.32	0.15	濁灰褐色土						
P.401	不整形	0.59×0.55	0.12	濁黄灰褐色弱粘質土		○				
P.402	不整形	0.30×0.24	0.09	濁黄灰褐色土						
P.403	楕円形	0.70×0.35	0.17	濁黄灰褐色土						
P.404	不整形	0.52×0.41	0.22	暗黄灰褐色土						
P.405	不整形	0.43×0.34	0.15	濁黄灰褐色土						
P.406	隅丸方形	0.60×0.49	0.10	濁黄灰褐色土						
P.407	楕円形	0.20×0.15	0.07	濁黄灰褐色土						
P.408	不整形	0.49×0.41	0.09	濁黄灰褐色土						
P.409	楕円形	0.37×0.29	0.07	濁灰褐色土						
P.410	楕円形	0.63×0.45	0.09	濁黄灰褐色土						
P.411	楕円形	0.60×0.53	0.22	濁黄灰褐色土		○		○		
P.412	楕円形	0.34×0.34	0.11	濁黄灰褐色土						
P.413	楕円形	0.11×0.08	0.02	濁黄灰褐色土						
P.414	楕円形	0.31×0.17	0.06	濁黄灰褐色土						
P.415	円形	0.13×0.14	0.05	濁黄灰褐色土						
P.416	円形	0.35×0.33	0.08	濁黄灰褐色土						
P.417	円形	0.23×0.23	0.12	濁黄灰褐色土						
P.418	不整形	0.56×0.38	0.09	濁黄灰褐色土						
P.419	楕円形	0.40×0.38	0.12	濁黄灰褐色土						
P.420	楕円形	0.33×0.28	0.10	濁黄灰褐色土						

遺構番号	形状	規模(m)	深さ(m)	土色・土質	出土遺物					備考
					弥生	土師	須恵	黒色	瓦器	
P.421	円形	0.30×0.31	0.08	濁黄灰褐色土						
P.422	楕円形	0.23×0.20	0.10	濁黄灰褐色土						
P.423	円形	0.17×0.16	0.05	濁黄灰褐色土						
P.424	楕円形	0.23×0.18	0.09	暗灰褐色混礫土						
P.425	不整形	0.42×0.35	0.08	濁黄灰褐色土						
P.426	楕円形	0.21×0.15	0.05	濁黄灰褐色土						
P.427	円形	0.27×0.28	0.07	濁黄灰褐色土						
P.428	不整形	0.53×0.46	0.21	暗灰褐色混礫土		○	○			
P.429	不整形	0.50×0.32	0.07	濁黄灰褐色土						
P.430	不整形	0.65×0.49	0.10	濁黄灰褐色土						
P.431	楕円形	0.41×0.37	0.09	濁黄灰褐色土						
P.432	円形	0.49×0.51	0.18	濁灰褐色土		○				サヌカイト
P.433	不整形	0.69×0.52	0.07	濁黄灰褐色土						
P.434	不整形	0.87×0.71	0.07	濁黄灰褐色土	○	○				
P.435	不整形	0.51×0.43	0.20	濁灰褐色土		○				
P.436	不整形	0.94×0.51	0.19	濁灰褐色土						
P.437	楕円形	0.25×0.20	0.14	暗灰褐色混礫土						
P.438	楕円形	0.23×0.18	0.09	暗灰褐色混礫土						
P.439	円形	0.43×0.46	0.17	濁灰褐色土						
P.440	楕円形	0.56×0.50	0.20	暗灰褐色混礫土						
P.441	楕円形	0.81×0.59	0.16	濁灰褐色土						
P.442	楕円形	0.41×0.26	0.16	暗黄灰褐色土						
P.443	不整形	0.77×0.50	0.25	暗灰褐色混礫土		○				
P.444	不整形	0.54×0.48	0.12	濁黄灰褐色土						
P.445	不整形	0.56×0.26	0.10	濁黄灰褐色土						
P.446	不整形	(0.65)×0.52	0.26	暗灰褐色混礫土						
P.447	楕円形	0.38×0.23	0.13	濁黄灰褐色土		○				
P.448	楕円形	0.49×0.44	0.08	暗灰褐色混礫土						
P.449	不整形	0.40×0.36	0.18	濁黄灰褐色土						
P.450	隅丸方形	0.54×0.39	0.16	濁灰褐色土						
P.451	不整形	0.47×0.35	0.05	暗黄灰褐色土						
P.452	楕円形	0.28×0.20	0.08	暗黄灰褐色土		○				
P.453	不整形	0.59×0.40	0.23	暗黄灰褐色土						
P.454	不整形	0.31×0.24	0.12	濁黄灰褐色土						
P.455	円形	0.59×0.60	0.14	濁灰褐色土						
P.456	楕円形	0.41×0.29	0.15	暗灰褐色混礫土						
P.457	楕円形	0.32×0.28	0.07	濁灰褐色土						
P.458	隅丸三角	0.51×0.39	0.10	濁灰褐色土						
P.459	不整形	0.38×0.34	0.07	濁灰褐色土						
P.460	円形	0.32×0.30	0.08	濁灰褐色土						
P.461	楕円形	0.42×0.25	0.09	濁黄灰褐色土						
P.462	不整形	0.26×0.24	0.08	濁黄灰褐色土						
P.463	円形	0.32×0.30	0.27	濁灰褐色土			○			
P.464	楕円形	0.27×0.19	0.10	濁黄灰褐色土						
P.465	楕円形	0.29×0.25	0.10	濁黄灰褐色土						
P.466	不整形	(0.32)×(0.20)	0.11	濁黄灰褐色土						
P.467	不整形	0.30×0.27	0.17	濁黄灰褐色土						
P.468	楕円形	0.30×0.22	0.13	濁黄灰褐色土						
P.469	隅丸方形	0.33×0.32	0.09	濁黄灰褐色土						
P.470	隅丸方形	0.39×0.37	0.12	濁黄灰褐色土						
P.471	楕円形	0.55×0.24	0.14	濁黄灰褐色土						
P.472	楕円形	0.44×0.25	0.07	濁黄灰褐色土						
P.473	楕円形	0.26×0.18	0.19	暗灰褐色混礫土						
P.474	楕円形	0.33×0.28	0.13	濁黄灰褐色土						
P.475	不整形	0.66×0.48	0.21	濁黄灰褐色土炭混じる						
P.476	不整形	0.84×0.37	0.09	濁黄灰褐色土						
P.477	円形	0.20×0.19	0.04	濁黄灰褐色土						
P.478	楕円形	0.34×0.29	0.12	濁黄灰褐色土						
P.479	不整形	0.52×0.38	0.07	濁黄灰褐色土						
P.480	不整形	0.40×0.35	0.04	濁黄灰褐色土						
P.481	不整形	0.30×0.22	0.03	濁黄灰褐色土						
P.482	不整形	0.47×0.31	0.12	濁黄灰褐色土						
P.483	不整形	(0.53)×0.62	0.32	暗灰褐色混礫土						
P.484	不整形	0.39×0.25	0.09	濁黄灰褐色土						
P.485	楕円形	0.48×0.36	0.06	濁黄灰褐色土						
P.486	不整形	0.88×0.50	0.11	濁黄灰褐色土						
P.487	楕円形	0.53×0.45	0.16	濁黄灰褐色土		○	○			
P.488	楕円形	0.54×0.43	0.08	濁黄灰褐色土						
P.489	楕円形	0.17×0.13	0.10	濁黄灰褐色土						
P.490	楕円形	0.19×0.15	0.10	濁黄灰褐色土						

遺構番号	形状	規模(m)	深さ(m)	土色・土質	出土遺物					備考
					弥生	上師	須恵	黒色	瓦器	
P.491	不整形	0.32×0.30	0.11	濁黄灰褐色土						
P.492	楕円形	0.45×0.38	0.06	濁黄灰褐色土						
P.493	円形	0.20×0.20	0.05	濁黄灰褐色土						
P.494	不整形	0.32×0.23	0.07	濁黄灰褐色土						
P.495	楕円形	0.25×0.21	0.11	濁黄灰褐色土						
P.496	楕円形	0.20×0.19	0.08	濁黄灰褐色土						
P.497	楕円形	0.25×0.21	0.11	濁黄灰褐色土		○		○		
P.498	不整形	0.39×(0.25)	0.07	暗灰褐色混礫土						
P.499	不整形	0.23×0.22	0.09	暗灰褐色混礫土						
P.500	不整形	0.63×0.51	0.12	濁黄灰褐色土						
P.501	楕円形	0.22×0.20	0.05	濁黄灰褐色土						
P.502	不整形	0.39×0.36	0.09	濁黄灰褐色土		○				
P.503	隅丸方形	0.34×0.30	0.18	濁黄灰褐色土		○				
P.504	不整形	0.88×0.23	0.17	濁灰褐色土						
P.505	不整形	0.39×0.30	0.11	濁黄灰褐色土		○				
P.506	不整形	0.68×0.57	0.13	濁黄灰褐色土						
P.507	楕円形	0.38×0.20	0.08	濁黄灰褐色土						
P.508	不整形	0.41×0.34	0.12	濁黄灰褐色土						
P.509	不整形	(0.37)×(0.12)	0.08	濁黄灰褐色土						
P.510	不整形	0.37×0.31	0.09	濁灰褐色土						
P.511	不整形	0.29×0.25	0.06	濁黄灰褐色土						
P.512	不整形	0.37×0.29	0.09	濁黄灰褐色土						
P.513	不整形	0.52×0.35	0.13	濁黄灰褐色土						
P.514	楕円形	0.19×0.16	0.02	濁黄灰褐色土						
P.515	楕円形	0.23×0.20	0.24	暗灰褐色混礫土						
P.516	楕円形	0.41×0.26	0.09	濁黄灰褐色土						
P.517	不整形	0.64×0.51	0.18	濁黄灰褐色土			○			
P.518	楕円形	0.24×0.20	0.09	濁黄灰褐色土						
P.519	不整形	0.43×0.37	0.14	濁灰褐色粘質土			○			
P.520	不整形	0.79×0.56	0.18	暗灰褐色混礫土						サヌカイト
P.521	不整形	0.48×0.41	0.09	濁黄灰褐色土		○	○			
P.522	不整形	0.37×0.33	0.08	濁黄灰褐色土						
P.523	不整形	0.42×0.39	0.18	濁黄灰褐色土						
P.524	不整形	0.36×0.32	0.08	濁黄灰褐色土						
P.525	不整形	0.27×0.24	0.07	濁黄灰褐色土						
P.526	円形	0.27×0.25	0.12	濁黄灰褐色土						
P.527	不整形	0.24×0.20	0.21	濁黄灰褐色土						
P.528	楕円形	0.36×0.30	0.19	濁黄灰褐色土						
P.529	不整形	0.33×0.28	0.13	濁黄灰褐色土						
P.530	不整形	0.34×0.32	0.13	暗灰褐色混礫土						
P.531	円形	0.40×0.42	0.29	濁灰褐色粘質土						
P.532	円形	0.39×0.37	0.22	濁黄灰褐色土						
P.533	楕円形	0.22×0.18	0.19	濁黄灰褐色土						
P.534	楕円形	0.43×0.32	0.14	濁黄灰褐色土						
P.535	不整形	0.64×0.35	0.18	濁黄灰褐色土						
P.536	円形	0.26×0.26	0.10	濁黄灰褐色土						
P.537	不整形	0.40×0.38	0.17	濁黄灰褐色土						
P.538	不整形	0.33×0.28	0.08	濁黄灰褐色土						
P.539	不整形	0.39×0.33	0.25	濁黄灰褐色弱粘質土						
P.540	楕円形	0.29×0.18	0.12	濁灰褐色土						
P.541	楕円形	0.27×0.17	0.06	濁黄灰褐色土						
P.542	不整形	0.34×0.28	0.15	濁黄灰褐色土						
P.543	隅丸方形	0.34×0.32	0.14	濁黄灰褐色土						
P.544	不整形	0.42×0.31	0.10	濁黄灰褐色土						
P.545	円形	0.29×0.26	0.09	濁黄灰褐色土						
P.546	不整形	0.45×0.38	0.14	濁黄灰褐色土						
P.547	不整形	0.55×0.38	0.09	濁黄灰褐色土						
P.548	不整形	0.86×0.41	0.09	濁黄灰褐色土						
P.549	楕円形	0.59×0.30	0.09	濁黄灰褐色土						
P.550	不整形	0.78×0.23	0.09	濁黄灰褐色土						
P.551	円形	0.30×0.29	0.11	濁黄灰褐色土						
P.552	楕円形	0.17×0.15	0.08	濁黄灰褐色弱粘質土						
P.553	円形	0.39×0.38	0.15	濁黄灰褐色土						
P.554	不整形	0.40×0.20	0.14	濁黄灰褐色土						
P.555	楕円形	0.30×0.22	0.11	暗灰褐色混礫土						
P.556	不整形	0.28×0.27	0.09	暗灰褐色混礫土						
P.557	不整形	0.25×0.23	0.08	濁黄灰褐色土						
P.558	楕円形	0.35×0.28	0.06	濁黄灰褐色土						
P.559	楕円形	0.49×0.35	0.20	暗灰褐色混礫土						
P.560	不整形	0.49×0.38	0.07	濁黄灰褐色土						

遺構番号	形状	規模(m)	深さ(m)	土色・土質	出土遺物					備考
					弥生	土師	須恵	黒色	瓦器	
P.561	不整形	0.77×0.72	0.12	濁黄灰褐色土						
P.562	楕円形	0.21×0.17	0.11	暗灰褐色混礫土						
P.563	不整形	0.23×0.19	0.08	暗灰褐色混礫土						
P.564	隅丸三角	0.42×0.27	0.06	濁黄灰褐色弱粘質土						
P.565	楕円形	0.28×0.24	0.13	濁黄灰褐色土						
P.566	隅丸方形	0.29×0.26	0.17	濁黄灰褐色土						
P.567	楕円形	0.58×0.31	0.07	濁黄灰褐色弱粘質土						
P.568	不整形	0.39×0.33	0.10	濁黄灰褐色土						
P.569	楕円形	0.79×0.45	0.18	濁黄灰褐色土						
P.570	不整形	0.55×0.40	0.15	濁黄灰褐色土						
P.571	隅丸三角	0.29×0.23	0.14	暗灰褐色混礫土						
P.572	楕円形	0.28×0.26	0.12	濁黄灰褐色弱粘質土						
P.573	不整形	0.23×0.22	0.11	濁黄灰褐色弱粘質土						
P.574	不整形	0.63×0.48	0.15	濁黄灰褐色弱粘質土						
P.575	楕円形	0.19×0.15	0.10	濁黄灰褐色弱粘質土						
P.576	不整形	0.75×0.27	0.08	濁灰褐色土						
P.577	楕円形	0.37×0.33	0.05	濁黄灰褐色弱粘質土						
P.578	円形	0.32×0.34	0.05	濁黄灰褐色土						
P.579	楕円形	0.43×0.24	0.08	濁黄灰褐色弱粘質土						
P.580	円形	0.35×0.38	0.07	濁黄灰褐色土						
P.581	不整形	0.42×0.32	0.09	濁黄灰褐色土						
P.582	不整形	0.36×(0.10)	0.13	濁黄灰褐色土						
P.583	不整形	0.58×0.30	0.15	濁黄灰褐色弱粘質土						
P.584	不整形	0.31×0.29	0.10	濁黄灰褐色弱粘質土						
P.585	不整形	0.46×0.44	0.14	濁黄灰褐色土						
P.586	不整形	0.61×(0.22)	0.09	濁黄灰褐色土						
P.587	不整形	0.59×0.40	0.06	濁黄灰褐色土						
P.588	楕円形	0.55×0.50	0.10	濁黄灰褐色土						
P.589	不整形	0.64×0.33	0.14	濁黄灰褐色土						
P.590	不整形	0.60×0.37	0.14	濁黄灰褐色土						
P.591	不整形	0.42×0.36	0.04	濁黄灰褐色土						
P.592	不整形	0.46×0.41	0.08	濁黄灰褐色土						
P.593	隅丸三角	0.50×0.35	0.08	濁黄灰褐色土						
P.594	不整形	0.55×0.49	0.41	濁黄灰褐色弱粘質土						
P.595	楕円形	0.38×0.32	0.17	濁黄灰褐色土						
P.596	隅丸方形	0.48×0.37	0.08	濁黄灰褐色土						
P.597	隅丸方形	0.23×0.21	0.04	濁黄灰褐色土						
P.598	不整形	0.41×0.16	0.12	濁黄灰褐色土						
P.599	楕円形	0.31×0.26	0.15	濁黄灰褐色土						
P.600	不整形	0.51×0.44	0.15	濁黄灰褐色土						
P.601	楕円形	0.30×0.25	0.15	濁黄灰褐色土						
P.601	楕円形	0.19×0.16	0.11	濁黄灰褐色土						
P.602	円形	0.32×0.30	0.11	濁黄灰褐色土						
P.603	不整形	0.45×0.42	0.15	濁黄灰褐色土						
P.604	不整形	0.57×(0.53)	0.08	濁黄灰褐色弱粘質土						
P.605	楕円形	0.32×0.18	0.09	濁黄灰褐色土						
P.606	楕円形	0.28×0.21	0.05	濁黄灰褐色土						
P.607	円形	0.18×0.17	0.04	濁黄灰褐色土						
P.608	楕円形	0.35×0.28	0.14	濁黄灰褐色土						
P.609	不整形	0.75×0.37	0.21	濁黄灰褐色弱粘質土						
P.610	楕円形	0.21×0.18	0.09	濁黄灰褐色土						
P.611	円形	0.26×0.27	0.13	濁黄灰褐色土						
P.612	円形	0.36×0.35	0.11	濁黄灰褐色土						
P.613	不整形	0.21×0.18	0.09	濁黄灰褐色土						
P.614	楕円形	0.30×0.22	0.12	濁黄灰褐色土						
P.615	円形	0.13×0.13	0.07	濁黄灰褐色土						
P.616	不整形	0.42×0.36	0.13	濁黄灰褐色土						
P.617	楕円形	0.32×0.28	0.12	濁黄灰褐色土						
P.618	楕円形	0.29×0.22	0.13	濁黄灰褐色土						
P.619	楕円形	0.26×0.25	0.17	濁黄灰褐色土						
P.620	楕円形	0.27×0.24	0.10	濁黄灰褐色土						
P.621	隅丸三角	0.39×0.25	0.06	濁黄灰褐色土						
P.622	円形	0.14×0.15	0.06	濁黄灰褐色土						
P.623	不整形	0.38×0.24	0.06	濁黄灰褐色土						
P.624	不整形	0.50×0.34	0.07	濁黄灰褐色土						
P.625	不整形	0.22×0.18	0.12	濁灰褐色土						
P.626	不整形	0.21×0.16	0.10	濁黄灰褐色土						
P.627	楕円形	0.22×0.18	0.12	濁黄灰褐色土						
P.628	楕円形	0.23×0.18	0.06	濁黄灰褐色土						
P.629	隅丸方形	0.21×0.17	0.06	濁黄灰褐色土						

遺構番号	形状	規模(m)	深さ(m)	土色・土質	出土遺物					備考
					弥生	土師	須恵	黒色	瓦器	
P.630	楕円形	0.14×0.14	0.13	濁黄灰褐色土						
P.631	隅丸三角	0.40×0.30	0.15	濁黄灰褐色土						
P.632	不整形	0.22×0.20	0.14	濁黄灰褐色土						
P.633	隅丸方形	0.35×0.33	0.22	濁黄灰褐色土						
P.634	不整形	0.22×0.20	0.03	濁黄灰褐色土						
P.635	楕円形	0.30×0.26	0.37	濁黄灰褐色土						
P.636	円形	0.27×0.28	0.17	濁黄灰褐色土						
P.637	円形	0.27×0.27	0.17	濁黄灰褐色土						
P.638	円形	0.13×0.13	0.02	濁黄灰褐色土						
P.639	隅丸方形	0.30×0.15	0.13	濁黄灰褐色土						
P.640	不整形	0.27×0.21	0.17	濁黄灰褐色土						
P.641	楕円形	0.24×0.23	0.17	濁黄灰褐色土						
P.642	不整形	0.36×0.33	0.11	濁灰褐色土						
P.643	不整形	0.44×0.35	0.05	濁黄灰褐色土						
P.644	楕円形	0.35×0.28	0.09	濁黄灰褐色土						
P.645	隅丸方形	0.42×0.37	0.11	濁黄灰褐色土						
P.646	楕円形	0.28×0.22	0.15	濁黄灰褐色土						
P.647	円形	0.17×0.15	0.07	濁黄灰褐色土						
P.648	不整形	0.68×0.40	0.32	濁黄灰褐色土						
P.649	円形	0.19×0.18	0.07	濁黄灰褐色土						
P.650	円形	0.16×0.15	0.06	濁黄灰褐色土						
P.651	円形	0.16×0.15	0.04	濁黄灰褐色土						
P.652	楕円形	0.21×0.15	0.05	濁黄灰褐色土						
P.653	不整形	0.50×0.44	0.05	濁黄灰褐色土						
P.654	不整形	0.68×0.51	0.07	濁黄灰褐色土						
P.655	楕円形	0.31×0.25	0.05	濁黄灰褐色土						
P.656	円形	0.24×0.24	0.04	濁黄灰褐色土						
P.657	不整形	0.49×(0.45)	0.08	濁黄灰褐色土						
P.658	楕円形	0.34×0.22	0.16	濁黄灰褐色土						
P.658	不整形	0.36×(0.24)	0.06	濁黄灰褐色土						
P.659	楕円形	0.16×0.14	0.05	濁黄灰褐色土						
P.660	楕円形	0.24×0.24	0.06	濁黄灰褐色土						
P.661	楕円形	0.35×0.29	0.15	濁黄灰褐色土						
P.662	不整形	0.35×0.30	0.05	濁黄灰褐色土						
P.663	隅丸方形	0.36×0.35	0.07	濁黄灰褐色土						
P.664	不整形	0.54×0.35	0.05	濁黄灰褐色土						
P.665	不整形	0.35×0.30	0.07	濁黄灰褐色土						
P.666	楕円形	0.21×0.18	0.05	濁黄灰褐色土						
P.667	円形	0.24×0.25	0.19	濁黄灰褐色土						
P.668	不整形	0.55×0.48	0.27	暗灰褐色混礫土						
P.669	不整形	0.81×0.45	0.14	濁黄灰褐色土						
P.670	不整形	0.33×0.17	0.12	濁黄灰褐色土						
P.671	不整形	0.66×0.45	0.22	濁黄灰褐色土						
P.672	円形	0.17×0.17	0.27	濁黄灰褐色土						
P.673	楕円形	0.46×0.24	0.05	濁黄灰褐色土						
P.674	不整形	0.94×0.65	0.22	濁灰褐色土						
P.675	不整形	(1.10)×0.36	0.05	濁黄灰褐色土						
P.676	不整形	0.18×0.17	0.06	濁黄灰褐色土						
P.677	隅丸方形	0.31×0.31	0.12	濁黄灰褐色土						
P.678	円形	0.28×0.28	0.07	濁黄灰褐色土						
P.679	不整形	0.24×0.18	0.06	濁黄灰褐色土						
P.680	円形	0.19×0.19	0.07	濁黄灰褐色土						
P.681	不整形	0.33×0.13	0.04	濁黄灰褐色土						
P.682	不整形	0.26×0.24	0.11	濁黄灰褐色土						
P.683	不整形	0.24×0.19	0.07	濁黄灰褐色土						
P.684	不整形	0.22×0.21	0.19	濁黄灰褐色土		○				
P.685	不整形	0.45×0.38	0.16	濁黄灰褐色土						
P.686	不整形	0.36×0.35	0.11	濁黄灰褐色土						
P.687	不整形	0.36×0.34	0.19	濁黄灰褐色土						
P.688	不整形	0.72×0.38	0.14	濁黄灰褐色土						
P.689	楕円形	0.18×0.14	0.05	濁黄灰褐色土						
P.690	楕円形	0.30×0.17	0.08	濁黄灰褐色土						
P.691	不整形	0.51×0.30	0.11	濁灰褐色粘質土						
P.692	不整形	0.37×(0.16)	0.09	濁黄灰褐色土						
P.693	楕円形	0.38×0.32	0.04	濁黄灰褐色土						

表 3　ピット一覧表

Ⅳ　出土遺物

今回の調査では、土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・磁器・製塩土器・円筒埴輪・石器・サヌカイト等が出土している。その中でも溝１・２からは円筒埴輪が多量に出土している。各遺構からの遺物の出土状況は表１～３のとおりである。

以下、遺構出土遺物、包含層出土遺物の順に観察を加え、項を改めて溝１・２出土の円筒埴輪について観察する。なお、図化した遺物については表４・５にまとめた。

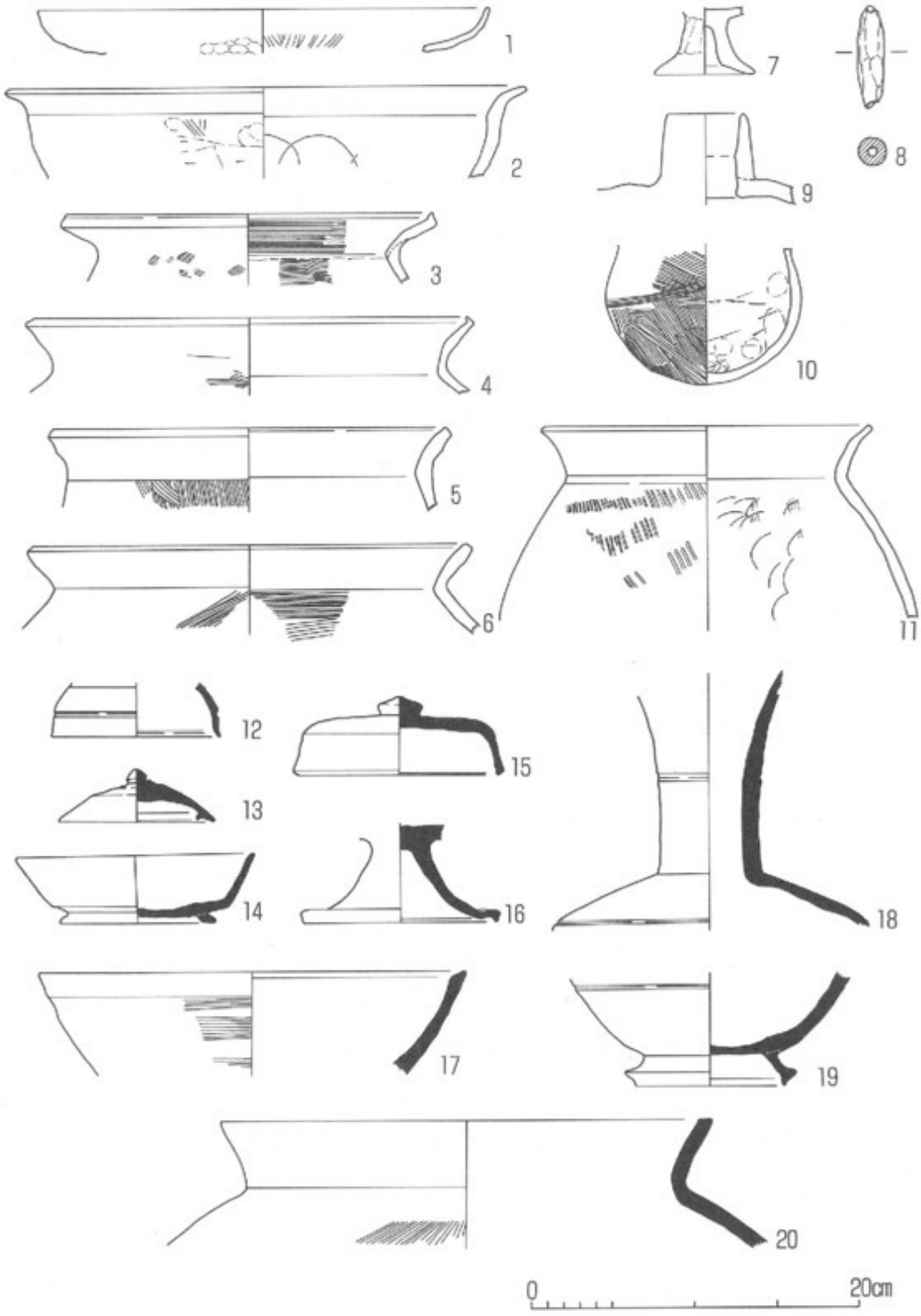
１．遺構出土遺物

溝１（挿図６・７－１～23　図版10・11）

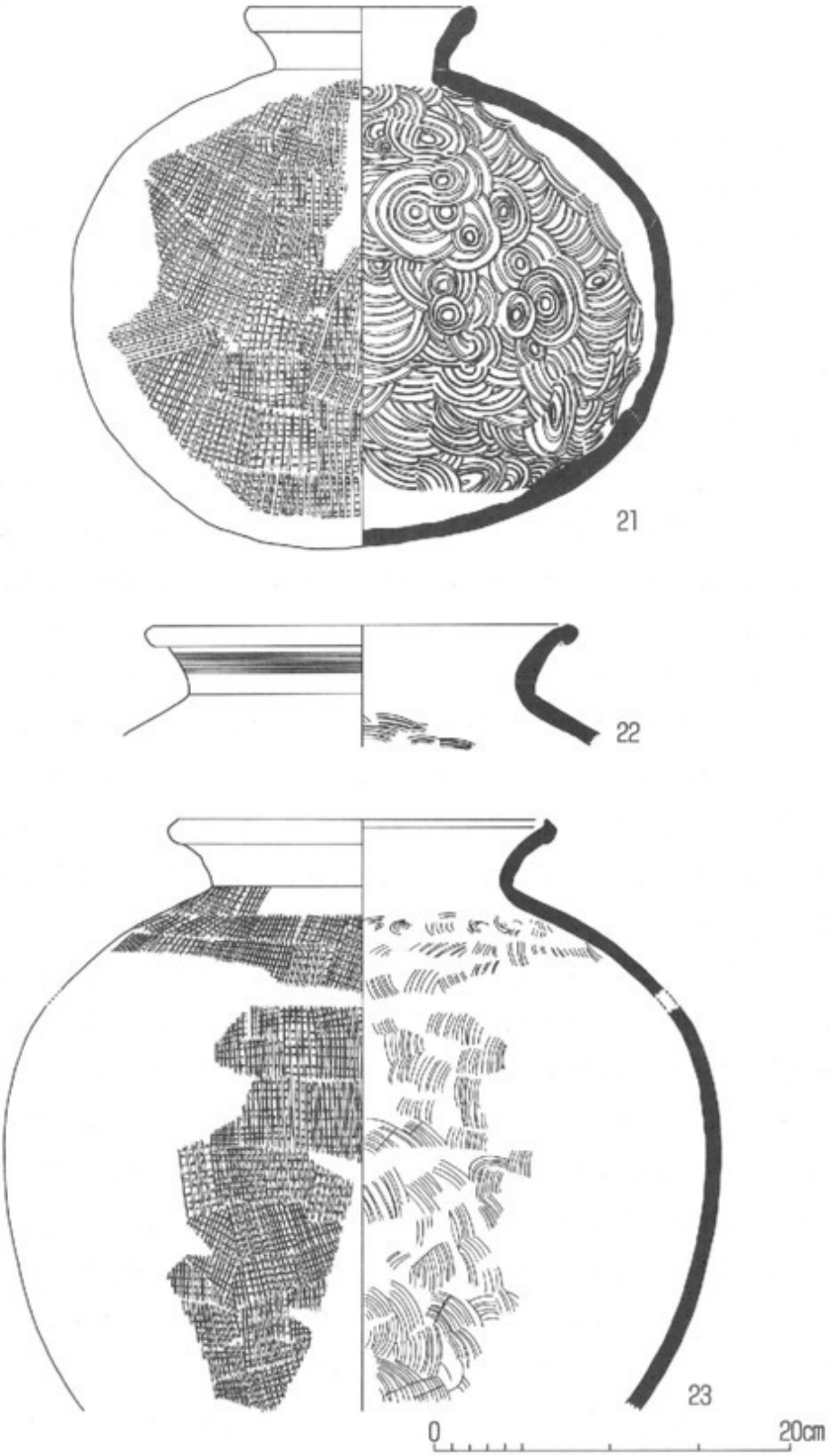
土師器・須恵器・韓式系土器・円筒埴輪が出土している。

土師器は皿・高杯・鍋・甕・土釜・置き竈・壺・土錘等がある。皿には、口縁端部が丸くおさまるタイプ（１）と内側に巻き込んで丸く肥厚するタイプがある。両タイプも内面に斜放射状暗文が認められる。高杯は、ミニチュア（７）と面取りのない脚柱部を杯部に挿入した後粘土紐を貼り付けナデ上げているタイプがある。後者には杯部内面に斜放射状暗文と螺旋状暗文を施すものがある。鍋は体部外面をタテ方向のハケメ調整するタイプとヘラケズリ調整するタイプ（２）がある。甕には大型（３～６）と小型（10）がある。大型は口径22.3cm～26.5cmを測る。口縁部が大きく開き、端部は内側に巻き込んで肥厚するタイプ（３・４）と大きく開く口縁部に端部が外傾する面もつタイプ（５・６）がある。小型の（10）は半球状の体部を持ち口縁部を欠失している。土釜は生駒西麓産の胎土をもつ口縁部や鍔部片がある。置き竈は、庇片や体部片がある。体部内面は２次焼成を受け変色しているものや煤の付着するものがある。壺は１点（９）ある。土錘は管状の（８）が１点ある。

須恵器は蓋杯・高杯・蓋・壺・鉢・横瓶・甕等がある。杯蓋は古いタイプと新しいタイプがある。古いタイプには稜が明瞭に残る（12）がある。新しいタイプには口縁部内面にかえりをもつ（13）と天井部に宝珠つまみをもち口縁部が短く下方に屈曲するものがある。杯身は高台を有する（14）がある。高杯は脚部（16）がある。透かしは認められない。蓋（15）は短頸壺の蓋がある。壺は、短頸壺と長頸壺がある。短頸壺は口径が10cm以下の小型のと20cm以上ある大型（20）がある。長頸壺は口縁部が欠失している（18）と底部が残存する（19）がある。（18）は細長い頸部から大きく開く体部をもつ。鉢は鉄鉢と呼ばれるタイプと体部から口縁部にかけて外上方にのびるタイプ（17）がある。横瓶は（21）が１点ある。俵状の体部に口径24.45cmを測る太短い口縁部が付く。体部中央に円盤状の粘土の蓋が観察できる。甕は口縁部が短く外反し、口縁端部が丸くおさまるタイプ（22）と内側につまみ上げるタイプ（23）がある。



挿図6　溝1出土遺物



挿図7　溝1出土遺物

韓式系土器は甕（11）が1点ある。体部外面平行叩き（3本／cm）が施され、内面は当て具の痕がナデ消されている。

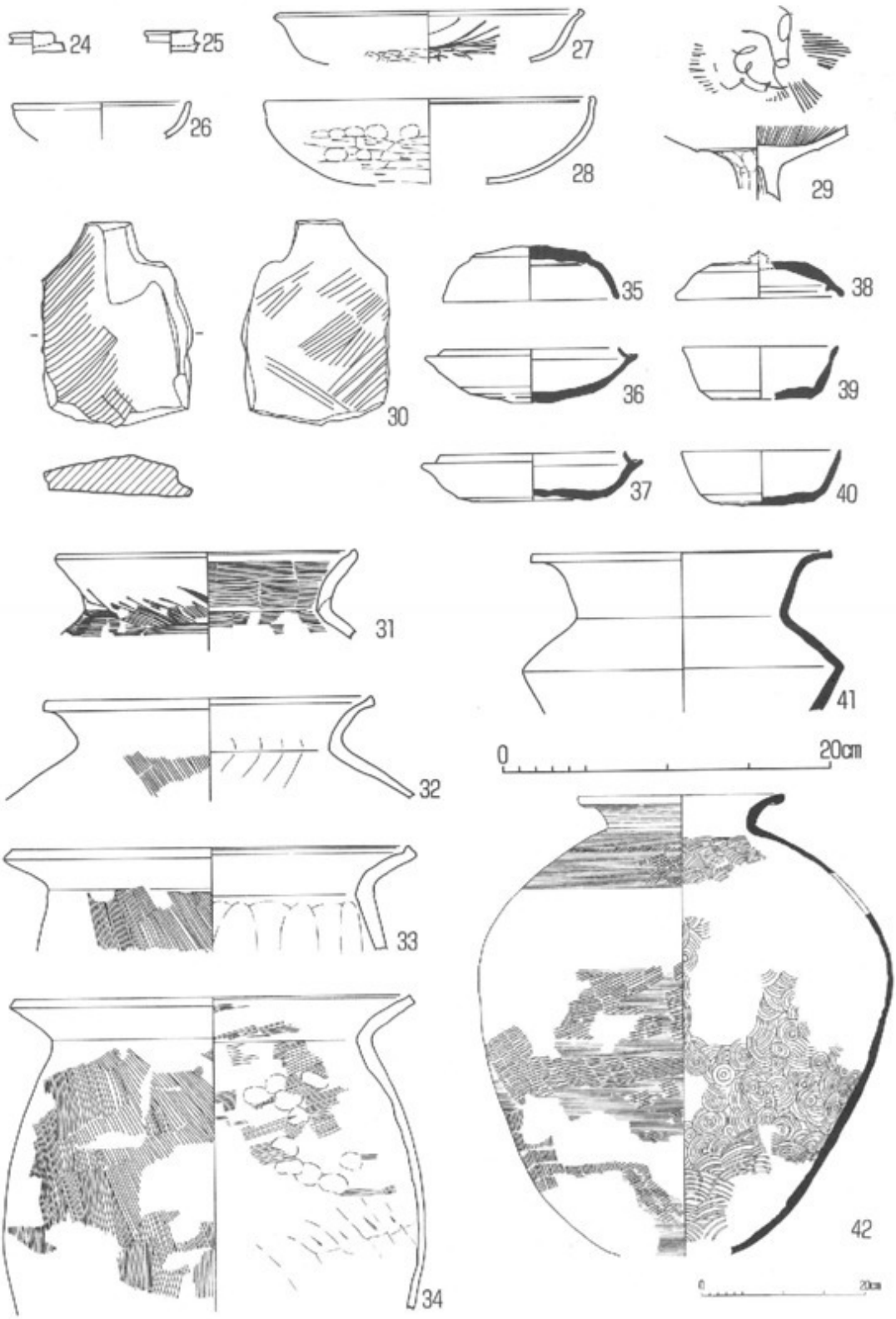
溝2（挿図8－24～42　図版10・11）

土師器・須恵器・円筒埴輪・製塩土器・サヌカイトが出土している。

土師器は皿・杯・蓋・高杯・置き竈・土釜・甕等が出土している。皿は皿Aと高台の付く皿Bがある。皿Aは口縁部が内彎して立ち上がり端部に内傾する面をもつタイプ（26）と端部が内側に巻き込んで丸く肥厚するタイプ（27）がある。後者は口縁部内面に斜放射状暗文や2段斜放射状暗文が見込み部分に螺旋状暗文が施されている。また、底部外面をヘラケスリ調整するものとナデ調整するものがある。皿Bは平らな底部から外反して口縁部に至り端部は内側に肥厚し丸くおさる。底部には断面台形の高台が貼り付けられている。杯は杯Aがある。杯Aは皿Aと同様に口縁端部が内傾する面をもつタイプ・内側に肥厚して丸くおさまるタイプの他、端部が丸くおさまるタイプ・つまみ出すようにおさまるタイプ・端部内面に沈線が巡るタイプ（28）がある。蓋はつまみ部分がある。つまみは擬宝珠状のもの（24）と偏平なボタン状のもの（25）がある。高杯は脚部をへらによる面取りを行うものと面取りをしない（29）がある。また、杯部片には内面に2段斜放射状暗文の施されているものがある。置き竈は焚き口部分と思われる（30）がある。（30）は生駒西麓産の胎土である。土釜は生駒西麓産の胎土をもつ口縁部や鍔部片がある。鍔には煤が付着するものがある。甕は大型のもので、口縁部が大きく開き端部が内側に巻き込んで肥厚するタイプ（31～33）と口縁部が大きく開き端部内面がわずがにくぼみ外傾する面をもつタイプ（34）がある。

須恵器は蓋杯・甑・鉢・壺・甕等がある。杯蓋は天井部が回転ヘラ切り未調整（35）・口縁部内面にかえりが付く（38）・口縁部内面のかえりが無くなり平らな天井部から緩やかに下り口縁部が垂下するもの等がある。杯身は立ち上がりがあるもの（36・37）・底が平らで口縁部が直立気味に立ち上がる（39・40）・底部に高台が付くもの等がある。甑は比較的小さな球形の体部にラッパ状に開く頸部をもつタイプのものが1点ある。鉢は鉄鉢と呼ばれるタイプとすり鉢タイプとがある。壺は、短頸壺・長頸壺・広口壺がある。短頸壺は大型のものがある。長頸壺は大きく開く口縁部が1点ある。広口壺は（41）が1点ある。甕は口頸部外面に文様帯のあるタイプとないタイプがある。文様帯のないタイプには口縁部が短く外反し、端部が丸くおさまるタイプ（42）と内側につまみ上げるタイプがある。

製塩土器は口縁部片が2点ある。どちらも口縁が外反し端部が丸くおさまる。紀淡海峡周辺に分布するタイプである。[註5]



挿図8　溝2出土遺物

サヌカイトは剥片が4点ある。

落ち込み1（挿図9－43～50　図版12）

土師器・瓦器がある。

土師器は皿・杯がある。皿（43～45・49）は口径約9cmを測る小皿である。（43～46）は底部を回転糸切りしている回転台土師器である。口縁端部が丸くおさまる（45・46）と内傾する面をもつ（43・44）がある。いずれも見込み部分を「の」の字状にナデた後口縁部をヨコナデ調整している。杯（47・48）は口径約15cmを測る。底部を回転糸切り、見込み部分を「の」の字状にナデた後口縁部をヨコナデ調整している回転台土師器である。

瓦器は椀（50）が1点ある。口縁部内外面ヨコナデの後空白の目立つ粗いヘラミガキ、体部内外面不規則な方向のヘラミガキが施されている。

土壙2（挿図9－51～72　図版13）

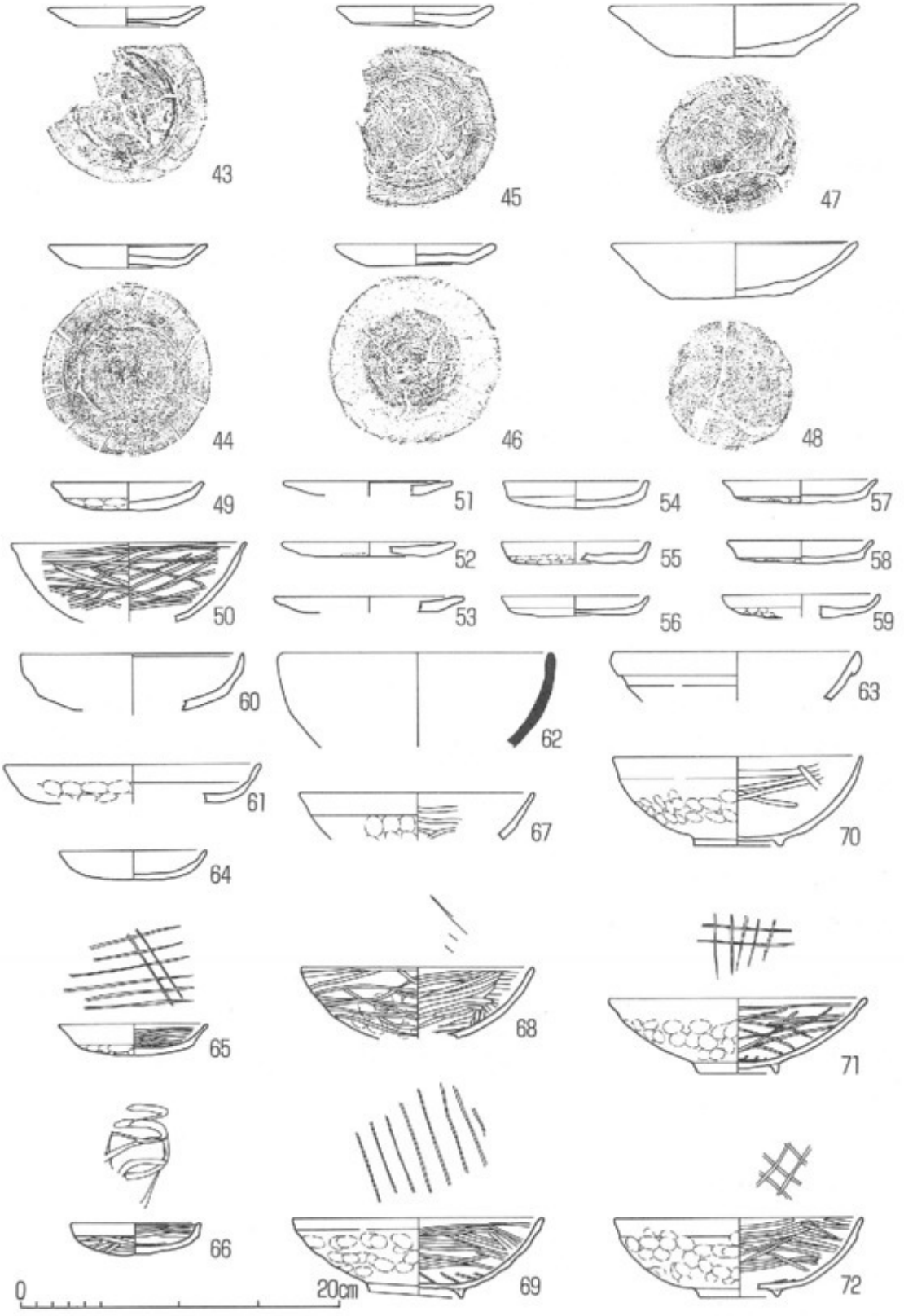
土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・白磁・サヌカイト・鉄釘がある。

土師器は皿・杯・鉢・土釜・甕等がある。皿は口径10cm前後の小皿と皿Aがある。小皿は口縁部が大きく開き内面に1条沈線の巡るタイプ（51～53）・外反するタイプ（54～58）・内彎気味に立ち上がるタイプ（59）がある。杯は丸みをもつ底部から内彎気味に立ち上がり口縁部に至り、端部が内傾する面をもつタイプ（60）・丸くおさまるタイプがある。鉢は1点ある。内彎する口縁部、端部は内側に肥厚し上端に平面を成す。土釜は生駒西麓産の胎土をもつ鍔部片がある。甕は外反する口縁部片がある。

須恵器は蓋杯・鉢がある。杯蓋は口縁部が欠失し、天井部に擬宝珠つまみが付くタイプが1点ある。鉢は鉄鉢タイプ（62）が1点ある。

黒色土器は椀の口縁部片等がある。いずれもA類である。椀の口縁部片は磨滅が著しく調整は不明であるが内面に沈線が1条巡る。

瓦器は小皿・椀がある。小皿は口径8.0 ～9.25cmを測る。口縁部が内彎して立ち上がる（64・66）直線的にのびる（65）がある。口縁部内面横方向の密なヘラミガキが施され、見込みは斜格子状のヘラミガキが施される（65）と見込みに不規則なヘラミガキが施される（66）がある。椀は口径14.25～15.45cm、器高4.65～5.7cm、器高指数30.1～37.1を測る。口縁部が内彎して立ち上がるタイプ（68～70・72）と直線的に立ち上がるタイプ（67・71）がある。端部は丸くおさまるが、内傾する面を持つものも少量であるが認められる。調整は外面空白の目立つ不規則なヘラミガキが内面密で不規則なヘラミガキが施される（68）と外面にヘラミガキが施されず内面空白の目立つ不規則な方向のヘラミガキが施される（67・69～72）がある。見込み部分



挿図９　落ち込み１・土壙２出土遺物

のヘラミガキは平行線状のものと斜格子状のものがある。

白磁は椀（63）が1点ある。口径15.2cmを測り、口縁部は玉縁状を呈する。

サヌカイトは剥片が1点ある。

建物2（挿図10－73・74・78）

土師器・須恵器・製塩土器・サヌカイトがある。

土師器は皿・杯・鉢・土釜・甕がある。皿・杯は口縁部片があり、内面に正放射状暗文や斜放射状暗文が施されるものがある。鉢は鉄鉢状のもの（73）が1点ある。土釜は生駒西麓産の胎土の鍔部片がある。甕は大小の口縁部片がある。小型には（74）がある。

須恵器は蓋杯・鉢がある。杯蓋は口縁部内側にかえりをもつ（78）がある。杯身は立ち上がりがあるタイプと高台をもつタイプがある。鉢はすり鉢がある。

製塩土器は口縁部片がある。紀淡海峡周辺に分布するタイプである。

サヌカイトは剥片が1点ある。

建物4（挿図10－75・79）

土師器・須恵器・黒色土器がある。

土師器は皿・杯・土釜・甕等の口縁部片がある。土釜は生駒西麓産の胎土の口縁部片がある。

須恵器は蓋杯がある。杯蓋には口縁部内側にかえりをもつ（75・79）がある。

黒色土器はA類の細片がある。

ピット3（挿図10－85～87）

土師器・黒色土器・瓦器がある。

土師器は杯（85・86）がある。杯は口径約15cmを測り、丸みをもつ底部から外上方に開くものである。口縁部内面に沈線が1条巡る。高台が貼り付けられた可能性がある。

黒色土器はA類の椀（87）がある。口径14.1cmを測る。口縁部内面に沈線が1条巡る。

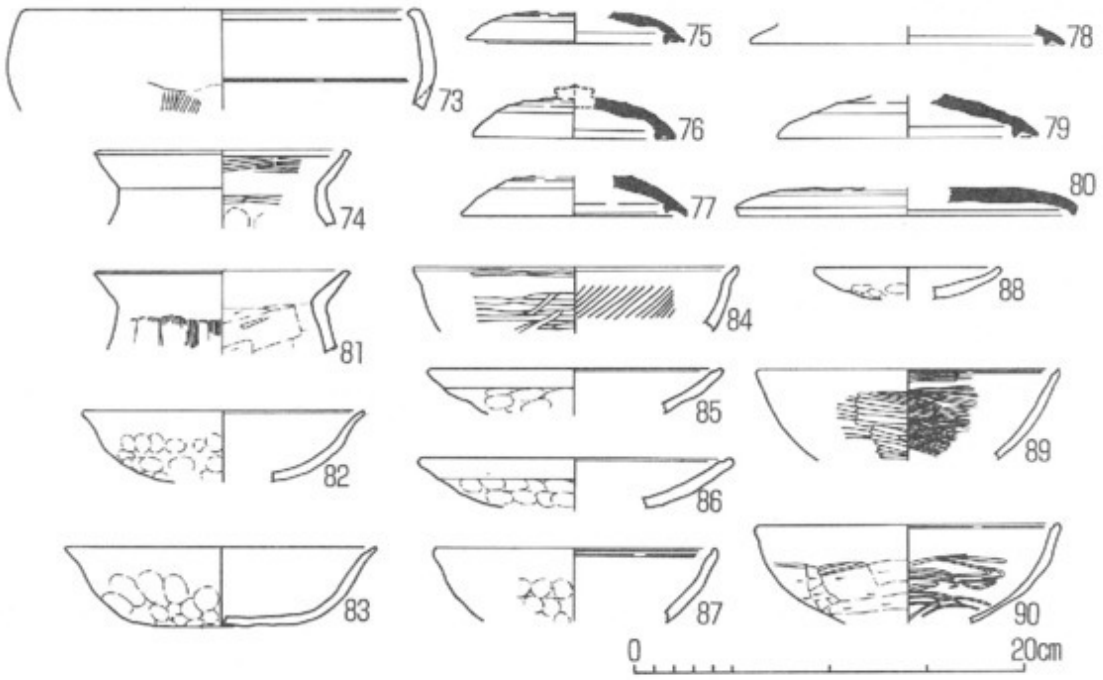
瓦器は細片がある。

ピット20（挿図10－89）

黒色土器のA類の椀（89）が1点ある。口縁部内面に沈線が1条巡る。

ピット162（挿図10－76）

土師器・須恵器がある。



挿図10　建物・ピット出土遺物

土師器は細片で器種の判るものはない。

須恵器は口縁部内側にかえりのある杯蓋（76）が1点ある。

ピット119　（挿図10－81）

土師器の甕（81）が1点ある。

ピット229　（挿図10－80）

土師器・須恵器がある。

土師器は蓋がある。

須恵器は口縁部が垂直に屈曲する杯蓋（80）が1点ある。

ピット349　（挿図10－77）

土師器・須恵器がある。

土師器には小皿・皿・甕の口縁部片がある。

須恵器は蓋杯がある。口縁部内側にかえりのある杯蓋（77）がある。

ピット355　（挿図10－84）

土師器・須恵器がある。

土師器には杯がある。杯（84）は内彎して立ち上がり、口縁部付近で外反し端部は丸くおさまるタイプである。

須恵器は細片がある。

ピット411（挿図10－90）

土師器・黒色土器がある。

土師器は細片がある。

黒色土器はA類の椀（90）がある。内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に沈線が1条巡る。

ピット447（挿図10－88）

土師器の小皿（88）がある。丸みをもつ底部から外上方にのび口縁部に至る。口縁端部は丸くおさまる。

ピット497（挿図10－82・83　図版13）

土師器・黒色土器がある。

土師器は杯（82・83）がある。口径約15cmを測り、平らな底部から内彎しながら立ち上がり口縁部で大きく外反する。

黒色土器はB類の高台がある。

2．包含層出土遺物

第8層（挿図11－91～105　図版14）

土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・白磁・製塩土器・埴輪・サヌカイトがある。

土師器は奈良時代の皿・蓋・杯・高杯・甑・鍋・土釜・甕や中世の小皿・羽釜等がある。皿は皿A（99）がある。平らな底部から外反して立ち上がり、口縁部内面に沈線が1条巡る。蓋は平らな天井部からゆるやかに下外方に下り、口縁部は水平にのび丸くおさまる（97）がある。杯はやや丸みをもつ底部から内彎して立ち上がり口縁部に至り、端部が尖り気味におさまる（98）・底部に高台の付くタイプがある。高杯は裾部片や柱部片と思われるものがあるが、細片である。甑は口縁部が直立するタイプがある。鍋は片口片がある。土釜は生駒西麓産の胎土で口縁部が大きく外反し、端部が丸くおさまるタイプと内側にわずかに肥厚するタイプ（101）がある。甕は小型（95・96・100）と大型がある。小皿は平らな底部から外上方にのび口縁端部内面に沈線が1条巡る（91・92）、内彎気味に立ち上がり端部が丸くおさまる（93）、外反し

て立ち上がり口縁端部が丸くおさまるもの（94）がある。

須恵器は蓋杯・壺・甕等がある。蓋杯は古墳時代から奈良時代のものがある。杯蓋には天井部と口縁部の境に稜が明瞭に残るタイプ・天井部に擬宝珠つまみをもち天井部が水平にのび口縁部が短く屈曲するタイプがある。杯身には立ち上がりがあるタイプ・蓋が逆転した形状のもの（102・103）・高台が付くタイプ（104）がある。壺は小型短頸壺がある。甕は大小の口縁部片・体部片がある。大型のものには頸部外面に波状文の施されるものがある。

黒色土器はA・B類がある。B類には口縁端部が丸くおさまるものと内面に沈線が1条巡るものがある。

瓦器は椀・小皿がある。椀は口縁部内外面に密なヘラミガキが施されるもの、体部外面にヘラケズリの後ヘラミガキがほどこされるものや見込み部分に平行あるいは斜格子状のヘラミガキが施されているものがある。（105）は器高指数3.7を測り、内彎気味に立ち上がり口縁部でわずかに外反し端部は丸くおさまる。底部には断面台形の高台が貼り付けられている。小皿は口縁部外面がヨコナデ、他は密なヘラミガキが施されているものがある。

白磁は皿の口縁部片がある。

製塩土器は口縁部片がある。紀淡海峡周辺に分布するタイプである。

サヌカイトは剥片がある。

第5～7層（挿図11－106 ～117　図版14）

土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・瓦質土器・白磁・製塩土器・無釉焼締陶器・円筒埴輪・瓦・サヌカイトがある。

土師器は奈良時代の皿・杯・蓋・鉢・鍋・土釜・置き竈・甕や中世の小皿・皿・椀・羽釜等がある。奈良時代の皿は口縁部内面に斜放射状暗文が施されている。杯は内彎気味に立ち上がり口縁端部が丸くおさまるタイプと内傾する面をもつタイプがある。蓋はつまみ部分がある。つまみは偏平なボタン状のものがある。鉢は内彎気味に立ち上がる口縁部に端部は上面に平面をもつタイプがある。鍋は（112）が1点ある。土釜は生駒西麓産の胎土で口縁部が大きく外反し、端部が丸くおさまるタイプ内側に肥厚するタイプがある。鍔はほぼ水平にのびる。置き竈は生駒西麓産の胎土の（113）が1点ある。截頭砲弾形をする竈の口縁部と思われる。甕は小型と大型の口縁部片がある。小型には（114）がある。中世の小皿は、内彎して口縁部に至る（106）・「て」の字口縁タイプ（107）・底部が回転糸切りされる回転台土師器と呼ばれる（108）・高台の付く（109）がある。皿は平らな底部から内彎気味に立ち上がり口縁部に至るタイプ（110）とやや凹凸のある底部から外上方にのびるタイプ（111）がある。椀は口縁部が丸くおさまるものや内側に1条沈線が巡るものがある。羽釜は河内Bや和泉Cがある。

須恵器は蓋杯・高杯・鉢・壺がある。蓋杯は古墳時代から奈良時代のものがある。杯蓋は口縁部内面にかえりをもつタイプ・天井部に擬宝珠つまみをもち天井部が水平に伸び口縁部が短く垂下するタイプがある。杯身は高台が付くタイプがある。鉢は鉄鉢と思われる口縁部片がある。壺は長頸壺の口縁部片がある。

黒色土器はA・B類両方のタイプがある。B類は口縁部内面に1条沈線の巡るものがある。

瓦器は小皿・椀がある。小皿は内彎して立ち上がり口縁端部は1条沈線が巡るものがある。椀は見込みの部分に密な平行線状暗文や斜格子状暗文が施される。体部外面へラケズリの後ヘラミガキが施されているものがある。

瓦質土器は外面に平行叩き（2本／cm）調整の施された甕の体部片がある。

無釉焼締陶器は壺の体部片と思われる（116）が1点ある。

白磁は皿・鉢がある。皿は薄手の口縁部片である。鉢は玉縁状口縁のものや高台部分（117）がある。

製塩土器はいずれも紀淡海峡周辺に分布するタイプである。筒状を呈する（115）タイプの他、白色物質の付着する破片などがある。

瓦は土師質の丸瓦片がある。

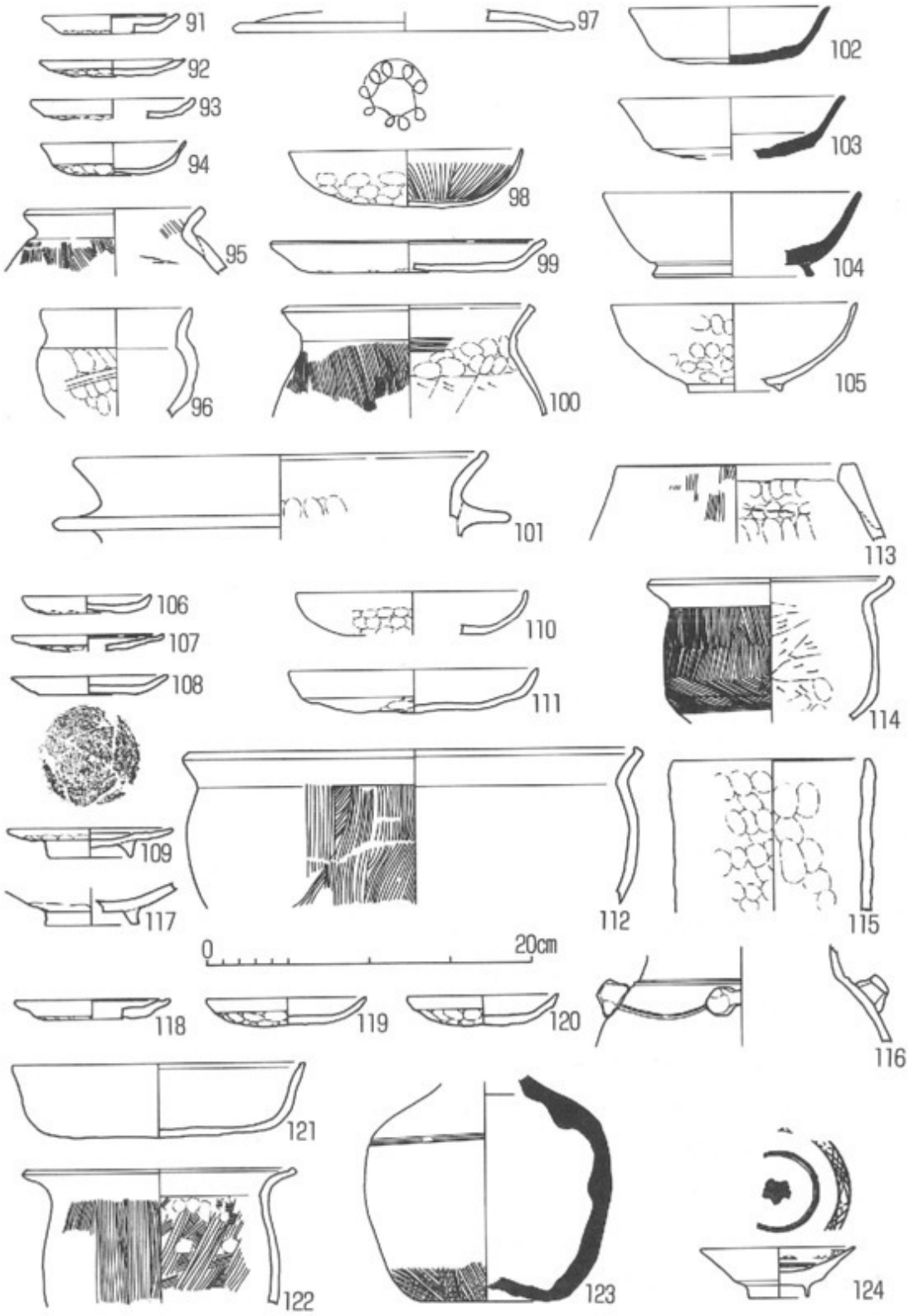
サヌカイトは剝片がある。

第3・4層（挿図11－118 ～123 図版14）

土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・土師質土器・白磁・瓦・サヌカイト・円筒埴輪などがある。

土師器は奈良時代の皿・杯・甑・土釜・甕や中世の小皿・羽釜等がある。奈良時代の皿には口縁部が直線的に延びるもの外反するのもがある。内面には斜放射状暗文の施されるものがある。杯は口縁部がわずがに外反し口縁端部が内側に巻き込むタイプ（121）や内面に2段斜放射状暗文の施されるものもある。甑は底部片が1点ある。土釜は生駒西麓産の胎土をもつもので口縁部が大きく外反し、端部が丸くおさまるタイプと内側にわずかに肥厚するタイプがある。甕は大型・小型（122）の口縁部片がある。中世の小皿は平らな底部から外反して立ち上がり口縁部内面に1条の沈線が巡る（118）・丸みをもつ底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部が尖り気味におさまる（119・120）がある。羽釜は鍔部片のため形態の判るものはない。

須恵器は蓋杯・壺・甕等がある。蓋杯は古墳時代から奈良時代のものがある。杯蓋は天井部と口縁部の境に稜が明瞭に残るタイプ・口縁部内面にかえりをもつタイプ・天井部に擬宝珠つまみをもち天井部が水平に伸び口縁部が短く垂下するタイプがある。杯身は立ち上がりがあるタイプ・高台の付くタイプがある。壺は（123）がある。口縁部は欠失している。体部は緩や



挿図11　包含層出土遺物

かに下外方に下り上半1/3のところで屈曲する。底部は上げ底である。甕は口縁部片がある。

黒色土器はA・B類の口縁部片がある。どちらのタイプも口縁部内面に沈線が1条巡るタイプである。B類は体部外面ヘラケズリ調整が施されている。

瓦器は椀がある。見込み部分に斜格子状暗文が施されているものがある。

土師質土器には平行叩き（2本／cm）が施される甕の体部片がある。

白磁は細片がある。

製塩土器は紀淡海峡周辺に分布するタイプである。

瓦は桟瓦片がある。

サヌカイトは剥片がある。

第1・2層（挿図11－124）

磁器は伊万里焼の染め付け碗（124）が1点ある。口縁部内面には、呉須で四方襷文が施される。見込みには、2重の圏線と中央部分にかなり崩れたコンニャク印判の五弁花が施されている。

3．溝1・2出土埴輪

今回の調査で出土した埴輪はコンテナに約20箱ある。その殆どが溝1・2の埋土から出土したものである。溝の埋土からの出土ということで全てが破片であった。埴輪には円筒埴輪と朝顔形埴輪がある。朝顔形埴輪は口縁部片と思われるものが溝1から6点、溝2から2点出土しているに過ぎない。ここでは円筒埴輪について観察することにする。溝1からは約110 個体分、溝2からは約30個体分の円筒埴輪が出土している。全ての破片のうち黒斑が認められるものは無かった。円筒埴輪を観察するに当たり、次の様な分類基準を設けた。

大きさ・・・小型　直径20cm前後のもの
　　中型　直径30cm前後のもの
　　大型　直径40cm前後のもの

焼成・・・・良好で硬質のもの（本文中では半須恵質と表現する）
　　良好で軟質のもの（本文中では土師質と表現する）

外面調整・・一次調整のみ　タテハケ調整
　　板状のものでナデ調整
　　二次調整（Bd種ヨコハケ調整[註6]）が行われているもの

基底部調整の有無

以上の基準をもとに小型をA～Cタイプに中型をD～Fタイプに細分した。

溝1（挿図12・13－125 ～138 ・図版15・16）

溝1から出土したもので大きさの判るのは54個体ある。その内訳は小型が48点（88.9％）、中型が4点（7.4％）、大型が2点（3.7％）である。

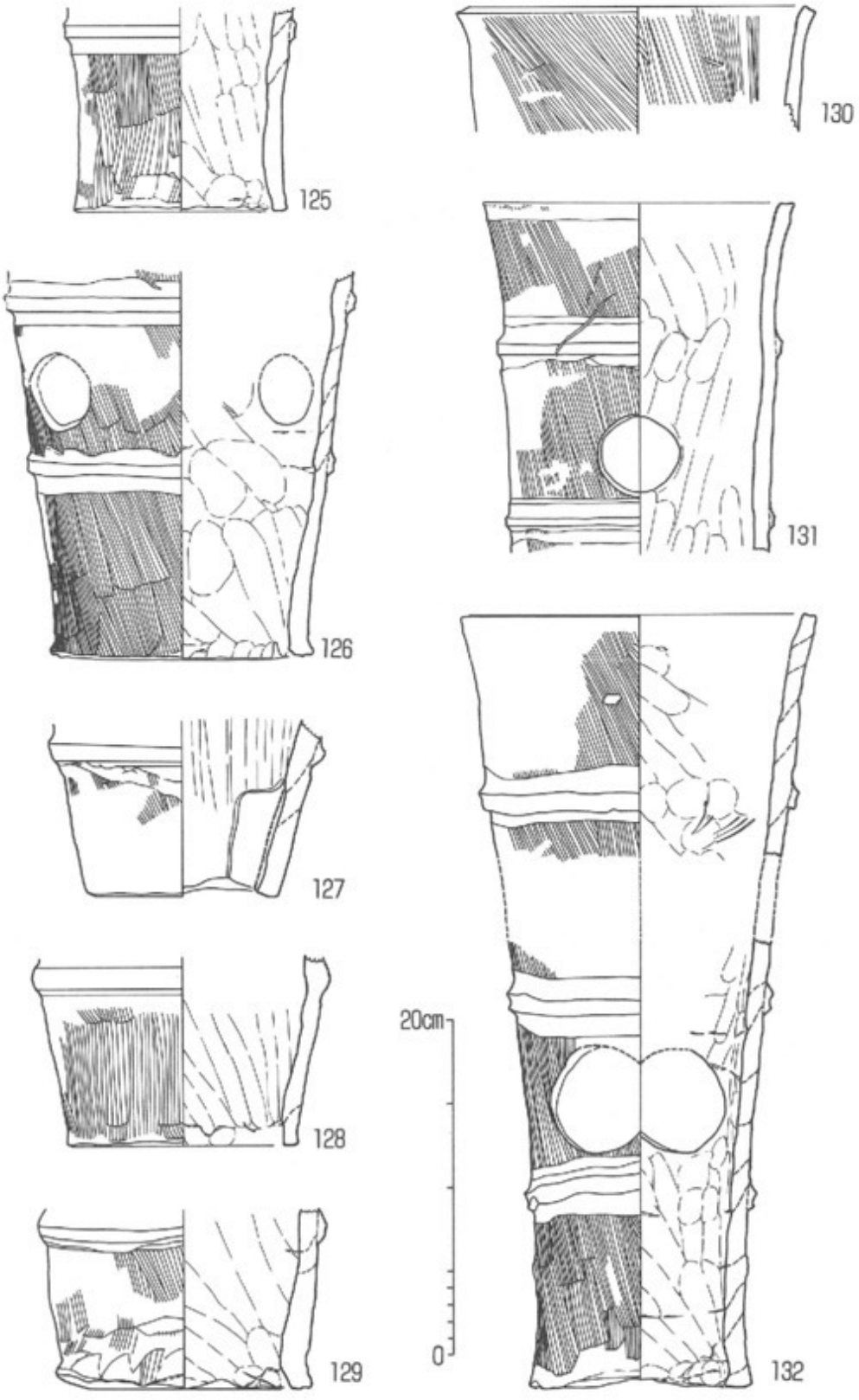
小型には半須恵質のものが18点個（37.5％）、土師質のものが30点（62.5％）ある。さらに小型で半須恵質のものは外面調整が一次調整のタテハケ調整のみで、土師質のものは一次調整がタテハケ調整のみ28点、板状のものでナデ調整が1点、二次調整が行われているもの1点ある。小型は一次調整のみのものが97.9％ある。基底部調整はこの小型に限ってみられる。基底部を観察できるものが22点あり、そのうち基底部調整が行われているものは7点(31.8％)ある。小型には口縁部外面にヘラ記号が認められる。「／」が3点、「×」が1点ある。

半須恵質で外面調整が一次調整タテハケ調整のみのもの（Aタイプ：125・126・130～132）は、(132)が唯一ほぼ原型に復元でき、4段あったものと思われる。基底部調整はいずれも認められず自重によりやや変形している。外面調整は、基底部端まで至る（126)と基底部端まで至らない（125・132）がある。基底部端面に藁状圧痕が残るもの（126・132）がある。口縁部はわずかに外反し端部が外傾する面をもつ（130・132）と上端に平坦面を成す（131）タイプがある。口縁部から凸帯にかけてへら記号「／」の認められるもの（131）が1点ある。凸帯は偏平なM字状を呈するが、一部所々で偏平な台形を呈するものがある。スカシは、2個一組の円形のスカシが互い違いに施されている。

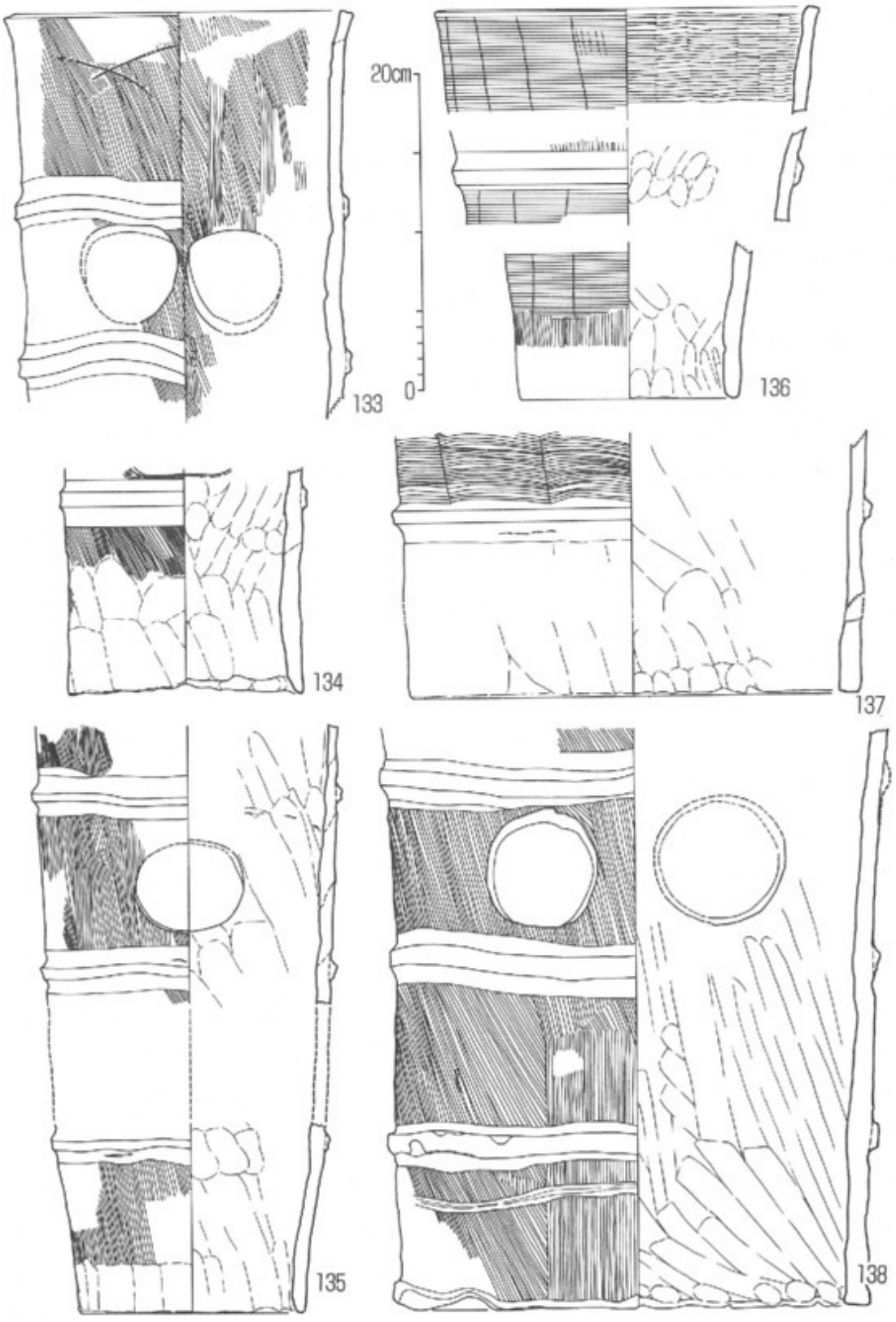
土師質で外面調整が一次調整タテハケ調整のみの（Bタイプ：127～129・133～135）は、基底部調整のある（Ｂａタイプ：134・135）とない（Ｂｂタイプ：127～129）がある。Ｂｂタイプはタイプと同様にいずれも自重により変形し、基底部端面に藁状圧痕が残るもの（128）がある。外面調整は、基底部端まで至る(128)と基底部端まで至らない(127・129)がある。(129)は基底部外面に成形時の布の圧痕が残る。凸帯は偏平な台形で一部三角形を呈するもの（127・128）と偏平な台形を呈する（129）がある。Ｂａタイプは板状工具による押圧を加える基底部調整が施される。凸帯は偏平なM字を呈するタイプ（134）と偏平な台形を呈するタイプ（135）がある。Ｂタイプの口縁部は口縁端部付近で外反し、口縁端部は外傾する凹面を成すタイプ（133）がある。口縁部外面にへら記号「×」の認められる（133）が1点ある。スカシはＡタイプと同様に2個一組の円形のスカシが互い違いに施されている。

土師質で外面調整が二次調整（Ｂｄ種ヨコハケ調整）が行われているＣタイプは今回の調査では（136）1点のみである。基底部調整は認められない。調整は外面一次調整縦方向（垂直に近い左上→右下）のハケメの後、二次調整Ｂｄ種ヨコハケが施されている。外面の調整は基底部端まで至っていない。凸帯は偏平な台形を呈する。スカシは円形のスカシが認められる。

中型には半須恵質のものが認められず、土師質で外面調整が一次調整タテハケ調整のみ（D



挿図12　溝１出土円筒埴輪



挿図13　溝１出土円筒埴輪

タイプ）2点・板状のものでナデ調整（Eタイプ）1点、二次調整が行われている（Fタイプ）が1点ある。

Dタイプは、基底部調整は認められない。(138) は一部ヨコナデ調整されているが大半は未調整で自重により歪みが著しい。凸帯は偏平な台形を呈する。口縁部は口縁端部付近で外反し、外傾する面をもつ。スカシは3段目に2個一組の円形のスカシが相対する所に認められる。

Eタイプは図化できる大きさのものはなかった。基底部調整は認められず、基底部端面には藁状の圧痕が残る。凸帯は偏平な台形を呈する。

Fタイプは（137）1点のみである。基底部調整は認められず、基底部端面に藁状の圧痕が残る。調整は基底部外面は一次調整のナデのみで、2段目以上は二次調整Bd種ヨコハケ（6～9本／cm）が施されている。凸帯は偏平な台形を呈する。

大型は体部片2点ある。中型と同様に半須恵質のものは認められず、土師質のもののみである。外面調整は二次調整（Bd種ヨコハケ）が行われ、凸帯は偏平な台形を呈する。

溝2（挿図14－139 ～144 ・図版17）

溝2から出土したもので大きさの判るものは24個体ある。内訳は小型が15点（62.5%）、中型が9点（37.5%）である。

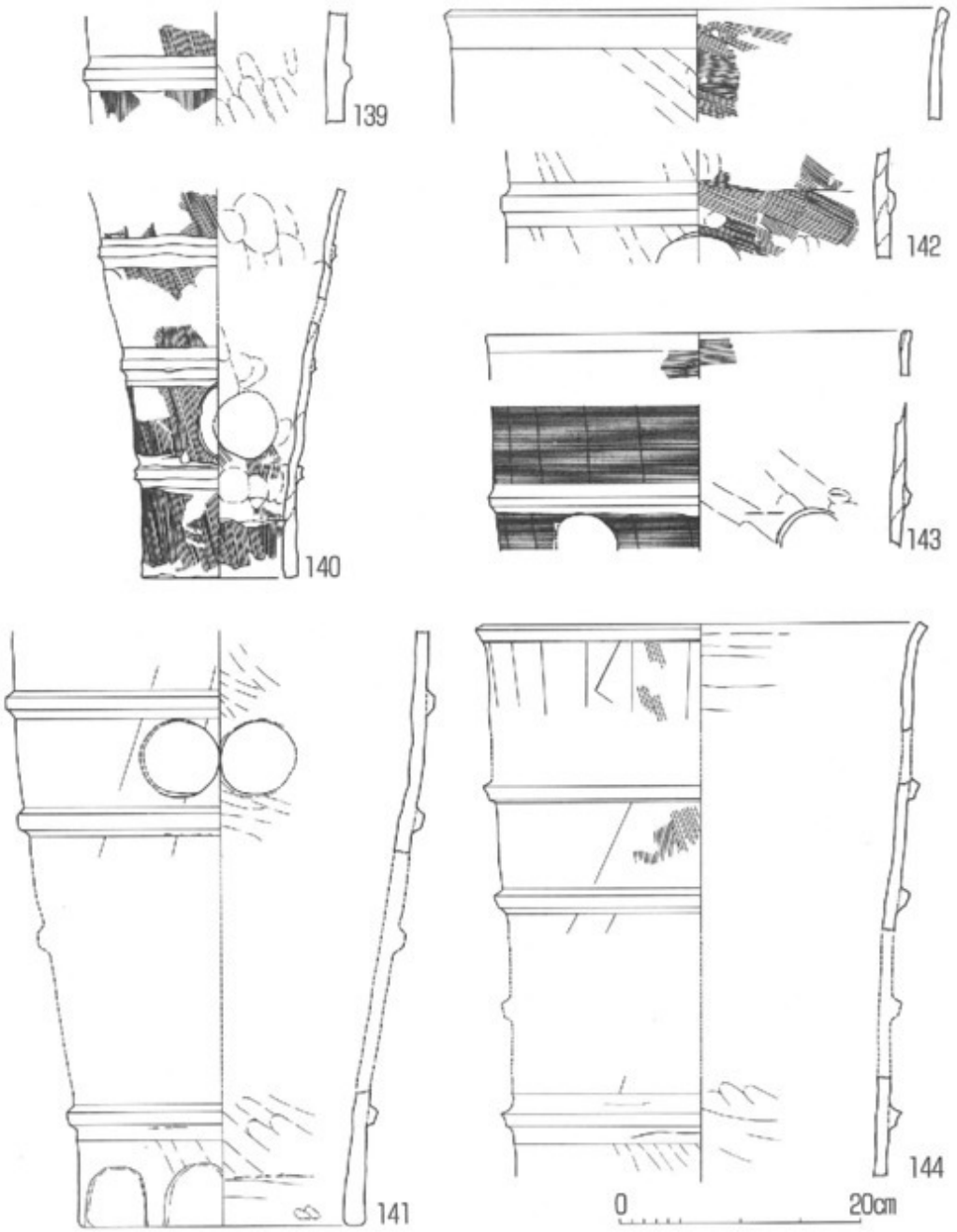
小型は半須恵質のものが4点（26.7%）、土師質のものが11点（73.3%）ある。土師質のものはBタイプのみでCタイプは認められなかった。Aタイプ（140）4点とBタイプ（縦方向のハケメ調整（139）10点、板状のものでナデ1点）がある。

A・B両タイプとも基底部調整は認められず自重によりやや変形している。(140) の基底部端内外面には布のような圧痕が残る。凸帯は偏平なM字状を呈するものと偏平な台形を呈するものがある。スカシは2段目と3段目に互い違いに2点一組の円形のスカシが相対する所に穿たれている。

中型は半須恵質のものが認められず、Eタイプ(142)が2点(22.2%)、Fタイプ(141 ・143 ・144)が7点（77.8%）ある。E・F両タイプとも基底部調整は認められなかった。

Eタイプは、口縁部が直立し端部付近でわずかに外反し、端部は外傾する面をもつ。凸帯は偏平な台形を呈する。スカシは円形のスカシが認められる。

Fタイプは、口縁部が直立し、端部は上端に凹面をもつ（143）と口縁端部付近で外反しわずかに段を成し、端部は外傾する面をもつ（144）がある。口縁部外面にヘラ記号「×」が1点、「≠」が1点認められる。二次調整のBd種ヨコハケの調整工具の原体がはっきり残る（143）とヨコハケ工具の静止痕のみが残る（141・144）がある。ヨコハケ工具の静止痕の傾斜角度は100°～115°である。凸帯は台形を呈するものと偏平なM字状を呈するものがある。スカシは



挿図14　溝2出土円筒埴輪

2個一組の円形のスカシが相対する所に穿たれている。

(田川)

番号	器種	遺構・層位	法量(cm)		技法	紋様	色調	胎土	備考
1	鉢	溝1	口径	27.3	内外面：横なで	内面：斜放射状暗文	外面：橙色	精良	
			器高	2.1	底部外面：なで下に指頭圧痕		内面：赤橙色		土師器
2	鉢	溝1	口径	31.5	口縁部内外面：横なで 体部外面：刷毛目の後なで、へら削り 体部内面：なで	内面：ループ状暗文	外面：橙色	良	
			器高	5.7			内面：橙色		土師器
3	甕	溝1	口径	22.3	口縁部外面：横なで 口縁部内面：刷毛目(8本/cm)の後横なで 体部内外面：刷毛目(8本/cm)		外面：乳橙色	やや粗	
			器高	4.5			内面：乳橙色		土師器
4	甕	溝1	口径	26.5	口縁部内外面：横なで 体部外面：刷毛目(8本/cm)		外面：黄橙色	良	
			器高	4.8	体部内面：なで		内面：黄橙色		土師器
5	甕	溝1	口径	24.0	口縁部内外面：横なで 体部外面：刷毛目(8本/cm)	—	外面：橙色	やや粗	
			器高	5.0	体部内面：なで		内面：橙色		土師器
6	甕	溝1	口径	26.4	口縁部内外面：横なで 体部外面：刷毛目(9本/cm)	—	外面：淡橙色	やや良	
			器高	5.6	体部内面：刷毛目(7本/cm)		内面：橙色		土師器
7	高杯	溝1	裾径	5.8	柱部外面：なで	—	外面：乳褐黄色	良	
			器高	4.3			内面：乳褐黄色		土師器
8	土錘	溝1	孔径	0.6	外面：なで	—	外面：乳黄橙色	粗	手づくね
			最大長	6.3			内面：乳黄橙色		土師器
			最大径	1.7					
9		溝1	口径	6.6	口縁部内外面・体部外面：横なで	—	外面：乳黄橙色	やや粗	
			器高	5.7	体部内面：なで		内面：乳黄橙色		土師器
10	甕	溝1	器高	7.4	体部外面：刷毛目(10本/cm)		外面：橙色	やや粗	体部外面：黒斑
					体部内面：へら削り下に指頭圧痕		内面：乳橙色		土師器
11	甕	溝1	口径	19.8	口縁部内外面：横なで 体部外面：平行タタキ(3本/cm) 体部内面：なで(当て具の痕跡が残る)		外面：橙色	やや粗	
			器高	11.9			内面：橙色		畿内系土師器
12	杯蓋	溝1	口径	10.3	口縁部内外面・天井部内面：回転なで	—	外面：灰青色	やや密	
			器高	3.3	天井部外面：回転へら削り		内面：灰青色		須恵器
13	杯蓋	溝1	口径	9.4	口縁部内外面：回転なで 天井部外面：回転へら削り(ロクロ：左回り) 天井部内面：回転なでの後一定方向のなで つまみ：回転なで	—	外面：灰青色	やや粗	
			かえり径	7.4			内面：灰青色		
			つまみ径	1.4					
			器高	3.3					須恵器
14	杯身	溝1	口径	14.5	口縁部内外面：回転なで 底部外面：回転へら削り(ロクロ：右回り) 底部内面：回転なでの後一定方向のなで 高台部：回転なで	—	外面：暗青灰色	密	
			高台径	9.2			内面：暗青灰色		
			高台高	0.7					
			器高	4.3					須恵器
15	蓋	溝1	口径	12.1	口縁部内外面・天井部外面・つまみ部：回転なで 天井部内面：不定方向のなで	—	外面：灰色	密	
			つまみ径	2.7			内面：灰色		外面：自然釉付着
			つまみ高	1.1					
			器高	4.8					須恵器
16	高杯	溝1	裾径	11.9	脚部内外面：回転なで 杯底部内面：なで	—	外面：灰青色	密	
			脚基部径	3.6			内面：灰青色		
			器高	5.8					須恵器
17	鉢	溝1	口径	26.0	口縁部内外面・体部内面：回転なで	—	外面：暗灰青色	密	
			器高	6.3	体部外面：回転なでの後かき目(6本/cm)		内面：暗灰青色		須恵器
18	長頸壺	溝1	脚基部径	6.3	頸部内外面・体部内外面：回転なで	頸部外面：凹線1条	外面：暗灰青色	密	
			器高	15.7		体部外面：凹線1条	内面：灰青色		須恵器
19	壺	溝1	高台径	9.1	体部内外面・高台部：回転なで 底部内面：不定方向のなで	体部外面：凹線1条	外面：青灰色	密	
			高台高	1.9			内面：青灰色		
			器高	6.9					須恵器
20	短頸壺	溝1	口径	29.9	口縁部内外面：回転なで 体部外面：平行タタキをなで消し 体部内面：同心円タタキをなで消し	—	外面：灰青色	密	
			器高	7.9			内面：灰色		須恵器
21	横瓶	溝1	口径	12.5	口縁部内外面：回転なで 体部外面：格子風タタキ(3本/cm) 体部内面：同心円タタキ(4本/cm)	—	外面：暗灰色	密	
			胴径	33.8			内面：白灰色		
			器高	30.4					須恵器
22	甕	溝1	口径	23.4	口縁部内外面：回転なで 頸部外面：かき目(10本/cm) 体部内面：同心円タタキ(2本/cm)	—	外面：暗灰色	密	
			器高	6.9			内面：淡灰色		須恵器
23	甕	溝1	口径	20.7	口縁部内外面：回転なで 体部外面：格子風平行タタキ(4本/cm) 体部内面：同心円(2本/cm)	—	外面：灰白色と灰青色	密	
			胴径	40.0					
			器高	33.5			内面：灰青色		須恵器
24	蓋	溝2	つまみ径	2.8	外面：横なで 内面：なで	—	外面：灰褐色	精良	
			器高	1.3			内面：橙色		土師器
25	蓋	溝2	つまみ径	3.2	—	—	外面：乳黄褐色	精良	
			器高	1.4			内面：乳黄褐色		土師器
26	皿	溝2	口径	10.7	口縁部内外面：横なで	—	外面：橙色	良	
			器高	2.3			内面：橙色		土師器
27	皿	溝2	口径	18.4	口縁部内外面・底内暗面：横なで 底部外面：へら削り	口縁部内面：斜放射状暗文	外面：淡茶褐色	精良	
			器高	3.2		見込み：螺旋状暗文	内面：淡茶褐色		土師器
28	杯	溝2	口径	20.0	口縁部内外面：横なで 体部外面：へら削り 体部内面：なで	—	外面：橙色	やや良	
			器高	5.3			内面：黄橙色		土師器
29	高杯	溝2	脚基部径	3.2	杯部内外面：横なで 杯底部内面：なで 脚柱部外面：なで下に指頭圧痕 脚柱部内面：絞り目	杯部内面：斜放射状暗文	外面：橙色	精良	
			器高	/4.7		見込み：螺旋状暗文	内面：橙色		土師器
30	壺	溝2	器高	12.6	内外面：刷毛目(4本/cm)	—	外面：茶褐色		生駒西麓系
							内面：茶褐色		土師器
31	甕	溝2	口径	18.1	口縁部外面：横なで 口縁部内面：刷毛目(7本/cm)の後横なで 体部外面：刷毛目(11本/cm) 体部内面：刷毛目(11本/cm) 体部内面：刷毛目(7本/cm)を一部なで消し	—	外面：淡橙茶色	良	
			器高	5.6			内面：橙茶色		土師器
32	甕	溝2	口径	19.6	口縁部内外面：横なで 体部外面：刷毛目(9本/cm)	—	外面：橙茶色	良	
			器高	6.3	体部内面：刷毛目(原体不明)		内面：橙茶色		土師器
33	甕	溝2	口径	24.2	口縁部内外面：横なで 体部外面：刷毛目(9本/cm)	—	外面：乳黄褐色	やや良	
			器高	6.4	体部内面：なで下に指頭圧痕		内面：乳黄褐色		土師器

番号	器種	遺構・層位	法量(cm)	技法	紋様	色調	胎土	備考
34	甕	溝2	口径 24.1 器高 19.4	口縁部外面：横なで 口縁部内面：刷毛目(7本/cm)の後横なで 体部外面：刷毛目(10本/cm) 体部内面上半：刷毛目(7本/cm) 体部内面下半：へら削り	—	外面：茶褐色 内面：茶褐色	やや粗	土師器
35	杯蓋	溝2	口径 10.2 かえり径 8.3 器高 2.2	口縁部内外面：回転なで 天井部外面：回転へら削り(ロクロ：右回り) 天井部内面：回転なでの統一定方向のなで	—	外面：青灰色 内面：青灰色	密	須恵器
36	杯身	溝2	口径 10.5 受け部径 12.6 立ち上がり高 0.6 器高 3.3	口縁部内外面：回転なで 杯部外面：回転へら削り(ロクロ：右回り) 杯部内面：一定方向のなで	—	外面：青灰色 内面：青灰色	密	外面：自然釉付着 須恵器
37	杯身	溝2	口径 11.2 受け部径 13.2 立ち上がり高 0.7 器高 2.9	口縁部内外面：回転なで 杯部外面：へら切り未調整 杯部内面：回転なでの統不定方向のなで	—	外面：灰青色 内面：灰青色	密	須恵器
38	杯蓋	溝2	口径 10.5 器高 3.4	口縁部内外面：回転なで 天井部外面：へら切り未調整 天井内面：回転なでの統一定方向のなで	—	外面：灰青色 内面：灰青色	やや粗	須恵器
39	杯身	溝2	口径 9.4 器高 3.2	口縁部内外面：回転なで 杯部外面：回転へら切り(ロクロ：左回り) 杯部：回転なでの統一定方向のなで	—	外面：暗灰色 内面：暗灰色	密	須恵器
40	杯身	溝2	口径 9.8 器高 3.4	口縁部内外面：回転なで 杯部外面：回転へら削り(ロクロ：左回り) 杯部内面：回転なで	—	外面：暗灰青色 内面：灰青色	密	須恵器
41	広口壺	溝2	口径 18.1 頸基部径 13.0 器高 9.8	内外面：回転なで	—	外面：灰青色 内面：灰青色	密	須恵器
42	甕	溝2	口径 25.0 頸基部径 18.0 底径 50.4	口縁部外面：回転なでの後かき目 体部外面：平行タタキ(4本/cm)の後かき目 体部内面：同心円タタキ(2～3本/cm)		外面：青灰色 内面：青灰色	密	須恵器
43	皿	落ち込み1	口径 9.3 器高 1.2	口縁部内外面：横なで 底部外面：回転糸きり 底部内面：「の」字状になで	—	外面：淡茶褐色 内面：淡茶褐色	良	回転台土師器
44	皿	落ち込み1	口径 9.7 器高 1.5	口縁部内外面：横なで 底部外面：回転糸切り 底部内面：「の」字状になで	—	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	やや良	回転台土師器
45	皿	落ち込み1	口径 9.4 器高 1.4	口縁部内外面：横なで 底部外面：回転糸切り 底部内面：「の」字状になで	—	外面：淡茶橙色 内面：淡茶橙色	やや粗	回転台土師器
46	皿	落ち込み1	口径 9.6 器高 1.3	口縁部内外面：横なで 底部外面：回転糸切り 底部内面：「の」字状になで	—	外面：淡茶褐色 内面：淡茶褐色	良	回転台土師器
47	杯	落ち込み1	口径 14.9 器高 3.3	口縁部内外面・底部内面：横なで 底部外面：回転糸切り	—	外面：黒褐色 内面：淡褐灰色	やや良	回転台土師器
48	杯	落ち込み1	口径 14.9 器高 3.5	口縁部外面・底部内面：横なで 底部外面：回転糸切り	—	外面：褐褐灰色 内面：淡褐灰色	やや粗	回転台土師器
49	小皿	落ち込み1	口径 9.4 器高 1.9	口縁部内外面：横なで 底部外面：指頭圧痕	—	外面：淡黄橙色 内面：淡黄橙色	やや良	土師器
50	鉢	落ち込み1	口径 14.5 器高 5.1	口縁部内外面：横なでの後空白の目立つ粗いへらみがき 体部内外：不統一なへらみがき	—	外面：黒色 内面：黒色	精良	瓦器
51	小皿	土壙2	口径 10.3 器高 0.9	—	—	外面：淡茶橙色 内面：淡茶橙色	良	土師器
52	小皿	土壙2	口径 10.5 器高 1.0	口縁部内外面：横なで 底部内面：なで 底部外面：なで下に指頭圧痕	—	外面：淡茶橙色 内面：淡茶橙色	良	土師器
53	小皿	土壙2	口径 11.4 器高 1.6	—	—	外面：茶褐橙色 内面：淡茶橙色	やや粗	土師器
54	小皿	土壙2	口径 9.0 器高 1.8	口縁部内外面：横なで 底部内面：なで 底部外面：なで下に指頭圧痕	—	外面：灰黄橙色 内面：黄茶橙色	やや粗	土師器
55	小皿	土壙2	口径 9.2 器高 1.4	口縁部外内面：横なで 底部内面：なで 底部外面：なで下に指頭圧痕	—	外面：黄橙色 内面：黄橙色	精良	土師器
56	小皿	土壙2	口径 9.2 器高 1.3	口縁部内外面：横なで 底部内面：なで	—	外面：明茶橙色 内面：明茶橙色	良	外面：墨痕 土師器
57	小皿	土壙2	口径 9.5 器高 1.5	口縁部内外面：横なで 底部内面：なで 底部外面：なで下に指頭圧痕	—	外面：黄茶橙色 内面：黄茶橙色	やや粗	土師器
58	小皿	土壙2	口径 8.9 器高 1.5	口縁部内外面：横なで 底部内面：なで 底部外面：なで下に指頭圧痕		外面：黄茶色 内面：灰黄茶色	やや粗	土師器
59	小皿	土壙2	口径 9.7 器高 1.5	口縁部内外面・底部内面：横なで 底部外面：なで下に指頭圧痕		外面：明茶橙色 内面：黄茶橙色	粗	土師器
60	杯	土壙2	口径 13.8 器高 3.6			外面：明茶橙色 内面：明茶橙色	良	土師器
61	皿	土壙2	口径 15.9 器高 2.4	口縁部内外面：横なで 底部内面：なで 底部外面：なで下に指頭圧痕	—	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	良	土師器
62	鉢	土壙2	口径 16.7 器高 6.0	口縁部内外面・体部外面：回転なで 体部内面：不定方向のなで	—	外面：灰白色 内面：灰白色	密	須恵器
63	鉢	土壙2	口径 15.2 器高 3.1	内外面：回転なで	—	外面：灰緑白色 内面：灰緑白色	密	白磁
64	小皿	土壙2	口径 9.2 器高 1.8	—		外面：灰黒色 内面：灰黒色	精良	瓦器
65	小皿	土壙2	口径 9.3 器高 1.9	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横方向のへらみがき 見込み内面：なで 底部外面：なで下に指頭圧痕	見込み内面：斜格子状暗文	外面：黒灰色 内面：黒灰色	精良	瓦器
66	小皿	土壙2	口径 8.0 器高 2.1	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横方向のへらみがき 見込み内面：なで 底部外面：横方向のへらみがき	見込み内面：螺旋状暗文	外面：灰青色 内面：灰青色	精良	瓦器

番号	器種	遺構・層位	法量(cm)	技法	紋様	色調	胎土	備考
67	鉢	土壙2	口径 14.7 器高 2.9	口縁部外面：横なで 体部外面：指頭圧痕 体部内面：へらみがき	—	外面：黒灰色 内面：黒灰色	精良	瓦器
68	鉢	土壙2	口径 14.3 器高 4.6	口縁部内外面：横方向のへらみがきの後横なで 体部外面：へらみがき下に指頭圧痕 体部内面：横方向のへらみがき	見込み内面：平行線状暗文	外面：黒灰色 内面：黒色	精良	瓦器
69	椀	土壙2	口径 15.2 高台径 5.7 高台高 0.6 器高 5.1	口縁部内外面：横なで 体部外面：指頭圧痕 体部内面：横方向のへらみがき 高台：横なで 見込み内面：なで 底部外面：なで	見込み内面：平行線状暗文	外面：淡灰褐色 内面：淡灰色	精良	器高指数 33.3 瓦器
70	椀	土壙2	口径 15.4 高台径 5.3 高台高 0.4 器高 5.7	体部外面：指頭圧痕 体部内面：へらみがき	—	外面：灰黒色 内面：灰黒色	精良	器高指数 37.1 瓦器
71	椀	土壙2	口径 15.5 高台径 4.6 高台高 0.7 器高 4.7	口縁部内外面：横なで 体部外面：指頭圧痕 体部内面：へらみがき 高台：横なで	見込み内面：格子状暗文	外面：黒色 内面：黒色	精良	器高指数 30.1 瓦器
72	椀	土壙2	口径 15.4 高台径 4.8 高台高 0.6 器高 5.0	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なでの後横方向のへらみがき 体部外面：指頭圧痕 体部内面：横方向のへらみがき 高台：横なで	見込み内面：斜格子状暗文	外面：灰黒色 内面：灰褐色	精良	器高指数 32.5 瓦器
73	鉢	遺物4	口径 19.6 器高 5.2	口縁部内外面：横なで 体部内面：なで 体部外面：刷毛目(7本/cm)の後なで	—	外面：赤黄褐色 内面：赤黄褐色	やや粗	土師器
74	鉢	遺物4	口径 12.4 器高 4.1	口縁部外面：横なで 口縁部内面：刷毛目(9本/cm)の後横なで 体部内面：なで下に指頭圧痕	—	外面：淡黄橙色 内面：淡黄橙色	やや粗	土師器
75	杯蓋	遺物6	口径 10.9 かえり径 9.1 器高 1.6	口縁部内外面：回転なで 天井部外面：回転へら削り(ロクロ：左回り) 天井部内面：回転なでの後一定方向のなで	—	外面：灰青色 内面：灰青色	密	須恵器
76	杯蓋	ピット162	口径 9.9 かえり径 8.4 器高 2.1	口縁部内外面：回転なで 天井部外面：回転へら削り(ロクロ：右回り)つまみ貼り付け時回転なで 天井部内面：回転なでの後一定方向のなで	—	外面：暗灰青色 内面：淡灰青色	密	須恵器
77	杯蓋	ピット349	口径 11.2 かえり径 9.3 器高 2.1	口縁部内外面：回転なで 天井部外面：回転へら削り(ロクロ：右回り) 天井部内面：不定方向のなで	—	外面：暗灰青色 内面：暗灰色	密	須恵器
78	杯蓋	遺物4	口径 11.5 かえり径 9.6 器高 1.7	口縁部内外面：回転なで 天井部外面：回転へら削り(ロクロ：左回り) 天井部内面：回転なでの後一定方向のなで	—	外面：灰青色 内面：灰青色	密	須恵器
79	杯蓋	遺物6	口径 13.2 かえり径 11.0 器高 2.2	口縁部内外面：回転なで 天井部外面：回転へら削り(ロクロ：右回り) 天井部内面：不定方向のなで	—	外面：灰青色 内面：灰青色	やや粗	須恵器
80	杯蓋	ピット229	口径 17.0 器高 1.4	口縁部内外面：回転なで 天井部外面：回転へら削り 天井部内面：回転なでの後不定方向のなで	—	外面：灰青色 内面：灰青色	やや粗	須恵器
81	壺	ピット119	口径 12.4 器高 4.4	口縁部内外面：横なで 体部外面：刷毛目(14本/cm)の後一部なで 体部内面：へら削り	—	外面：橙色 内面：黄褐色	やや粗	土師器
82	杯	ピット497	口径 14.2 器高 3.7	口縁部内外面：横なで 体部外面：なで下に指頭圧痕 体部内面：不定方向のなで	—	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	やや粗	土師器
83	杯	ピット497	口径 15.6 器高 4.1	口縁部内外面：横なで 体部外面：なで下に指頭圧痕 体部内面：不定方向のなで	—	外面：赤褐色 内面：淡赤褐色	やや粗	土師器
84	杯	ピット355	口径 16.4 器高 3.4	口縁部外面：横方向のへらみがきの後横なで 口縁部・体部内面：横なで 体部外面：横方向のへらみがき	体部内面：斜放射状暗文	外面：橙色 内面：乳橙色	良	土師器
85	杯	ピット 3	口径 14.6 器高 2.3	口縁部内外面：横なで 体部外面：なで下に指頭圧痕 体部内面：なで 底部外面：横なで	—	外面：赤褐色 内面：赤褐色	やや粗	土師器
86	杯	ピット 3	口径 15.6 器高 2.5	口縁部外面：横なで 体部外面：なで下に指頭圧痕 体部内面：なで 底部外面：横なで	—	外面：赤褐色 内面：赤褐色	やや粗	土師器
87	椀	ピット 3	口径 14.1 器高 3.8	口縁部内外面：横なで 体部外面：なで下に指頭圧痕 体部内面：なで	—	外面：淡黄褐色 内面：黒色	やや粗	A類 黒色土器
88	小皿	ピット447	口径 9.4 器高 1.6	口縁部内外面：横なで 体部外面：なで下に指頭圧痕 体部内面：なで	—	外面：赤褐色 内面：赤褐色	やや粗	土師器
89	椀	ピット 29	口径 15.3 器高 4.7	口縁部内外面：横なで 体部外面：へらみがき 体部内面：横なでの後へらみがき	—	外面：黒色 赤黄褐色 内面：黒色	やや粗	A類 黒色土器
90	椀	ピット411	口径 15.2 器高 5.1	口縁部内外面：横なで 体部外面上半：へら削りの後一部へらみがき 体部外面下半：横なで 体部内面：なでの後へらみがき	—	外面：黄赤褐色 内面：黒灰色	やや粗	A類 黒色土器
91	小皿	第8層	口径 8.3 器高 1.2	口縁部内外面：横なで 底部外面：なで下に指頭圧痕 底部内面：なで	—	外面：橙色 内面：橙色	良	土師器
92	小皿	第8層	口径 8.9 器高 1.0	口縁部内外面：横なで 底部外面：なで下に指頭圧痕	—	外面：橙色 内面：乳橙色	やや良	土師器
93	小皿	第8層	口径 10.0 器高 1.2	口縁部内外面：横なで 底部外面：なで下に指頭圧痕 底部内面： なで	—	外面：橙灰色 内面：灰橙色	やや粗	土師器
94	小皿	第8層	口径 8.9 器高 2.1	口縁部内外面：横なで 底部外面：なで下に指頭圧痕 底部内面：なで	—	外面：褐色 内面：褐橙色	やや粗	土師器
95	壺	第8層	口径 10.6 器高 4.2	口縁部外面：横なで 口縁部内面：刷毛目(7本/cm)の後横なで 体部外面：刷毛目(7本/cm) 体部内面：なで	—	外面：乳褐色 内面：乳褐色	やや良	土師器
96	壺	第8層	口径 9.3 器高 6.8	口縁部内外面：横なで 体部外面：なで下に指頭圧痕 体部内面：なで	—	外面：褐色 内面：灰褐色	良	土師器

番号	器種	遺構・層位	法量(cm)	技法	紋様	色調	胎土	備考
97	壺	第8層	口径 20.7 器高 1.3	口縁部内外面：横なで	—	外面：橙色 内面：橙色	良	土師器
98	杯	第8層	口径 14.2 器高 3.7	口縁部内外面：横なで 体部・底部外面：なで下に指頭圧痕 体部・見込み内面：なで	体部内面：斜放射状暗文 見込み内面：螺旋状暗文	外面：橙色 内面：橙色	良	土師器
99	皿	第8層	口径 16.6 器高 2.0	口縁部内外面：横なで 底部外面：なで下に指頭圧痕 底部内面：なで	—	外面：橙色 内面：橙色	やや粗	土師器
100	甕	第8層	口径 14.6 器高 6.9	口縁部内外面：横なで 体部外面：刷毛目(13本/cm) 体部内面上半：刷毛目(13本/cm)下に指頭圧痕体部内面下半：へら削り	—	外面：淡茶褐色 内面：淡茶褐色	良	外面：黒斑・スス付着 土師器
101	土錘	第8層	口径 24.8 錘径 27.9 錘幅 3.7 器高 5.3	口縁部内外面・錘部外面：横なで 錘部内面：なで下に指頭圧痕	—	外面：茶褐色 内面：茶褐色	粗	生駒西麓産 土師器
102	杯 身	第8層	口径 12.1 器高 3.5	口縁部内外面：回転なで 底部外面：なで 底部内面：回転なでの後不定方向のなで	—	外面：灰青色 内面：灰青色	やや粗	須恵器
103	杯 身	第8層	口径 13.6 器高 3.8	口縁部内外面：回転なで 底部外面：へら切り未調整 底部内面：回転なでの後不定方向のなで	—	外面：青灰色 内面：青灰色	密	須恵器
104	杯 身	第8層	口径 15.6 高台径 9.4 高台高 0.8 器高 5.3	口縁部内外端・高台：回転なで 底部内面：同転なでの後不定方向のなで	—	外面：灰色 内面：灰色	やや粗	須恵器
105	鉢	第8層	口径 14.9 高台径 5.6 高台高 0.5 器高 5.5	口縁部外面：横なで 体部外面：指頭圧痕	—	外面：乳灰橙色 内面：灰橙色	良	器高指数 36.9 瓦器
106	小 皿	第7層	口径 7.8 器高 1.1	口縁部内外面：横なで 底部外面：なで下に指頭圧痕 底部内面：なで	—	外面：乳橙色 内面：乳橙色	良	土師器
107	小 皿	第7層	口径 9.3 器高 1.0	口縁部内外面：横なで 底部外面：なで下に指頭圧痕 底部内面：「の」字状のなで	—	外面：乳橙色と乳灰色 内面：乳橙色	やや良	土師器
108	小 皿	第7層	口径 9.7 器高 1.2	口縁部内外面：横なで 底部外面：回転糸切り 底部内面：なで	—	外面：乳橙色と乳褐色 内面：乳橙色と乳褐色	粗	回転台土師器
109	台付小皿	第4・5層	口径 9.9 高台径 4.9 高台高 1.1 器高 1.8	口縁部内外面：横なで 体部外面：なで下に指頭圧痕 体部内面：不定方向のなで 高台：横なで	—	外面：乳黄褐色 内面：黄橙色	良	土師器
110	鉢	第7層	口径 14.1 器高 2.7	口縁部内外面：横なで 体部外面：なで下に指頭圧痕 体部内面：なで	—	外面：乳褐色 内面：乳白色	やや良	土師器
111	鉢	第7層	口径 15.1 器高 2.7	口縁部内外面：2段の横なで 体部外面：なで下に指頭圧痕 体部内面：なで	—	外面：淡橙色 内面：灰灰色	やや粗	土師器
112	鍋	第6層	口径 24.4 器高 9.7	口縁部内外面：横なで 体部外面：刷毛目(7本/cm)体部内面：なで	—	外面：乳灰褐色 内面：乳褐色	良	内面：炭化物付着 土師器
113	甕	第5層	口径 14.5 器高 4.8	口縁部内面：横なで 口縁部・体部外面：刷毛目(5本/cm) 体部内面：なで下に指頭圧痕	—	外面：茶色 内面：暗褐色	粗	口縁部：スス付着 生駒西麓産 土師器
114	甕	第5層	口径 14.5 器高 8.9	口縁部内外面：横なで 体部外面：刷毛目(8本/cm)体部内面：へら削り	—	外面：褐灰色 内面：褐灰色	精 良	土師器
115	製塩土器	第5層	口径 12.6 器高 9.4	口縁部内外面：なで 体部内外面：なで下に指頭圧痕	—	外面：乳褐色 内面：乳白色	粗	紀淡海峡産 製塩土器
116	竈	第5層	器高 6.1	内外面：回転なで	—	外面：灰白色 内面：暗橙色	良	無釉焼締陶器
117	椀	第5・7層	高台径 4.8 高台高 0.8 器高 2.5	内外面：回転なで 高台：削り出し 畳付	—	外面：灰緑色 内面：灰緑色	密	白磁
118	小 皿	第4層	口径 9.5 器高 1.2	口縁部内外面：横なで 底部外面：なで下に指頭圧痕 底部内面：なで	—	外面：乳褐色 内面：乳褐色	やや良	土師器
119	小 皿	第4層	口径 9.9 器高 1.8	口縁部内外面：横なで 底部外面：なで下に指頭圧痕 底部内面：なで	—	外面：乳橙色 内面：橙色と乳橙色	粗	土師器
120	小 皿	第4層	口径 9.3 器高 1.9	口縁部内外面：横なで 底部外面：なで下に指頭圧痕 底部内面：なで	—	外面：橙色と乳橙色 内面：乳褐色	やや良	土師器
121	杯	第4層	口径 18.0 器高 4.6	—	—	外面：乳黄褐色 内面：乳黄褐色	良	土師器
122	甕	第4層	口径 16.4 器高 8.5	口縁部内外面：横なで 体部外面：刷毛目(13本/cm) 体部内面：なでの後刷毛目(10本/cm) 一部指頭圧痕	—	外面：赤橙色 内面：黄灰褐色	やや良	体部外面：黒斑 土師器
123	壺	第4層	胴径 15.3 器高 15.1	体部内外面：回転なで 底部外面：格子風タタキ(4本/cm)	肩部外面：凹線（1条）	外面：緑灰青色 内面：灰青色	密	須恵器
124	椀	第1層	口径 9.2 高台径 3.5 高台高 0.8 器高 3.0	—	口縁部内面：四方襷紋 見込み：圏線 五弁花紋 (コンニャク印判)	外面：灰白色 内面：灰白色	—	磁器（伊万里焼）

表 4　土器観察表

番号	遺構	法量(cm)	凸帯の形態	基底部調整	調整	胎土	色調	焼成	備考
125	溝1	底径 11.95 器高 12.15	偏平なM字	なし	外面：一次調整 タテハケ(4～7本/cm) 内面：粗い指ナデ	やや粗	外面：灰褐橙色 内面：褐橙色	半須恵質	Aタイプ 小型
126	溝1	底径 15.2 器高 23.0	偏平なM字	なし	外面：一次調整 タテハケ(6本/cm) 内面：ナデ 粘土紐の継ぎ目が残る 基底部内面：指頭圧痕	やや良	外面：橙褐色 内面：橙褐色	土師質	基底部端面に凹状 圧痕 Aタイプ 小型
127	溝1	底径 10.6 器高 10.4	偏平な台形 一部三角形	なし	外面：一次調整 ナデ一部タテハケ(7本/cm) 内面：指ナデ 粘土の継ぎ目より剥離	やや粗	外面：橙色 内面：橙色	土師質	Bbタイプ 小型
128	溝1	底径 13.6 器高 11.3	偏平な台形 一部三角形	なし	外面：一次調整 タテハケ(5本/cm) 内面：指ナデ 粘土紐の継ぎ目が残る	やや粗	外面：橙色と 乳橙色 内面：乳橙色	土師質	基底部端面に凹状 圧痕 Bbタイプ 小型
129	溝1	底径 14.9 器高 10.8	偏平な台形	なし	外面：一次調整 タテハケ(6本/cm) 内面：指ナデ	やや粗	外面：黄橙色 内面：黄橙色	土師質	成形時の布の圧痕が 残る Bbタイプ 小型
130	溝1	口径 21.2 器高 7.4	—	—	口縁端部内外面：横ナデ 外面：一次調整 タテハケ(10本/cm) 内面：タテハケ(9本/cm)	やや粗	外面：茶色 内面：淡橙色	半須恵質	Aタイプ 小型
131	溝1	口径 18.3 器高 20.9	偏平なM字	—	口縁端部内外面：横ナデ 外面：一次調整 タテハケ(5～7本/cm) 内面：指ナデ 凸帯内側には当て具の痕跡	やや粗	外面：橙褐色 内面：茶褐色	半須恵質	口縁部外面にへら 記号 Aタイプ 小型
132	溝1	口径 19.75 底径 12.4 器高 45.85	偏平なM字	なし	口縁端部内外面：横ナデ 外面：一次調整 タテハケ(5～8本/cm) 内面：指ナデ 凸帯内側には当て具の痕跡	やや粗	外面：橙褐色と 乳橙色 内面：暗灰褐橙色 乳橙色	半須恵質	基底部端面に凹状 圧痕 3段 Aタイプ 小型
133	溝1	口径 20.4 器高 26.0	偏平なM字	なし	口縁端部内外面：横ナデ 外面：一次調整 タテハケ(8本/cm) 内面：タテハケ(8本/cm)	やや粗	外面：乳黄橙色 内面：乳橙色	土師質	口縁部外面にへら 記号 Bタイプ 小型
134	溝1	底径 14.75 器高 10.3	偏平なM字	あり	基底部外面：板状工具による押圧 外面：一次調整 タテハケ(6～12本/cm) 内面：指ナデ	やや粗	外面：黄褐橙色 内面：黄褐橙色	土師質	Baタイプ 小型
135	溝1	底径 13.9	偏平な台形	あり	基底部外面：板状工具による押圧 外面：一次調整 タテハケ(7～11本/cm) 内面：指ナデ 凸帯内側には当て具の痕跡	やや良	外面：橙褐色 内面：橙褐色	土師質	Baタイプ 小型
136	溝1	口径 22.6 底径 13.35	偏平な台形	なし	口縁端部内外面：横ナデ 外面：一次調整 タテハケ(7本/cm) 二次調整 Bd種ヨコハケ(5本/cm) 口縁部内面：ヨコハケ(6本/cm) 内面：指ナデ	良	外面：橙色 内面：橙色	土師質	Cタイプ 小型
137	溝1	底径 27.5 器高 16.5	偏平な台形	なし	基底部外面：ナデ 外面：二次調整 Bd種ヨコハケ(6～9本/cm) 内面：指ナデ	やや良	外面：橙褐色 内面：橙褐色	土師質	基底部端面に凹状 圧痕 Fタイプ 中型
138	溝1	底径 28.2 器高 36.55	偏平な台形	なし	基底部外面：下端に一部横ナデ 外面：一次調整タテハケ(5本/cm) 内面：指ナデ 凸帯：第1凸帯は刷毛ナデ	粗	外面：淡橙色 内面：淡橙色	土師質	Dタイプ 中型
139	溝2	最大径 22.4 器高 10.2	偏平なM字	—	外面：一次調整 タテハケ(11本/cm) 内面：指ナデ		外面：橙色 内面：橙色	土師質	Bタイプ 小型
140	溝2	底径 12.8 器高 32.5	偏平なM字	なし	外面：一次調整 タテハケ(7本/cm) 内面：2段目より下 ハケメ(7本/cm) 他は指ナデ 粘土紐の継ぎ目が残る 凸帯内側には当て具の痕跡 基底部端部内外面：布の圧痕	やや良	外面：茶橙褐色 内面：茶橙褐色	半須恵質	Aタイプ 小型
141	溝2	底径 23.0	台形	なし	基底部外面：ナデ 外面：二次調整 Bd種ヨコハケ(工具の静止痕のみ) 内面：指ナデ 粘土紐の継ぎ目が残る	やや粗	外面：淡橙色 内面：淡橙色	土師質	Fタイプ 中型
142	溝2	口径 40.9	偏平な台形	—	口縁端部内外面：横ナデ 外面：板状のものでナデ 内面：ハケメ(9本/cm) 粘土紐の継ぎ目が残る	やや良	外面：黄褐色 内面：黄褐色	土師質	Eタイプ 中型
143	溝2	口径 35.0	偏平なM字	—	口縁端部内外面：横ナデ 口縁部内面：ハケメ(7本/cm)外面：二次調整 Bd種ヨコハケ(6～11本/cm) 内面：指ナデ 粘土紐の継ぎ目が残る	やや良	外面：橙褐色 内面：橙褐色	土師質	Fタイプ 中型
144	溝2	口径 36.55	台形	—	口縁端部内外面：横ナデ 外面：一次調整 タテハケ(5本/cm) 二次調整 Bd種ヨコハケ(工具の静止痕のみ) 下段 ナデ 内面：指ナデ	やや粗	外面：淡橙色 内面：淡橙色	土師質	口縁部外面にへら 記号 Fタイプ 中型

表 5　円筒埴輪観察表

V　まとめ

甲田南遺跡は、今から約20年前に遺跡のほぼ中央を東西に抜ける国道309号線の予定地内において都市下水路築造工事の際に発見された。その後大阪府教育委員会によって行われた国道309号線の築造に伴う本格的な発掘調査で、縄文時代から中世にかけての複合遺跡であることが確認された。ここでは、今回の調査成果とそれを踏まえて調査区の東に位置していた川西古墳について検討を試みたい。

1．調査の成果

今回の調査区は遺跡の南端部に位置し、溝・落ち込み・土壙・掘立柱建物・ピットなど約800を数える遺構を検出した。その結果、次のようなことが考えられる。

1．遺跡の中央を縦断する国道309号線築造に伴う大阪府教育委員会が1980年から数次にわたって実施した調査結果から弥生時代中期の居住域は、近鉄河内長野線を西限とし、東は石川に面した段丘の縁辺部までの約300m、南北は国道309号線を挟んで約180mの範囲に広がっていると推定されていた[註7]。しかし、今回の調査区では弥生時代の遺構は検出されなかったことから、居住域は調査区より北側に位置し、竪穴住居址１棟を検出した1992年の本市教育委員会が行った調査区[註8]が南限であることが明確になった。

2．溝１・２の埋土とこれ以外の遺構の埋土が異なった様相を示し、溝２の断面（挿図４）観察から溝の第１層である黒褐色混礫土層を切り込んで、暗灰褐色土の埋土をもつ遺構が確認きることから、埋土の差が遺構の新旧関係を示している。溝１・２からは土師器・須恵器や円筒埴輪など古墳時代中期後半から奈良時代遺物が出土している。他の遺構からは土師器や黒色土器・瓦器等の遺物が出土している。

3．新しい時期の遺構からは土師器・黒色土器・瓦器などが出土している。土師器には出土例の少ない回転台を使用した回転台土師器がある。回転台土師器は皿が４点、杯が２点ある。いずれも底部外面回転糸切りで、回転へら切りのものは認められない。また、黒色土器にはＡ類とＢ類があるが、圧倒的にＡ類が多い。瓦器椀は、全て和泉型である。器高指数30.1～37.1を測り、やや浅い椀形から深い椀形のものまであるが、内外面のヘラミガキは空白の目立つ粗雑なものが多い。これらのことから、新しい時期の遺構は古代末から中世初頭の時期におさまるものと考えられる。また、数棟の掘立柱建物が検出されていることから、同時期まで集落が営まれていたことがわかる。その後、調査区一帯は整地され水田化されたと考えられる。

2．川西古墳の検討

1．古墳の概要

今回調査区の東側に位置していた川西古墳は、市内に分布する数少ない古墳時代中期の古墳である。この古墳は以前に町村組合経営の病院の敷地内にあった円墳である。明治維新以前に一度発掘され、のちに1928年の敷地整備によって墳丘が消滅したとされる。その墳丘消滅の際に末永雅雄氏によって古墳の見取り図が作成されているが正確な位置は不明である。その見取り図によると直径20m 、高さ３ｍの円墳で、墳丘の中段のところに一重の円筒埴輪列と墳頂から約１ｍ下方の墳丘のほぼ中央に小竪穴式石室状の内部構造が営まれていたことが確認されている。小竪穴式石室状の内部施設からは鉄製の眉庇付冑・短甲と鉄刀・剣および鏃、金銅金具などの副葬品が出土している。副葬品の中に眉付冑が含まれていた事実から古墳の所属時期を北野耕平氏は５世紀の中葉から後半と比定している。[註9]

2．古墳周辺の調査

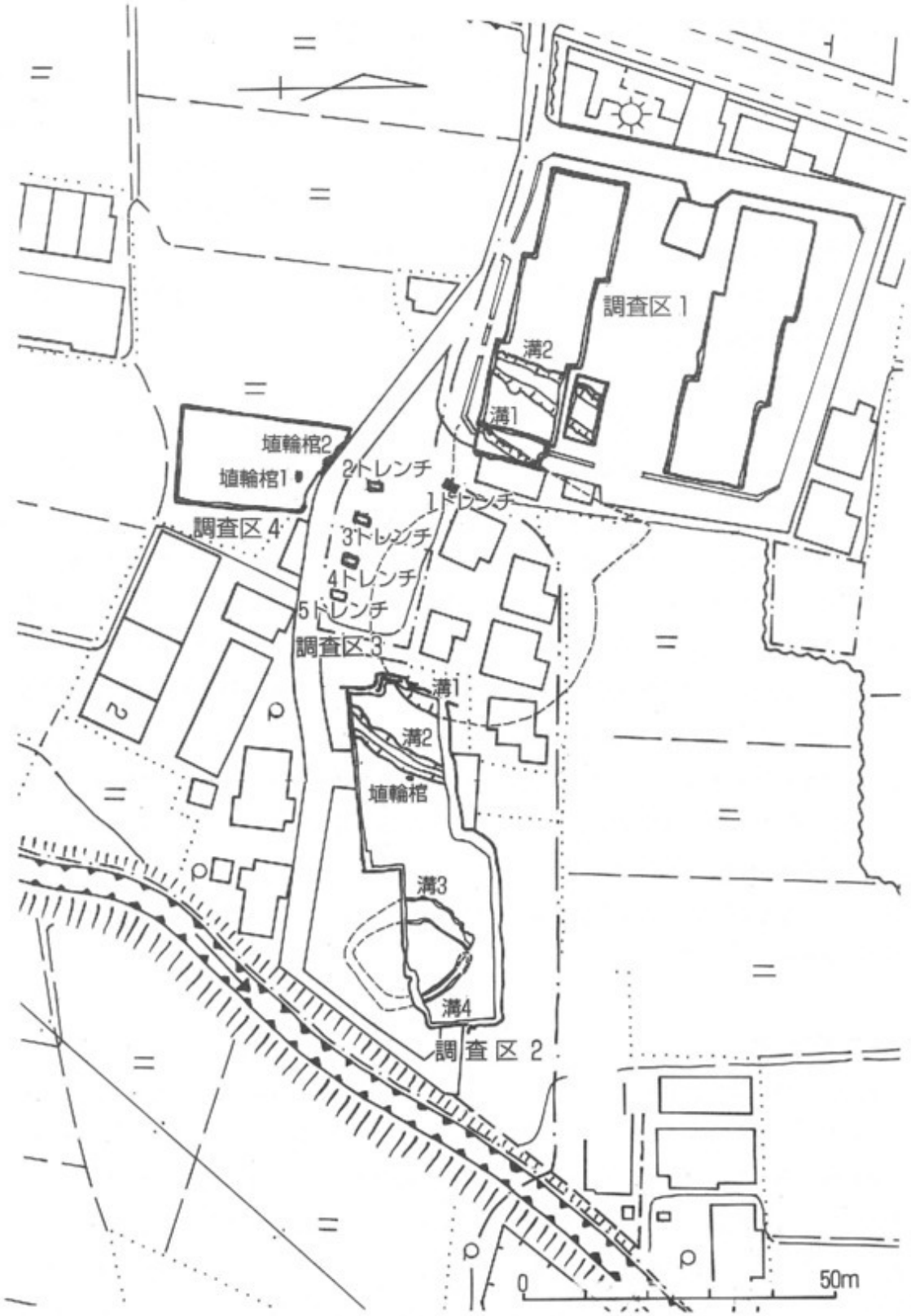
古墳周辺の調査において古墳関連の遺構（挿図15）を検出している。川西古墳について検討するにあたり基礎資料としてそれぞれ調査区ごとにその状況を記述する。

調査区１（今回の調査区）

調査区の東側Ｖ区東端で検出した南西から北東へ延びる溝１とⅠ区東半からⅡ区中央で溝１と併行する溝２を検出した。溝１の埋土は上層が暗黒褐色混砂礫弱粘質土、下層が黒褐色混礫粘質土で、一方、溝２の埋土は第１層が暗褐色混礫土、第２層が暗黄灰褐色弱粘質土、第３層が黒褐色混礫粘質土、第４層が暗褐色混礫粘質土と埋土が溝１と溝２では類似している。相互の埋土中より出土した大量の土師器・須恵器や円筒埴輪片の中には接合できる資料がある。このことから２条の溝は同時期、つまり、古墳時代中期後半には機能し奈良時代にはその機能を失ったと考えられる。また、出土遺物の中には多量の円筒埴輪があり、調査区の東側に位置していた川西古墳の周濠の可能性が高いと考えられる。

調査区２（1988年　大阪府教育委員会調査）[註10]

調査区１の東側に位置する府営双葉住宅建て替えに伴う発掘調査が行われている。この調査では溝・ピットを中心に多数の遺構が検出されている。そのうち調査区西端で検出した溝１が川西古墳の周濠の可能性が高いとされている。この溝の埋土中から出土した遺物（土師器・須恵器・円筒埴輪）は古墳時代から奈良時代末・平安時代初頭のものである。この調査区の東部で検出された南から北東に走る溝３は、東から伸びてくる溝４と周溝を構成することも考えられる。溝４からは韓式系土器の鉢や土師器・須恵器が出土している。また、溝２の東肩から約70cmの地点で埴輪棺が１基検出されている。



挿図15　川西古墳周辺調査区位置図

調査区３（1989年　富田林市教育委員会調査）

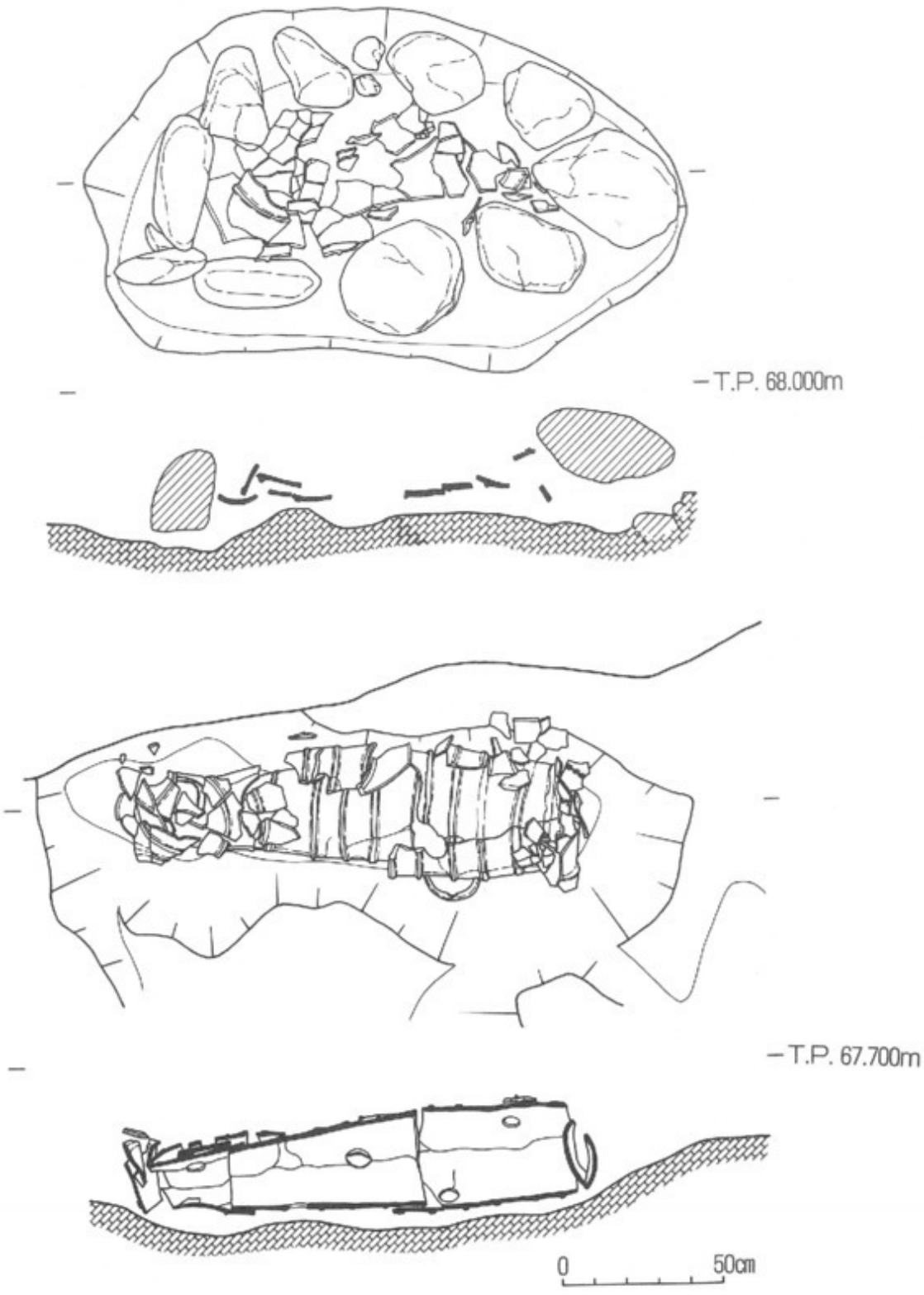
調査区１の東側に位置する。分譲住宅建設に伴い浄化槽部分のトレンチ調査を行った。その際には南側の４ヶ所の第２～第５トレンチ全域で調査区１で検出した溝１・２の埋土と類似する埋土（上層：暗灰褐色混礫粘質土、下層：黒褐色混礫粘質土）が堆積し、埋土中の遺物も土師器・須恵器・円筒埴輪や形象埴輪などが出土している。円筒埴輪は調査区１の溝１・２から出土した円筒埴輪のＢ・Ｄ・Ｆタイプ[註11]と同タイプものが出土している。形象埴輪は家形埴輪の一部と草摺部分がある。これらの円筒埴輪の時期は調査区１て出土したものと同時期である。また、北西側の第１トレンチでは北半分でも埋土が黒褐色混礫粘質土の溝の一部と思われる遺構を検出している。

調査区４（1987年　富田林市教育委員会調査）

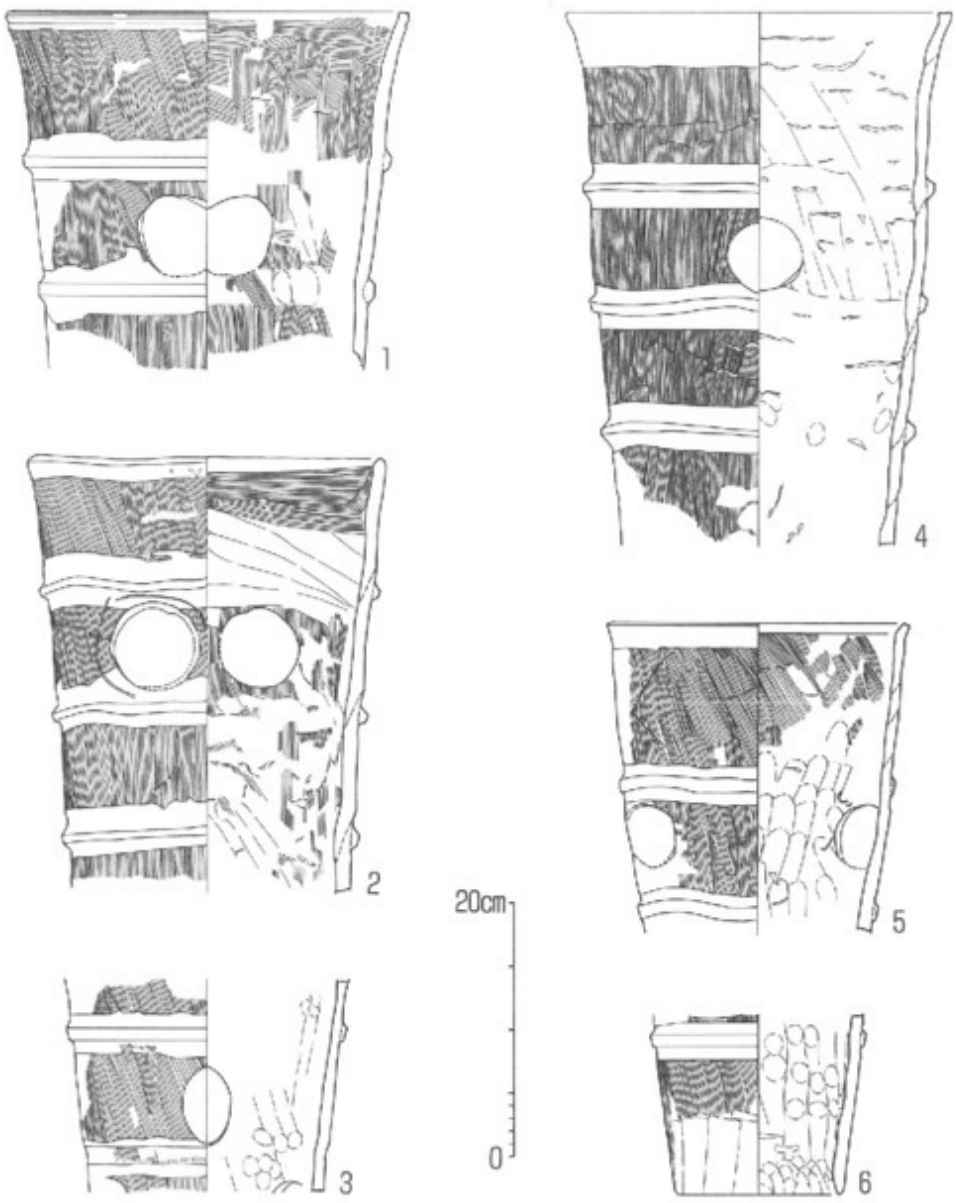
調査区１の南に接する錦織遺跡内において分譲住宅建設に伴い行った調査である。その際には調査区の北端で２基の埴輪棺[註12]を検出した。埴輪棺１（挿図16上）は上部は削平されているが２本の円筒埴輪を棺に転用し、棺の周囲を直径30cm～45cm大の河原石で囲むという珍しい構造をもつ。棺身に使用された円筒埴輪（挿図17－２・４）にはＤタイプの埴輪が用いられている。その他、小口の閉塞やスカシの被覆用にはＢ・Ｄタイプの円筒埴輪片が転用されている。埴輪棺２（挿図16下）は３本の円筒埴輪をつなぎ合わせて棺に転用し、スカシを別固体の円筒埴輪片や形象埴輪で覆い、小口の閉塞には、円筒埴輪や朝顔形埴輪が転用されている。棺身に使用された円筒埴輪（挿図18－８・９・１２）にはＣ・Ｄ・Ｆタイプの埴輪が、小口の閉塞にはＢ・Ｃタイプの円筒埴輪（挿図18－10、19－16・17・23）や朝顔形埴輪（挿図19－20）が、スカシの被覆用にはＢ・Ｃタイプの円筒埴輪片（挿図18－７・11、19－15・18・22）や朝顔形埴輪（挿図19－19・21）、形象埴輪（衣蓋形埴輪　挿図19－14）が用いられている。この埴輪棺２は副葬品の須恵器の蓋杯（挿図19－13）から６世紀中ごろに埋葬されたものと思われる。

３．古墳の位置

調査区の周辺は、小字名に「ムロヅカ」と言う名前が残っており、この付近に「塚」があったことが古くから認識されていたと思われる。川西古墳の位置は既往の調査で町村組合経営の病院敷地内にあたっとされるが明確な位置は不明であった。古墳周辺の調査が行われたことにより、西は調査区１で検出した溝２、東は調査区２で検出した溝２のそれぞれ内側に位置し、調査区２では溝２の外側から埴輪棺が検出されていることから、南側は調査区４の埴輪棺２よりも北側に位置すると推測される。北側については調査の機会がなく明確な位置は不明である。



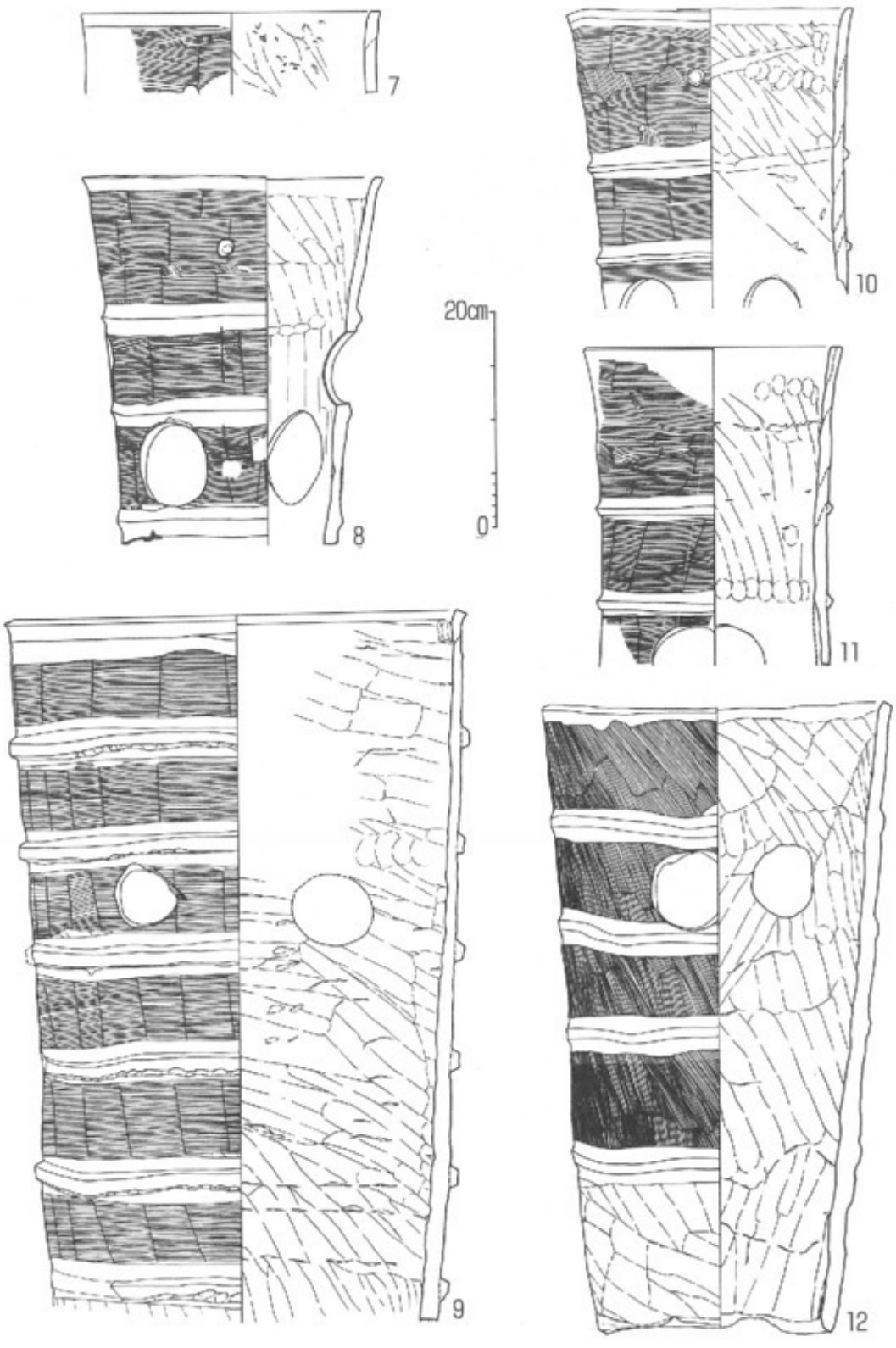
挿図16　調査区４　埴輪棺１・２　平面図・断面図（上が北）



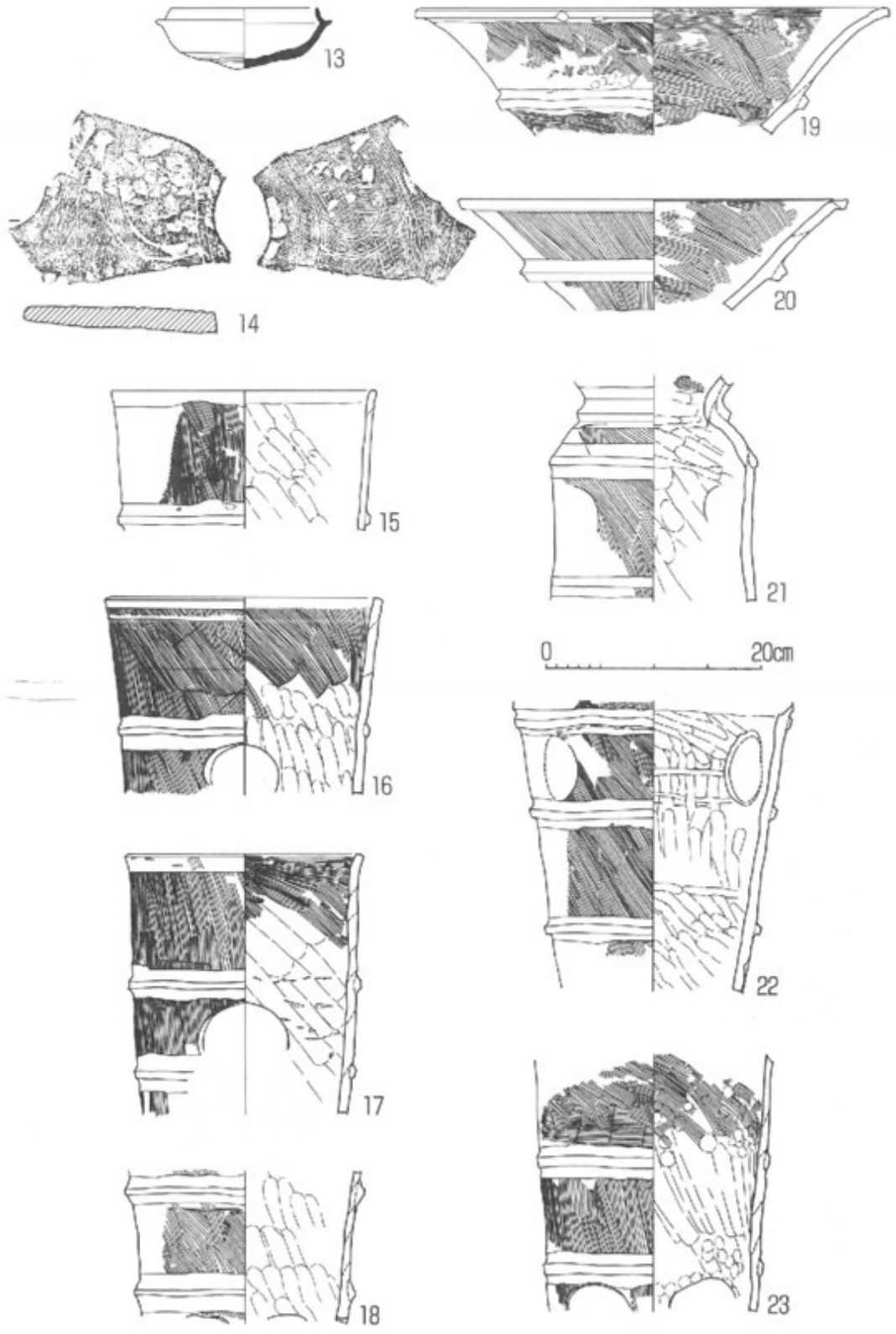
挿図17　埴輪棺1

4．古墳の形態と規模

調査区1の溝1と調査区2の溝1、調査区3北側の第1トレンチで検出した溝は、周濠の可能性が高い。周濠と思われる溝1とさらに外側約6～9mのところでは調査区1の溝2と調査区2の溝2、それに調査区3の第2～5トレンチで検出した溝が平行してもう1条巡っていることが推測できる。この遺構は、周濠（溝1）に比べると深さが浅いことや調査区1のⅢ区では検出されず、北側にのびる可能性が少なく一巡しないことも考えられることか



挿図18　埴輪棺2



挿図19　埴輪棺2

ら周濠の外堤のさらに外側にめぐる外周溝（外堤を外域から画する溝[註13]）と考えるのが妥当と思われる。また、各調査区で検出された周濠・外周溝の遺物からみて奈良時代末から平安時代初頭には埋没し、かなり削平を受けたと思われるが、墳頂部に石塔が立ち墓であると認識されていたためか、1928年の病院敷地の整備によって墳丘が消滅するまで、墳丘の一部が残っていたと推測される。しかし、調査区2において検出された周濠と外周溝は平行して綺麗な円弧を描いているが、調査区1で検出したそれは平行しているものの直線的であることから、周濠の形態は円形とはいいがたい。おそらく、周濠の形態は馬蹄形・盾形・円墳以外の墳丘の相似形等で、周濠の内側のプランが検出されていないため詳細なことについては不明であるが、古墳築造時の墳丘の形態は、円墳以外の形態で、円墳に造り出しが付く造り出し付き円墳もしくは前方部の短小な前方後円墳である帆立貝式古墳[註14]などの形態であったかもしれない。将来さらに周辺の面的な調査が進むことによって、築造時の全体の形態が明確になると思われる。

また、周濠内側の肩が検出されていないため墳丘の規模は不明であるが、周濠の外側の肩から復元した最大長は約45mを測る。外周溝は、調査区1で検出した部分は幅約3.5～7.0m、深さ約0.5～1.1mを測り、調査区2検出した部分は幅約2.8～3.6m、深さ南側で約0.2m、中央部で約0.7～0.9mを測り、幅・深さとも一定していない。外周溝の外側の肩からの復元最大長は約68mを測り、中規模な古墳であると推測される。

5．古墳の年代

川西古墳の所属時期は、内部施設より出土した副葬品の中に眉付冑が含まれていたことから5世紀の中葉から後半と比定されているが、調査区1から出土している円筒埴輪の時期も含め、古墳の年代を検討してみたい。

近年、川西氏の編年[註15]にあてはめ、古市古墳群出土円筒埴輪の細分という地域的な編年が上田氏によってなされている[註16]。ここでは、古墳時代中期においては川西古墳の属する石川中流域が、古市古墳群の南に位置し、古市古墳群を形成した大王の隷属下におかれた地域であるとされていることからその編年に照らし合わせ、まず円筒埴輪の時期を検討してみる。

Ⅳ－3で触れたように調査区1の溝1・2から出土した数多くの円筒埴輪からは、次のようなことが言える。全ての破片の中には黒斑のあるものは認められなかった。円筒埴輪は大きさから大中小の3タイプに分類することができる。大きさの判るもののうち溝1では小型が88.9%、中型が7.4%、大型が3.7%あり、溝2では小型が62.5%、中型が37.5%ある。全体では小型が80.8%、中型が16.7%、大型が2.5%ある。そのうち外面調整が一次調整のみのものが小型で98.4%、中型で38.5%ある。大型のものには一次調整のみのものは認め

られない。二次調整の行われるものはヨコハケの静止痕が斜めになるＢｄ種ヨコハケ調整が行われている。また、基底部が残っているもののうち基底部調整（板状工具による押圧により断面形が尖り気味のもの）が施されているものが小型にのみみられる。凸帯は、殆ど偏平な台形あるいはM字を呈しているが部分的に三角形を呈するものもある。また、最下段の凸帯に断続ナデがみられるものもある。このように、外面調整が一次調整のみのものが小型は98.4％と殆どを占め、中型のものも38.5％とかなりの量を占めること、二次調整がＢｄ種ヨコハケであること、最下段の凸帯に断続ナデがみられること、基底部調整が認められることなどから、Ⅳ－４～５段階（５世紀後半から末葉）に比定できるものと考える。

川西古墳の年代は、副葬品の中に眉付冑が含まれていたことから５世紀の中葉から後半とされているが、円筒埴輪の時期も考え合わせると、もう少し限られた５世紀後半から末葉に所属すると考えられる。

６．古墳の性格

市域において古墳時代中期の古墳は、川西古墳を含め、川西古墳西方の中位段丘上にある新家古墳と石川東岸にある彼方丸山古墳の３基確認されているに過ぎない。中期においては川西古墳が立地する石川中流域は、古市古墳群の南に位置し、古市古墳群を形成した大王の隷属下におかれ、在地の首長が分轄統治する地域に過ぎなかったとされている。[註17]

おそらく、調査区周辺の地域を統治していた首長墳は、中期中葉（５世紀前葉）には中位段丘上に新家古墳を、中期末葉（５世紀後半から末葉）には低位段丘上に墓域を移し、川西古墳を築造したと推測される。そして、造り出し付き円墳もしくは帆立貝式古墳の形態をもつと思われる川西古墳を中心に調査区２の東部で検出した溝３と溝４で周溝を構成する小型低方墳[註18]や調査区２・４で検出した埴輪棺とで墓域を形成している。このことから、古墳時代中期において川西古墳を中心に和田晴吾氏のいう政治的なまとまりを示すピラミッド形の階層構成[註19]を如実に表したこの地域の墓域といえるのではないだろうか。

（田川・中辻）

註

1 尾上実 1981年 『甲田南遺跡発掘調査概要・Ⅰ』 大阪府教育委員会

今村道雄ほか 1982年 『甲田南遺跡発掘調査概要報告書』 大阪府教育委員会

小林義孝 1983年 『甲田南遺跡発掘調査概要・Ⅲ』 大阪府教育委員会

小林義孝 1985年 『甲田南遺跡発掘調査概要・Ⅴ』 大阪府教育委員会

2 中辻亘・栗田薫・田川友美 1993年 『錦織南遺跡』 錦織南遺跡調査会

3 北野耕平·井上薫 1985年「9 新家古墳·川西古墳」『富田林市史』 第1巻 406～413頁

4 回転台土師器の名称は次の文献によった。

橋本久和 1991年「大阪北部の古代後期·中世土器様相」『高槻市文化財年報』 20頁～83頁

5 山内紀嗣 1984年「布留遺跡出土の製塩土器Ⅰ」『考古学調査研究中間報告9』 埋蔵文化財天理教調査団

6 B種ヨコハケの細分については次の文献によった。

一瀬和夫ほか 1988年「第Ⅴ章 古市古墳群における大型古墳埴輪集成」『大水川改修にともなう発掘調査概要·Ⅴ 応神陵古墳外堤·Ⅰ』 大阪府教育委員会

7 小林義孝 1985年 『甲田南遺跡発掘調査概要·Ⅴ』 大阪府教育委員会

8 田川友美 1993年「甲田南遺跡」『富田林市内遺跡群発掘調査概要 平成4年度』 富田林市教育委員会

9 註3に同じ

10 阿部幸一 1989年 『府営双葉住宅建替に伴なう 甲田南遺跡発掘調査概要』 大阪府教育委員会

11 円筒埴輪のタイプはⅣ-3で用いた分類した基準を基にしている。

12 埴輪棺の名称については次の文献によった。

橋本博文 1980年「円筒棺と埴輪棺」『古代探叢』 早稲田大学出版会 279～316頁

13 外周溝の定義ついては次の文献によった。

一瀬和夫 1992年「周濠」『古墳時代の研究7 墳丘と内部構造』 雄山閣

14 造り出し付き円墳·帆立貝式古墳の形態については次の文献によった。

遊佐和敏 1988年 『帆立貝式古墳』 同成社

15 川西宏幸 1978年「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』 第64巻第2号 日本考古学会

16 上田睦 1992年「古市古墳群出土円筒埴輪の様相」『古代文化』 第44巻9号 財団法人 古代学協会 13～22頁

17 北野耕平·井上薫 1985年「第一節 概説 五 河内南部の中期古墳」『富田林市史』 第1巻 252～267頁

18 和田晴吾 1992年「群集墳と終末期古墳」『新版古代の日本』 第5巻 近畿1 角川書店 325 ～350頁

19 註18に同じ

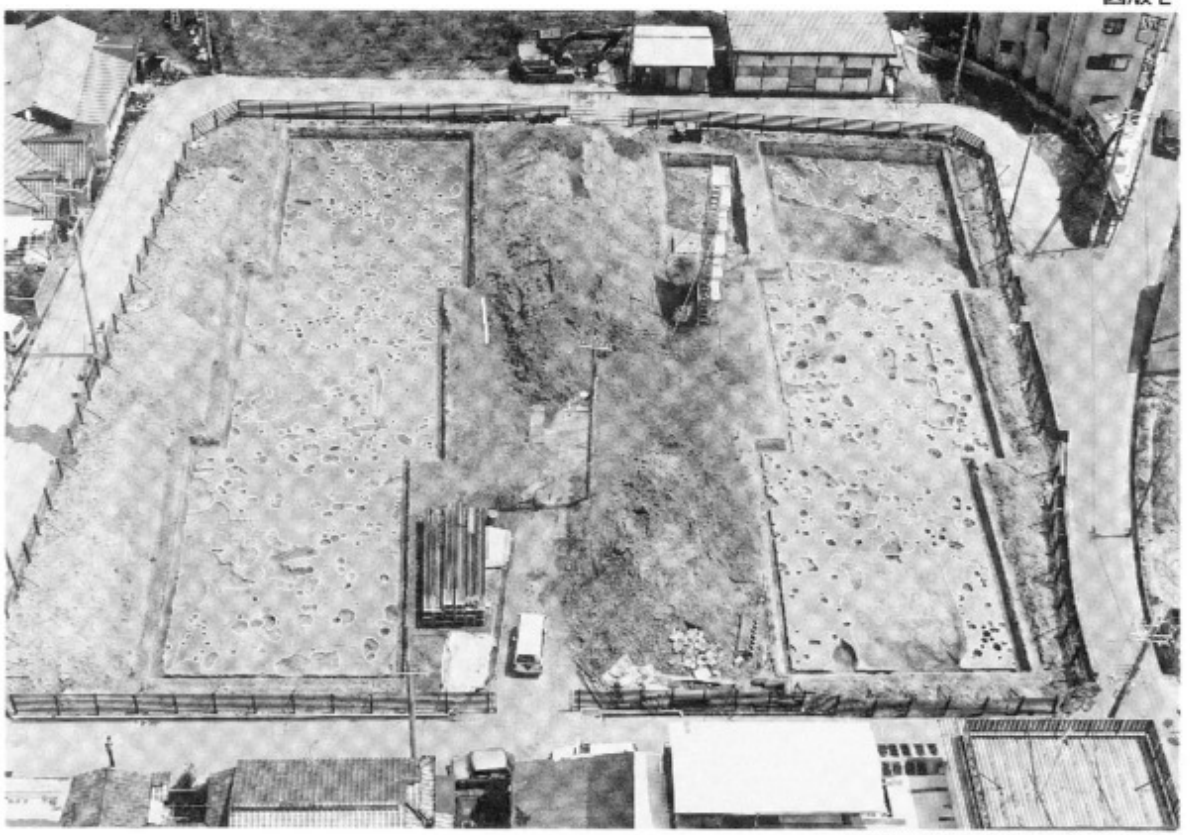
番号	遺構	法量(cm)	凸帯の形態	基底部調整	調整	胎土	色調	焼成質	備考
1	埴輪棺1	口径 30.3 器高 28.3	台形	—	口縁端部内外面：ヨコナデ 外面：一次調整 タテハケ(11本/cm) 内面：ハケメ(10本/cm)の後一部ハケメをナデ消し	良	外面：橙褐色 内面：橙褐色	土師質	Dタイプ 中型
2	埴輪棺1	口径 26.8 器高 34.7	台形	—	口縁端部内外面：ヨコナデ 外面：一次調整 タテハケ(10本/cm) 内面：ハケメ(10本/cm)の後ハケメをナデ消し 粘土紐の継ぎ目が残る	良	外面：淡橙色 内面：淡橙色	土師質	口縁部より2段目に円孔を置むようにへら記号 棺身 Dタイプ 小型
3	埴輪棺1	径 22.2 器高 16.85	偏平な台形	—	外面：一次調整 タテハケ(10本/cm) 内面：指ナデ 一部指頭圧痕が残る	良	外面：橙色 内面：橙色	土師質	Bタイプ 小型
4	埴輪棺1	口径 29.8 器高 41.8	台形	—	口縁端部内外面：ヨコナデ 外面：一次調整 タテハケ(17本/cm) 内面：指ナデ 粘土紐の継ぎ目が残る	良	外面：橙色 内面：橙色	土師質	棺身 Dタイプ 中型
5	埴輪棺1	口径 22.9 器高 24.5	偏平な台形	—	口縁端部内外面：ヨコナデ 外面：一次調整 タテハケ(7～11本/cm) 口縁部内面：ハケメ(7～11本/cm)	良	外面：橙色 内面：黄橙色	土師質	口縁部外面にへら記号 Bタイプ 小型
6	埴輪棺1	底径 12.6 器高 14.3	偏平な台形	あり	基底部外面：板状工具により押圧 基底部内面：布状の圧痕が残る 外面：タテハケ(9本/cm) 内面：指ナデ	良	外面：橙色 内面：橙色	土師質	Bαタイプ 小型
7	埴輪棺2	口径 27.3 器高 7.7	—	—	口縁端部内外面：ヨコナデ 外面：一次調整 タテハケ(7本/cm) 二次調整 ヨコハケ(6～8本/cm) 内面：指ナデ 粘土紐の継ぎ目が残る	良	外面：淡橙色 内面：淡橙色	土師質	スカシの被覆 Cタイプ 小型
8	埴輪棺2	口径 27.5 器高 34.2	三角形	—	口縁端部内外面：ヨコナデ 外面：一次調整 タテハケ(7～8本/cm) 二次調整 Bd種ヨコハケ(7本/cm) 内面：指ナデ	やや粗	外面：黄褐色 内面：乳黄褐色	土師質	棺身 口縁部に円形の判突 口縁部から2・3段目にへら記号 Cタイプ 小型
9	埴輪棺2	口径 49.9 器高 65.3	台形	—	口縁端部内外面：ヨコナデ 外面：一次調整 斜方向の指ナデ 二次調整 Bd種ヨコハケ(6本/cm) 内面：指ナデ 粘土紐の継ぎ目が顕著に残る	やや粗	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	土師質	棺身 Eタイプ 中型
10	埴輪棺2	口径 26.0 器高 28.1	偏平な台形	—	口縁端部内外面：ヨコナデ 外面：一次調整 タテハケ(5～6本/cm) 二次調整 Bd種ヨコハケ(5～6本/cm) 内面：指ナデ	良	外面：橙色 内面：橙色	土師質	小口の閉塞 口縁部に円形の判突 Cタイプ 小型
11	埴輪棺2	口径 23.6 器高 29.7	台形	—	口縁端部内外面：ヨコナデ 外面：二次調整 Bd種ヨコハケ(5～6本/cm) 内面：指ナデ 粘土紐の継ぎ目が残る	やや粗	外面：橙色 内面：橙色	土師質	スカシの被覆 Cタイプ 小型
12	埴輪棺2	口径 30.9 底径 20.5 器高 58.6	偏平な台形	あり	口縁端部内外面：ヨコナデ 外面：一次調整 タテハケ(10本/cm) 基底部外面：板状工具による押圧 内面：指ナデ 粘土紐の継ぎ目が残る	やや粗	外面：褐橙色 内面：黄橙色	土師質	棺身 Bαタイプ 小型
15	埴輪棺2	口径 24.8 器高 12.6	偏平な台形	—	口縁端部内外面：ヨコナデ 外面：一次調整 タテハケ(10本/cm) 内面：指ナデ	良	外面：橙色 内面：乳橙色	土師質	スカシの被覆 Bタイプ 小型
16	埴輪棺2	口径 24.6 器高 18.2	偏平な台形	—	口縁端部内外面：ヨコナデ 外面：一次調整 タテハケ(8本/cm) 口縁部内面：タテハケ(8本/cm) 内面：指ナデ	良	外面：黄橙色 内面：黄褐色	土師質	小口の閉塞 口縁部外面にへら記号 Bタイプ 小型
17	埴輪棺2	口径 20.9 器高 24.6	偏平な台形	—	口縁端部内外面：ヨコナデ 外面：一次調整 タテハケ(9～11本/cm) 口縁部内面：タテハケ(9～11本/cm) 内面：指ナデ 粘土紐の継ぎ目が残る	良	外面：橙色 内面：橙色	土師質	小口の閉塞 Bタイプ 小型
18	埴輪棺2	器高 13.9	偏平な台形	—	外面：一次調整 タテハケ(5～7本/cm) 内面：指ナデ	良	外面：橙色 内面：乳橙色	土師質	スカシの被覆 Bタイプ 小型
19	埴輪棺2	口径 42.8 器高 12.0	台形	—	口縁端部内外面：ヨコナデ 外面：タテハケ(8～17本/cm) 内面：ハケメ(6～16本/cm)	良	外面：橙色 内面：橙色	土師質	スカシの被覆 朝顔形埴輪
20	埴輪棺2	口径 35.9 器高 10.4	台形	—	口縁端部内外面：ヨコナデ 外面：タテハケ(8本/cm) 内面：ハケメ(8本/cm)	やや良	外面：橙褐色 内面：橙褐色	土師質	小口の閉塞 朝顔形埴輪
21	埴輪棺2	器高 21.1	偏平な台形	—	外面：タテハケ(7本/cm) 内面：指ナデ 粘土紐の継ぎ目が残る	やや良	外面：橙褐色 内面：橙褐色	土師質	外面にへら記号 スカシの被覆 朝顔形埴輪
22	埴輪2	器高 27.4	偏平な台形	-	外面：一次調整 タテハケ(7～20本/cm) 内面：指ナデ	良	外面：橙色 内面：橙色	土師質	スカシの被覆 Bタイプ 小型
23	埴輪2	器高 24.35	偏平な台形	—	外面：一次調整 タテハケ(6～7本/cm) 内面：上半 ハケメ(6本/cm) 下半 指ナデ	やや良	外面：橙色 内面：橙色	土師質	小口の被覆 Bタイプ 小型

表 6 埴輪棺1・2 円筒埴輪・朝顔形埴輪観察表

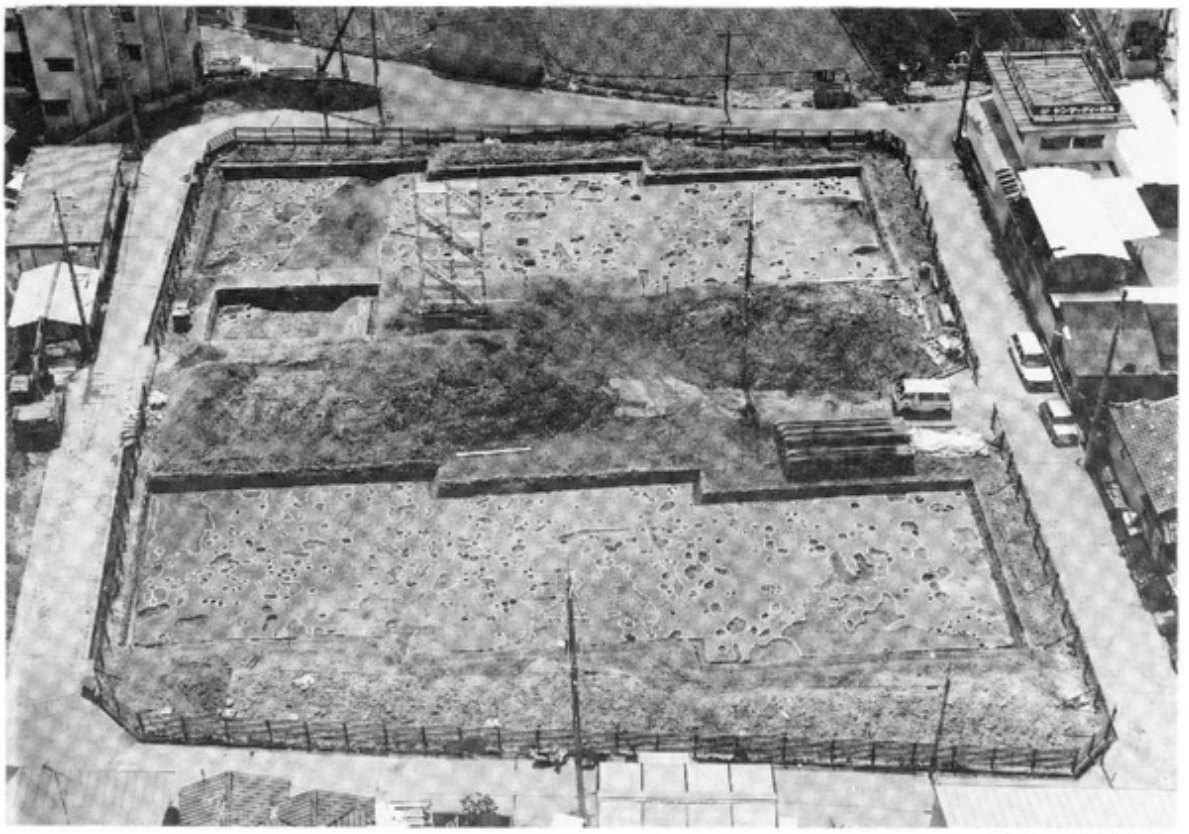
図　　版

甲田南遺跡周辺航空写真（南から）

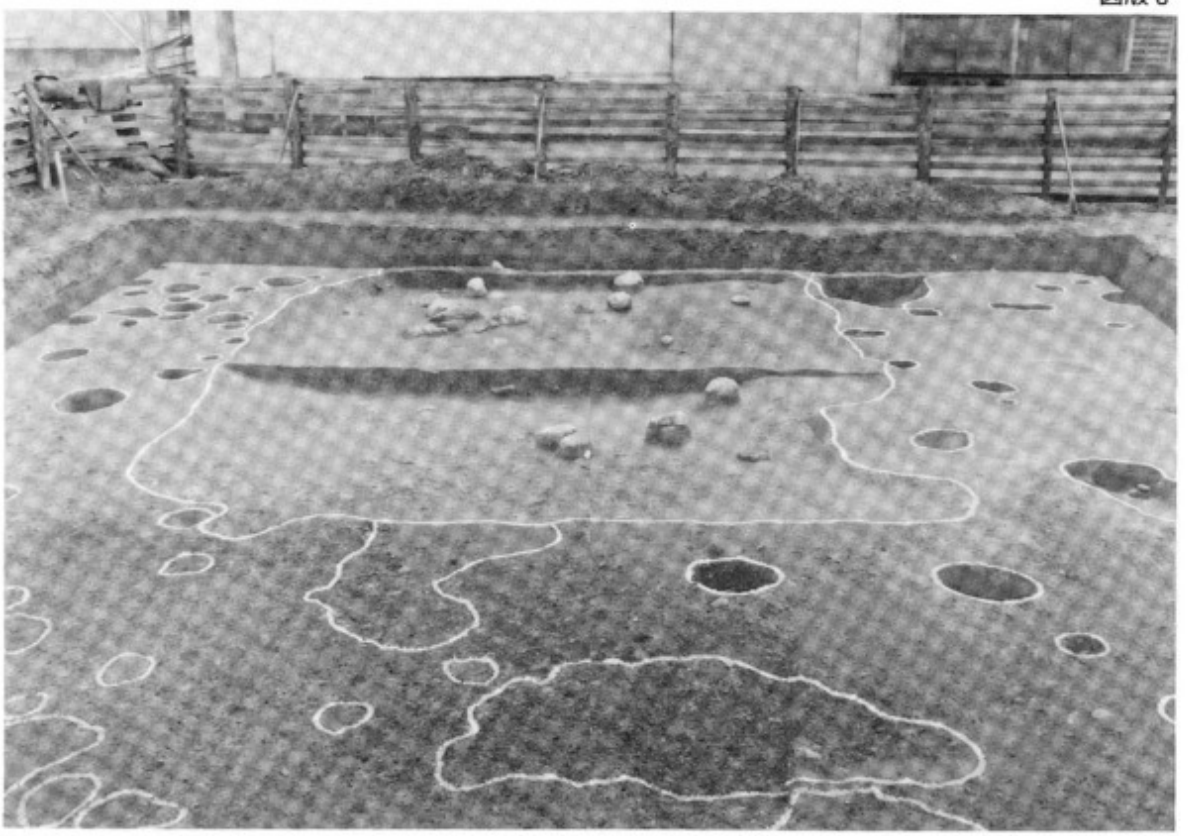
同上（西から）



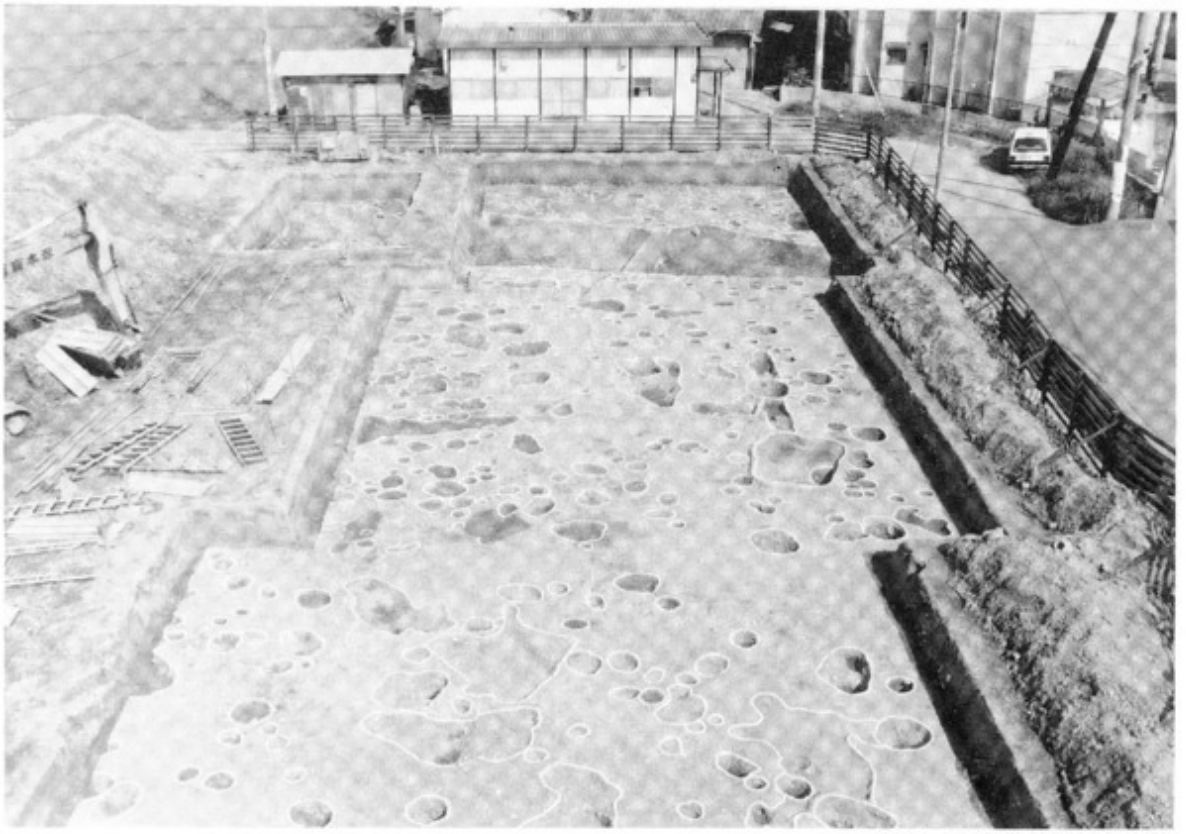
91年度調査地全景（西から）



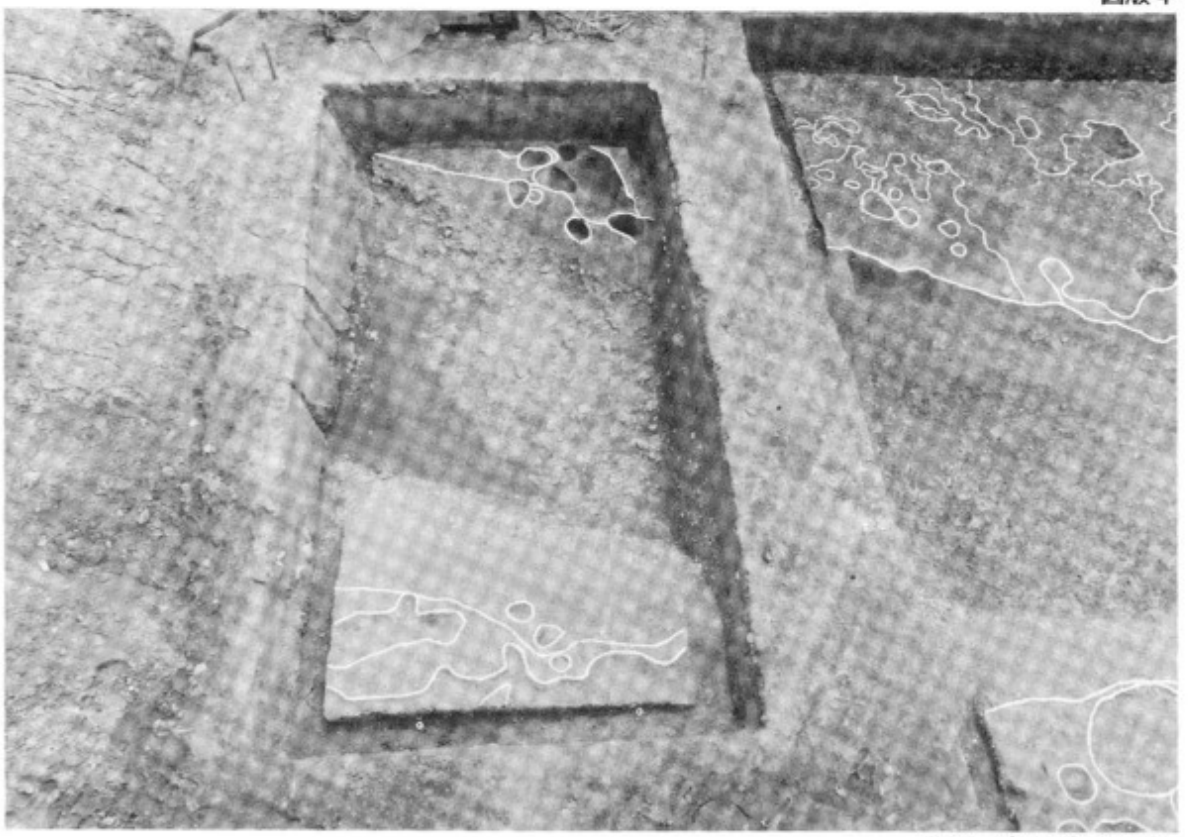
同上（北から）



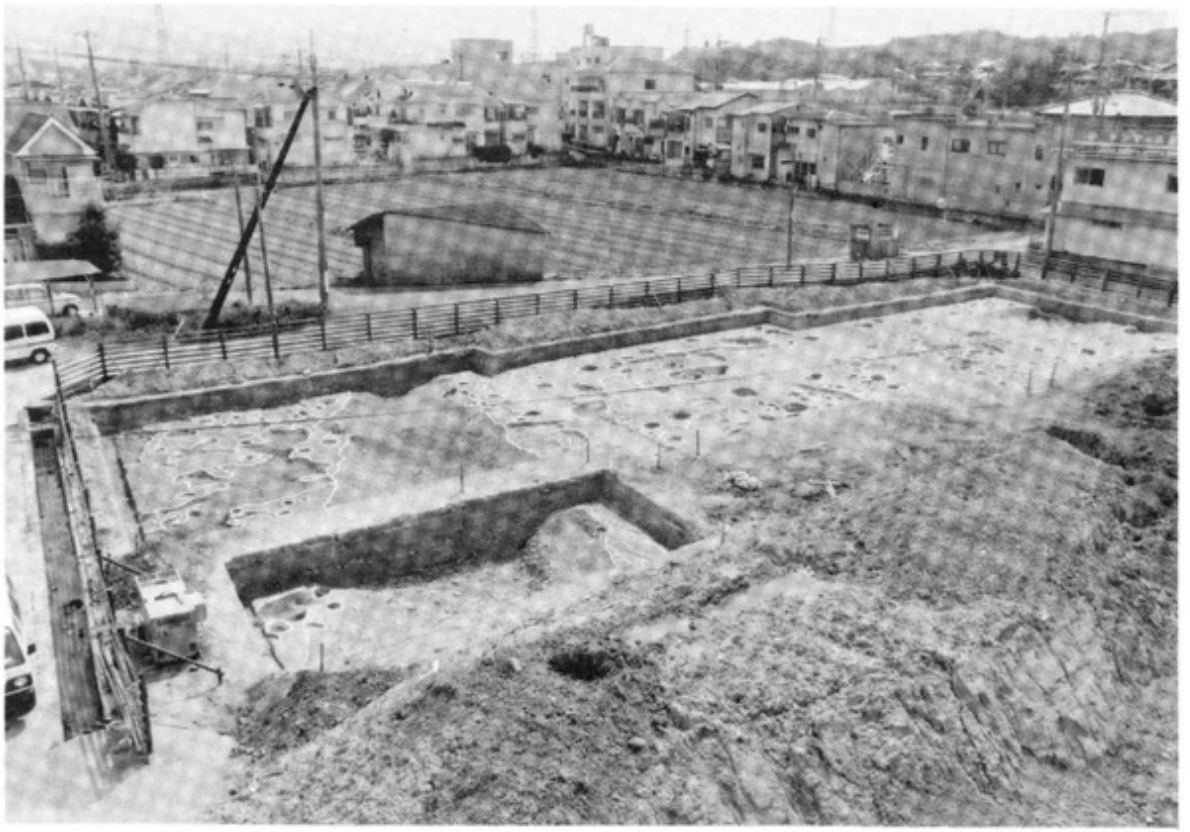
Ⅰ区　西半全景（東から）



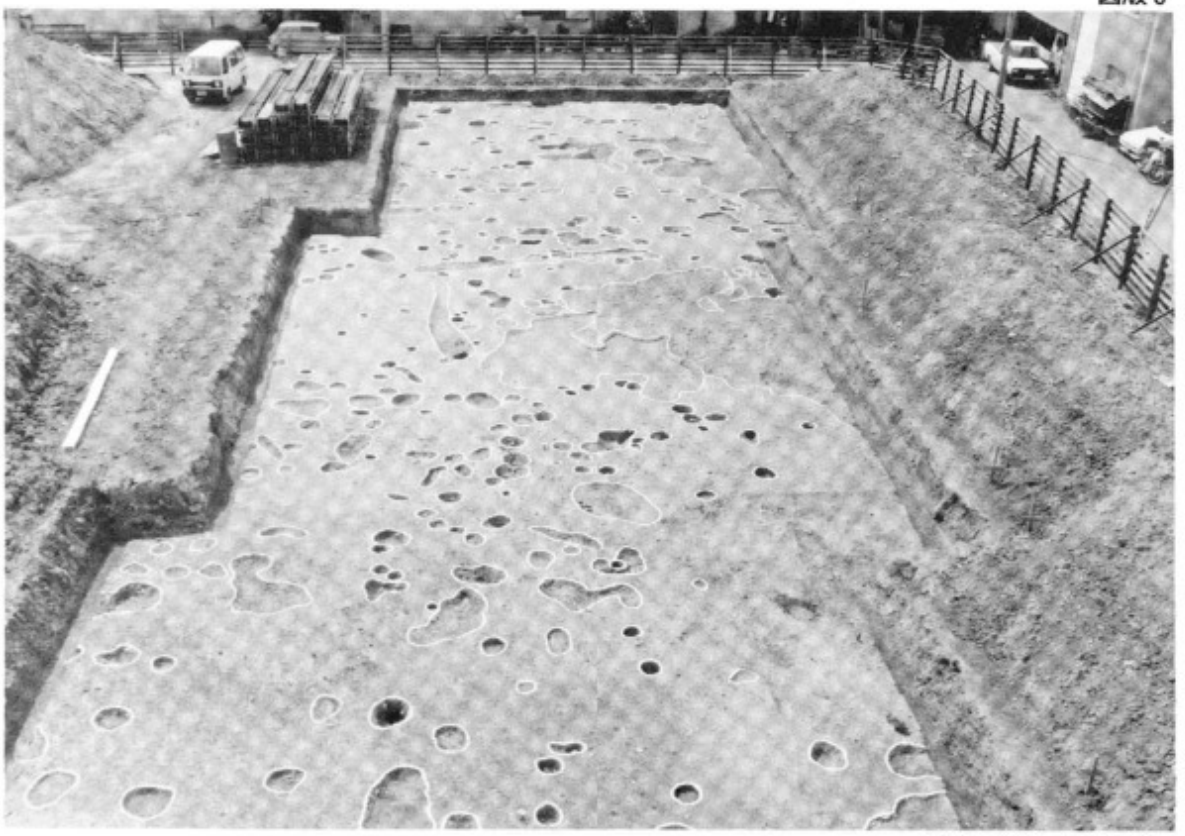
Ⅰ区　東半全景（西から）



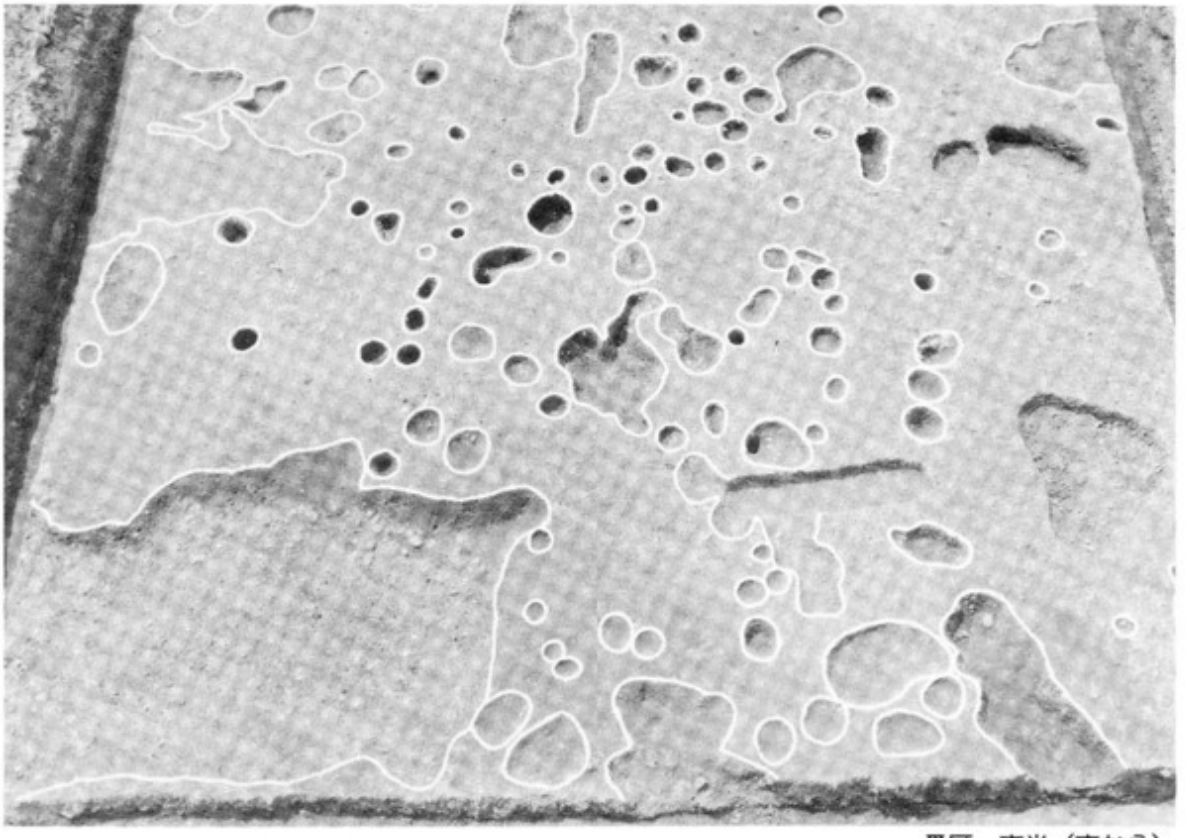
Ⅱ区　全景（西から）



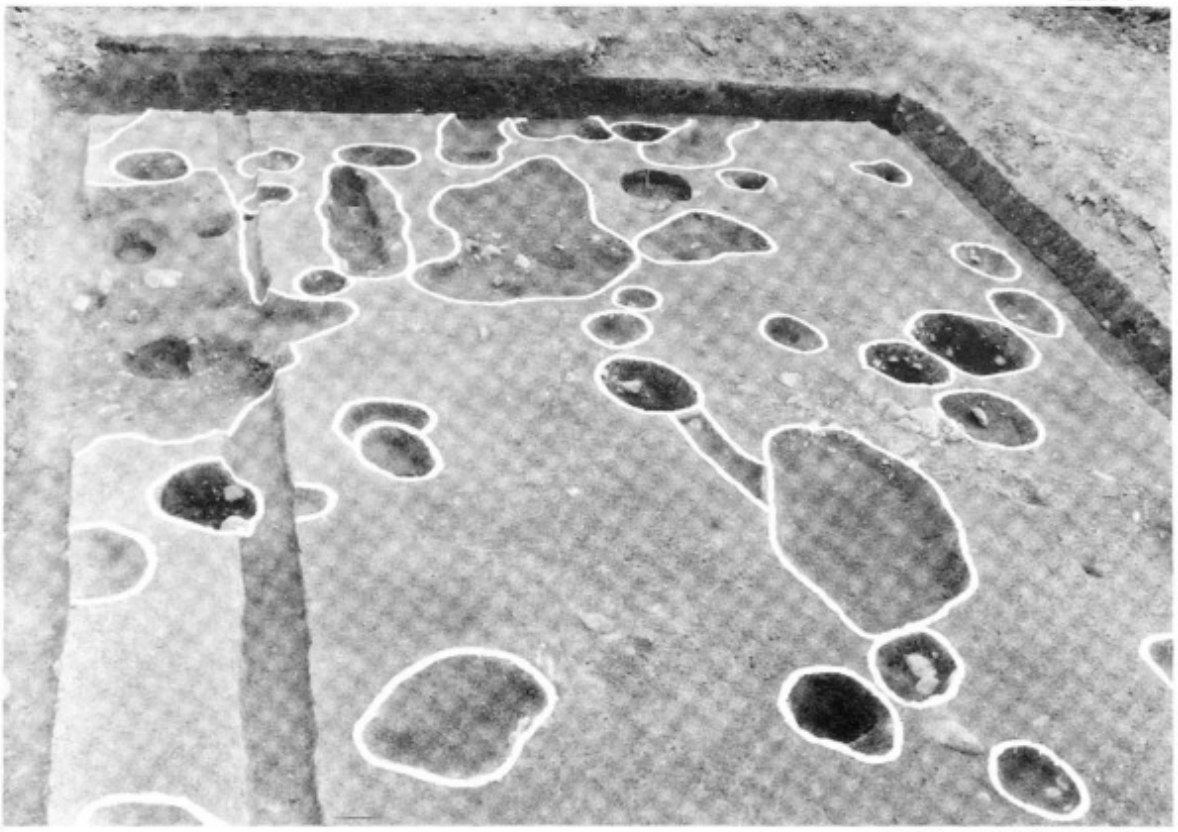
同上（北から）



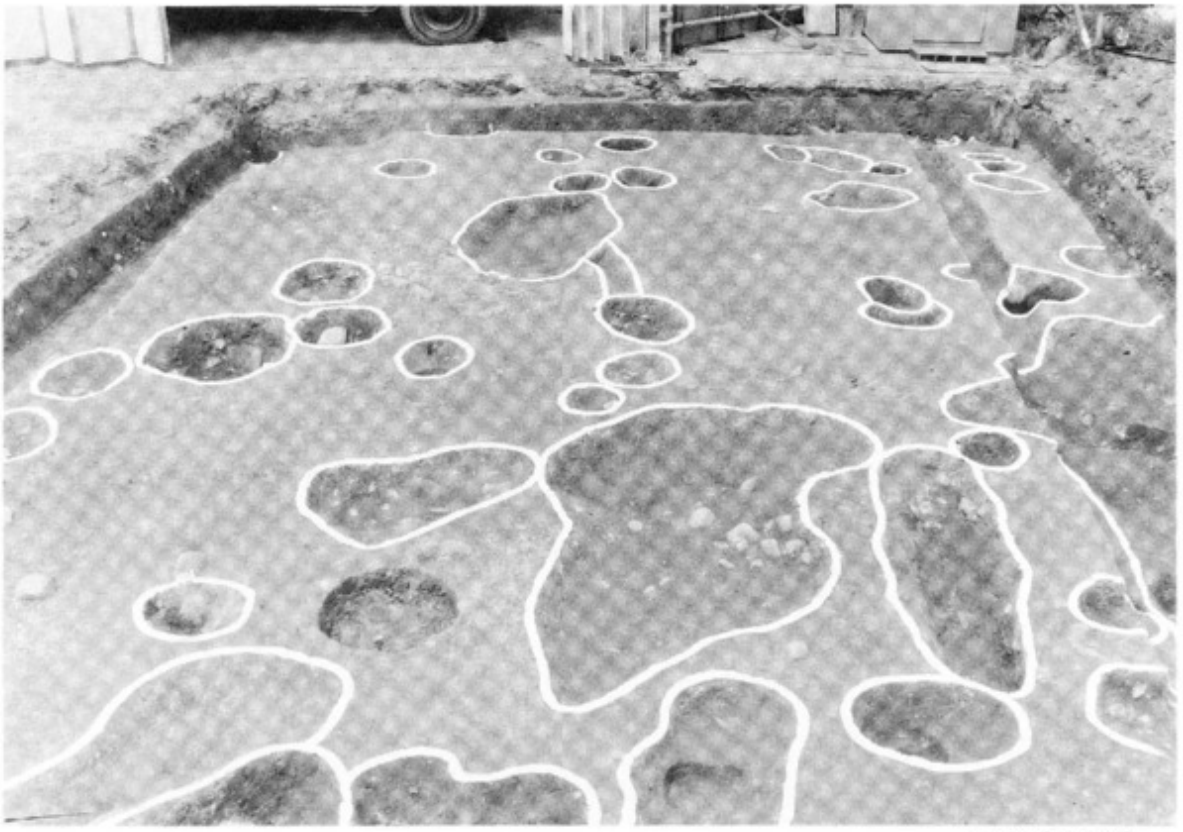
Ⅲ区　西半（東から）



Ⅲ区　東半（東から）

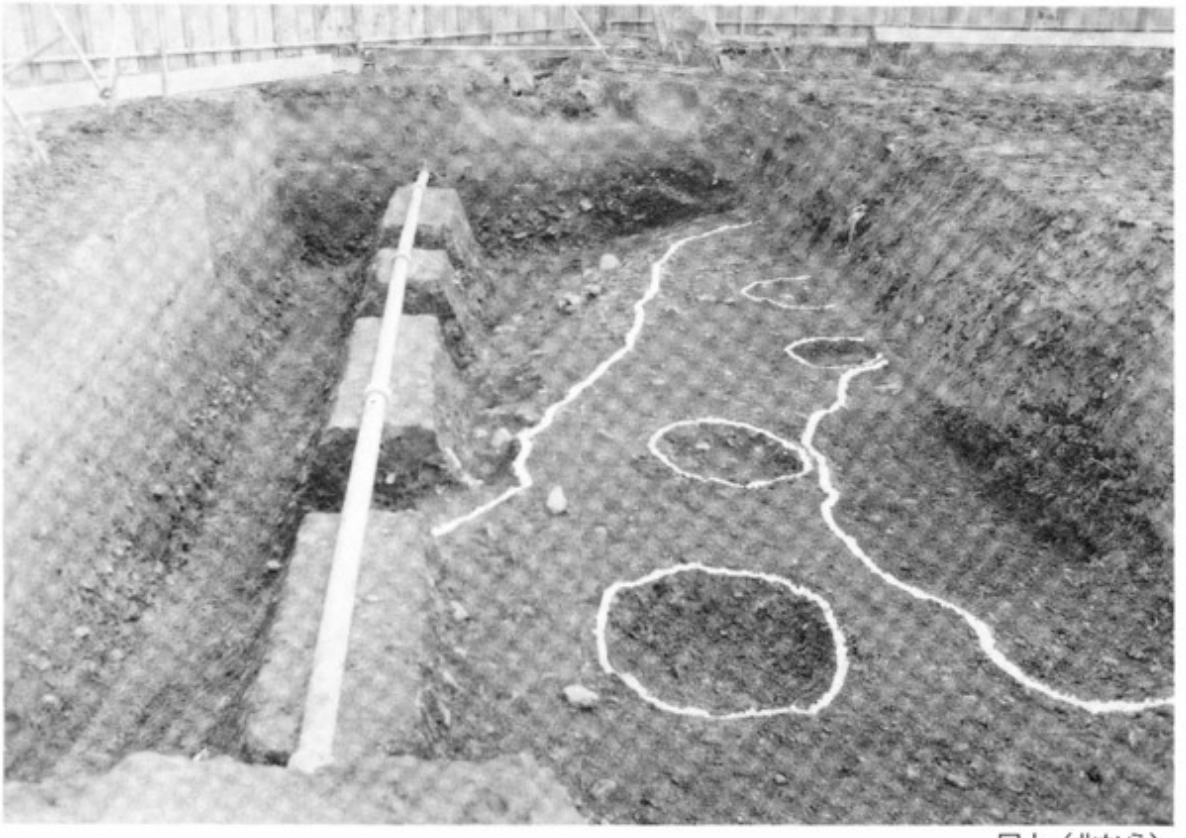


Ⅳ区　全景（西から）

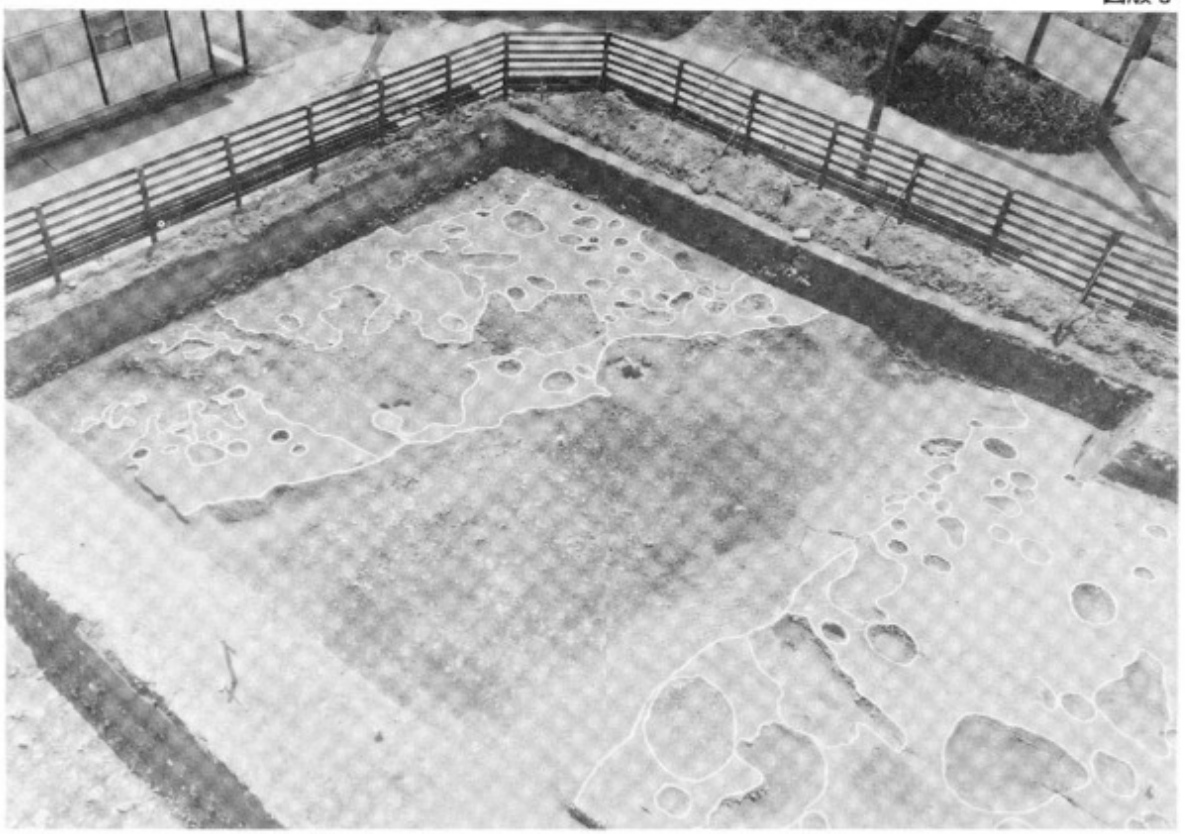


同上（東から）

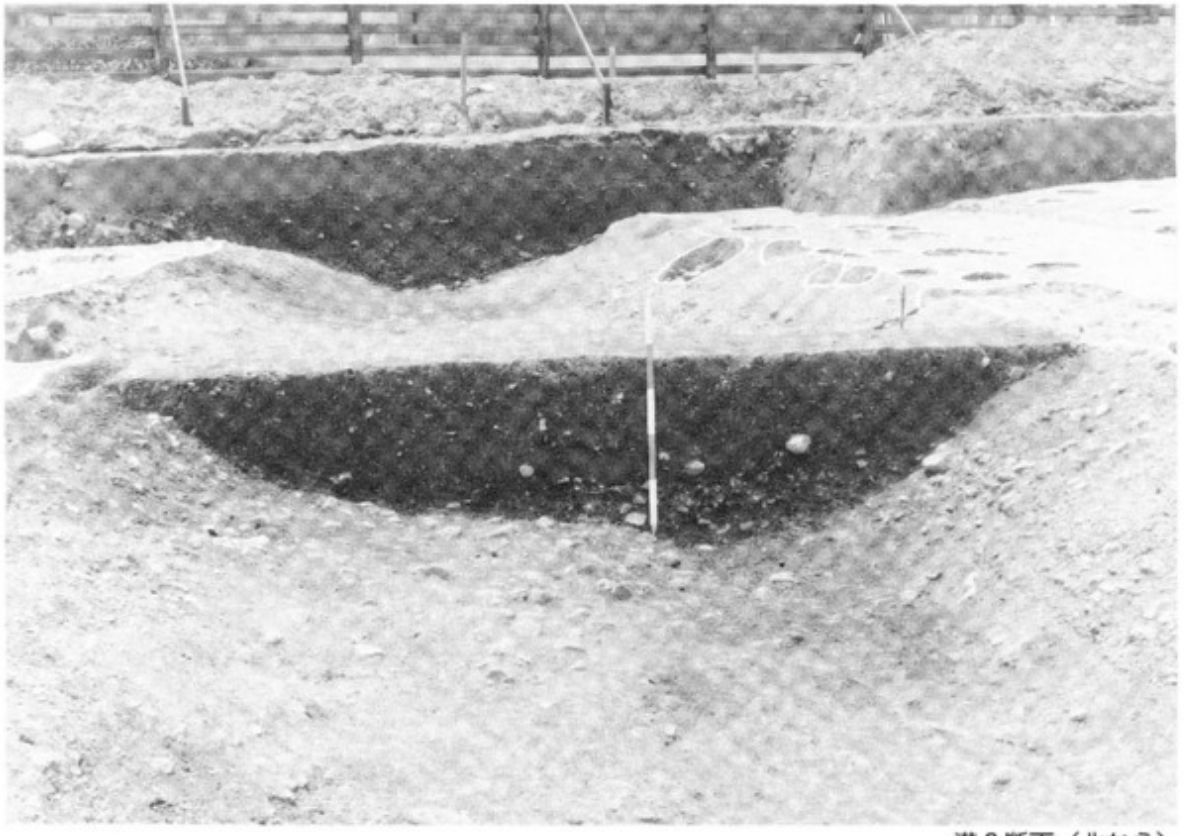
V区　全景（南から）



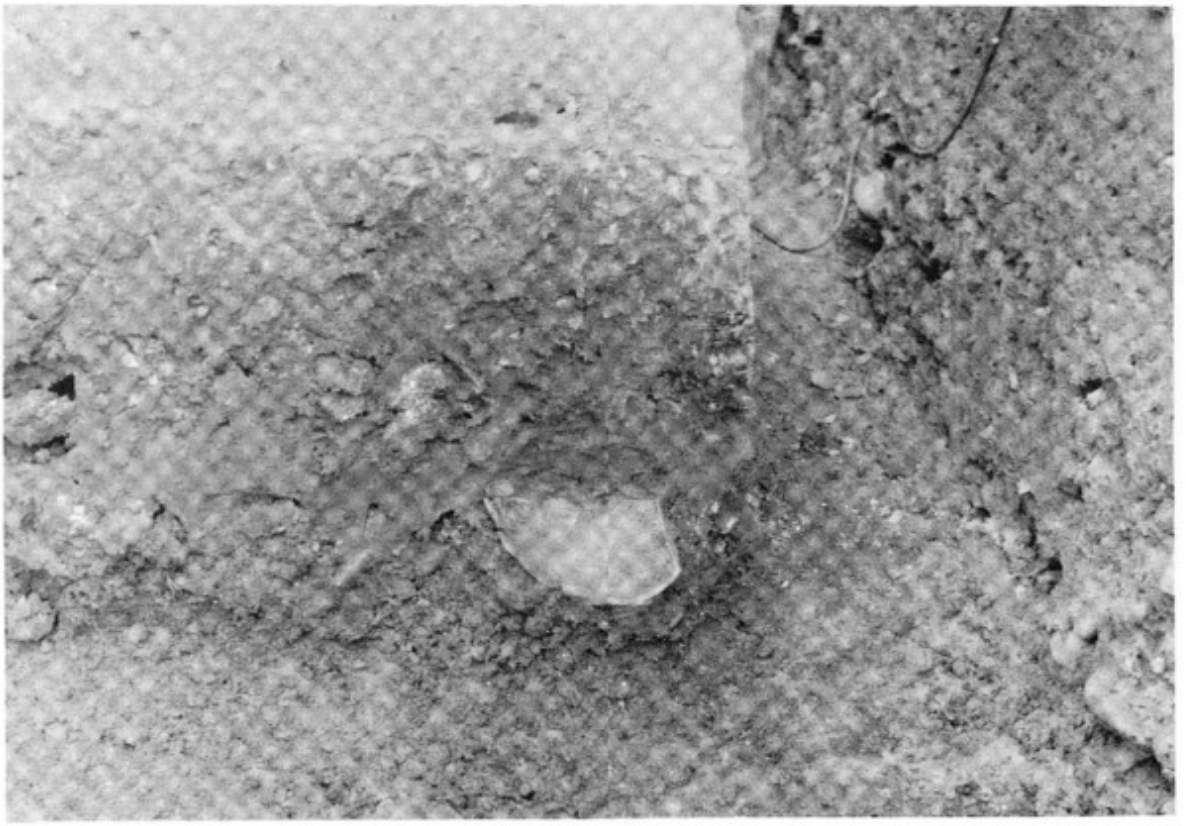
同上（北から）



溝 2（西北から）



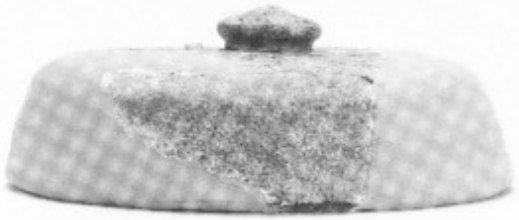
溝 2 断面（北から）



溝 1　遺物出土状況（西から）

落ち込み 1　遺物出土状況（北から）

38

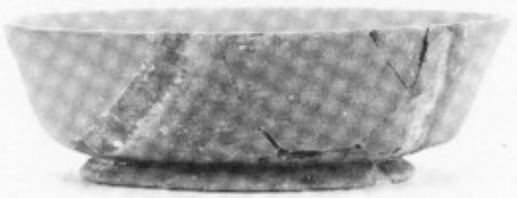


15

37

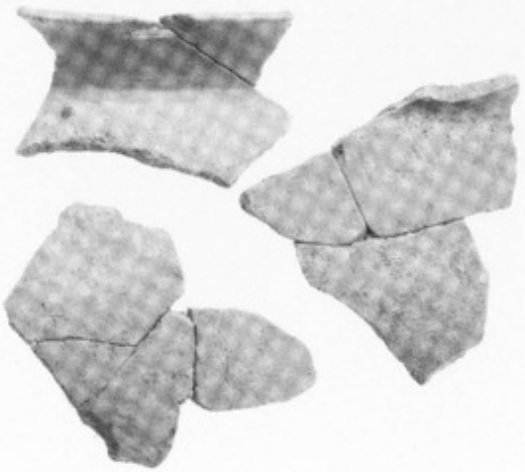
7

8

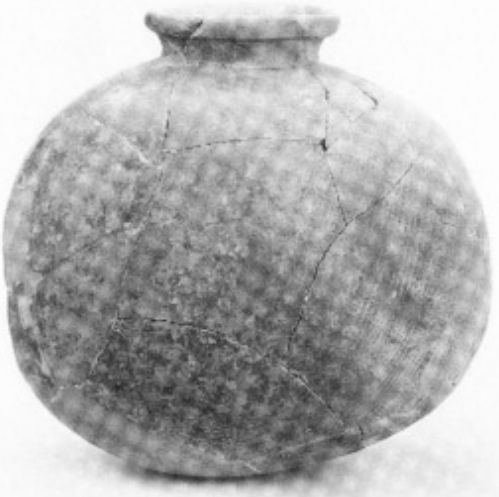


14

16



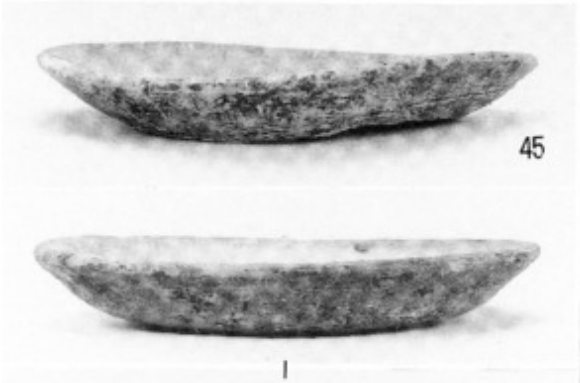
11



21

42

溝1・2　出土遺物



45

44

48

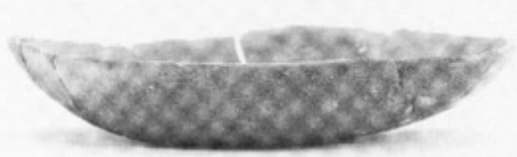
落ち込み1　出土遺物

54

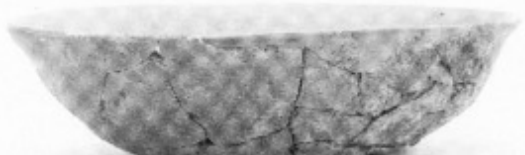
56

57

58


64

65


83

66

69

70

71

土壙2・ピット497　出土遺物

120

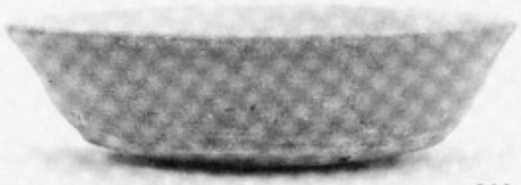
113

115

108

102

109


103

98

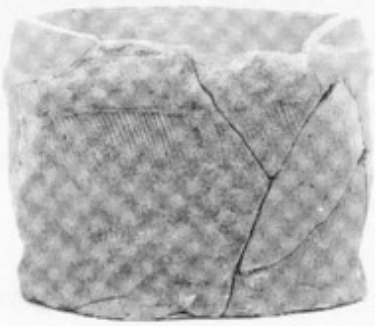
121

包含層 出土遺物

131

127

128



129

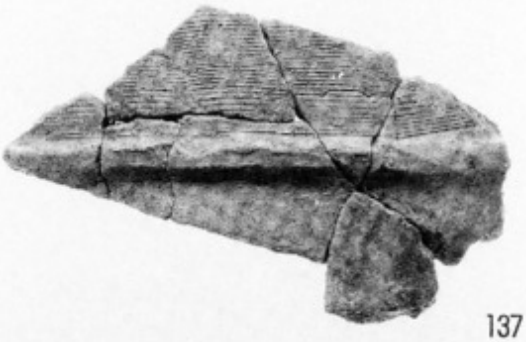
126

132

溝1　出土円筒埴輪

134

136

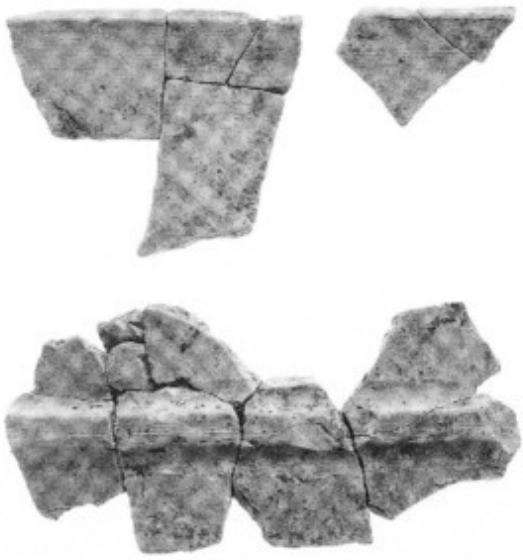


137

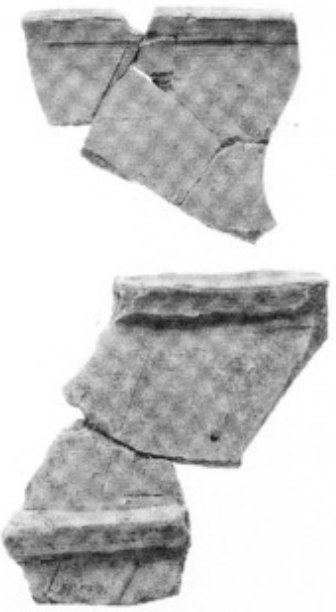
135

138

溝1　出土円筒埴輪



142



144

143

140

溝2　出土円筒埴輪

2

5

3

6

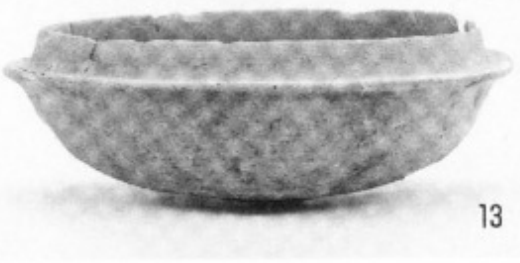
4

1

9

8

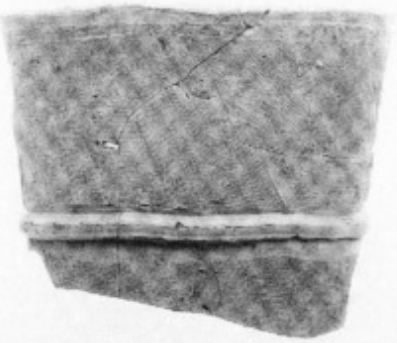
12


13

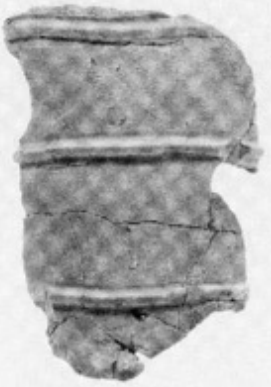
15

11

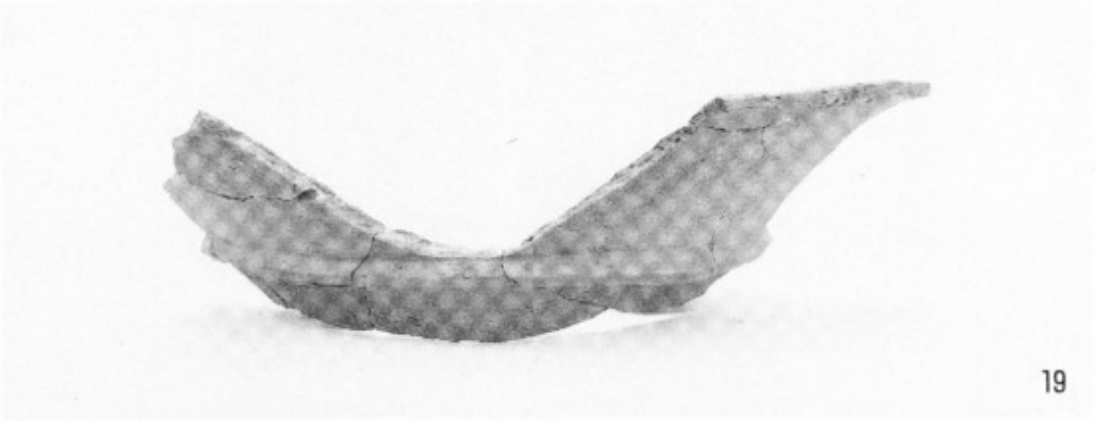
10


16

17


22

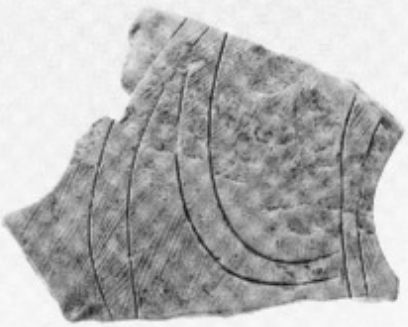
23

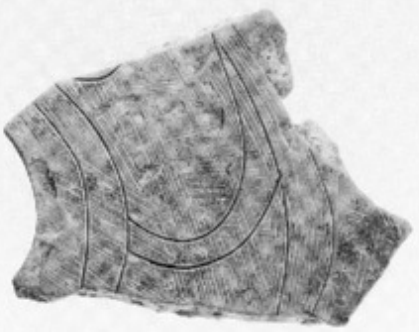


19

20

21





14

付図　遺構平面図

富田林市埋蔵文化財調査報告 25

発行年月日　１９９４年3月３１日
編集・発行　富田林市
住　　所　富田林市常盤町１番１号
印　　刷　汐の宮綜合印刷